

## 第Ⅳ部 EUにおける労働災害発生状況について

### Ⅳ―1 労働災害発生状況の全体像について

#### Ⅳ―1―1 “Eurostat”について

“Eurostat”は、EU（欧州連合）の統計事務所で、ルクセンブルグに所在している。その使命は、ヨーロッパに関する高品質の主導的な統計の供給者としての役割を果たすことであり、その法的根拠としては、the Treaty establishing the European Community（ヨーロッパ共同体設立条約）に、とりわけその第 285 条第 1 項である。

これらの統計を作成するためには、Eurostat は、ヨーロッパ統計システム内の主要なパートナーである各国の統計事務所、社会保障機関（労働者災害補償機関又は同等の機関）及び EU 加盟各国の労働主務省と連携している。

1990 年以来、Eurostat は、欧州全域で職場における災害統計の統一性をもたらす調和計画に関して、欧州連合加盟国と作業してきた。加盟各国における産業の背景が異なっていることを考慮に入れて、Eurostat は、標準化された事故発生率をも公表している。

#### Ⅳ―1―2 労働安全衛生（労働災害）関係統計の概要

ヨーロッパでの職場における健康及び安全に関する統計は、労働災害統計、作業関連健康問題及びリスクファクターへのばく露に関するものとして、Eurostat では作成されており、EU 加盟国（2020 年 1 月 30 日現在では英国を含めて 28 カ国。同年 1 月 31 日に英国が EU を離脱したので、現時点（2020 年 10 月現在）では 27 カ国）全体及び個別の加盟国の労働災害発生状況は、加盟各国の報告に基づく Eurostat 中の“Population and social conditions”としてのウェブサイトに含まれている“Health(hlth)”にある“Health and safety at work(hsw)：掲載されているウェブサイトのアドレス：<https://ec.europa.eu/eurostat/data/database>）に集約されている。

（資料作成者注：この“Health and safety at work(hsw)”の統計へのアクセスの仕方、その使い方等については、本稿のⅣ―2 で別に説明します。）

現時点（2020 年 10 月 1 日現在）で公表されている Eurostat のウェブサイトで公表されている最新の包括的な統計は、Accidents at work (ESAW, 2008, onwards) (hsw\_acc\_work)である。

しかしながら、EU 加盟各国の労働災害統計（職場における労働災害及び健康問題に関するものを含む。）については、EU 加盟各国のフォーカルポイントとしてのウェブサイト(EU-OSHA のウェブサイト中に表示されている <https://osha.europa.eu/en/about-eu-osha/national-focal-points/focal-points-index>) を通じて、それぞれの国にアクセスする必要がある。

## IV—2 Eurostat の使い方

（資料作成者注：以下の記述は、公益財団法人 産業医学振興財団発行の「産業医学レビュー、2020 年 5 月号の掲載論文「国際労働安全衛生統計の調べ方、見るべきポイント、参考になる情報ソース等について」（執筆者：唐沢 正義。この資料の作成者である。）から抜粋して引用している。）

### IV—2—1 関連するウェブサイトのアドレスへのアクセス

Eurostat の健康及び安全に関する統計は、次のウェブサイトアドレスからアクセスすることができる。

- ① “Data Navigation tree” (<https://ec.europa.eu/eurostat/data/database>) のうちから、“Population and social conditions” を選び、次に Health(hlth)を選択する。
- ② 次に、Health and safety at work(hsw)を選択する。
- ③ 次に、Accidents at work (ESAW, 2008, onwards) (hsw\_acc\_work)を選択する。
- ④ 以下、次のデータベース（図 1）から求めるものを選択する。

Database	
Health and safety at work (hsw)	
Accidents at work (ESAW, 2008 onwards) (hsw_acc_work)	(訳者注：2008 年から現在まで。この項目をクリックして、次の Details by NACE Rev. 2 activity (2008 onwards) (hsw_n2)にアクセスするのが最も効果的であろう。)
Main indicators (hsw_mi)	

Details by NACE Rev. 2 activity (2008 onwards) (hsw_n2)
Causes and circumstances of accidents at work (ESAW Phase III) (hsw_ph3)
Accidents at work (ESAW) – until 2007 (hsw_acc7_work)
Accidents at work and other work-related health problems (source LFS) (hsw_apex)
Work related health problems and accidental injuries – LFS 1999 (hsw_inj_pb)
Accidents at work and other work-related health problems (source LFS) (hsw_apex)
Work related health problems and accidental injuries – LFS 1999 (hsw_inj_pb)

図 1 Eurostat の健康及び安全に関する統計のデータベース一覧

IV—2—2 この Details by NACE Rev. 2 activity (2008 onwards) (hsw\_n2)のさらに細分化された項目（いずれも Zip になっている。）にアクセスする方法

次の項目（図 2）に導かれるので、これらのうちの自分が関心のある項目を選択してクリックする。

Non-fatal accidents at work by NACE Rev. 2 activity and sex (hsw_n2_01)
Fatal Accidents at work by NACE Rev. 2 activity (hsw_n2_02)
Non-fatal accidents at work by NACE Rev. 2 activity and age (hsw_n2_03)
Accidents at work by days lost and NACE Rev. 2 activity (hsw_n2_04)
Accidents at work by NACE Rev. 2 activity and size of enterprise (hsw_n2_05)
Accidents at work by NACE Rev. 2 activity and part of body injured (hsw_n2_06)
Accidents at work by NACE Rev. 2 activity and type of injury (hsw_n2_07)

図 2 Details by NACE Rev. 2 activity (2008 onwards) (hsw\_n2)の細分化項目

(筆者注：上記(図2)の英文の項目について、次のとおり英語原文、括弧書きにはその日本語訳を記載した。)

- Non-fatal accidents at work by NACE Rev. 2 activity and sex (欧州標準産業分類改訂第2版(これは国際連合の国際標準産業分類改訂第4版を踏まえたEUの標準産業分類改訂第2版である。以下同じ。)の産業別(以下単に「産業別」という。)及び性別の職場での非致命的災害(休業4暦日以上のもものが対象であって、通勤災害は含まれない。また、公務部門及び道路交通を含む労働の過程での移動中における労働災害を含む。以下同じ。))
- Fatal Accidents at work by NACE Rev. 2 activity (産業別の職場での死亡災害(通勤災害を除き、公務部門及び道路交通を含む労働の過程での移動中における労働災害を含む。以下同じ。))
- Non-fatal accidents at work by NACE Rev. 2 activity and age (産業別及び年齢別の職場での非致命的災害)
- Accidents at work by days lost and NACE Rev. 2 activity (産業別の職場での災害による労働損失日数)
- Accidents at work by NACE Rev. 2 activity and size of enterprise (産業別及び企業の規模別の職場での災害)
- Accidents at work by NACE Rev. 2 activity and part of body injured (産業別及び傷害を受けた部位別の職場での災害) 出典
- Accidents at work by NACE Rev. 2 activity and type of injury (産業別及び傷害の型別の職場での災害)

なお、European statistics on accidents at work (ESAW) では、急性の中毒以外の業務上疾病に関する統計は、見当たらない。このことは、European Statistics on Accidents at Work(ESAW) Summary methodology 2013 edition(筆者注：現在でも有効なものである。)の Annex1: Classification, Type of Injury において、次の図3のとおり示されているように、事実上は、ほぼ急性の中毒やこれらに類する injury に限定されていると考えられる。

070	Poisonings and infections
071	Acute poisonings
072	Acute infections
079	Other types of poisonings and infections

<b>090</b>	<b>Effects of sound, vibration and pressure</b>
091	Acute hearing losses
092	Effects of pressure (barotrauma)
099	Other effects of sound, vibration and pressure
<b>100</b>	<b>Effects of temperature extremes, light and radiation</b>
101	Heat and sunstroke
102	Effects of radiation (non-thermal)
103	Effects of reduced temperature
109	Other effects of temperature extremes, light and radiation

図3 傷害のクラス分けとタイプ 出典：European Statistics on Accidents at Work(ESAW) Summary methodology 2013 edition

#### IV—2—3 EUROSTAT データベースの項目をさらに絞り込む方法

次の項目をさらにクリックして、update をクリックすれば、求めているデータをダウンロードできるウェブサイトへ導かれる。

- TIME（対象年）
- Classification of economic activities NACE Rev.4（経済活動別分類、産業別）
- Geo（地理的分類—地域又は国別のコード）
- Unit of measure（計量の単位）
  - Number（件数又は人数）
  - Incidence rate（労働者 10 万人当たりの発生件数（人数））

なお、このデータベースがダウンロードされてパソコン上に表示される画像をこの原稿上に再現することは難しいので、実際に自らアクセスされることをお勧めする。

#### IV—2—4 2020 年 1 月末日の英国の EU 離脱の Eurostat への影響

英国は、2020 年 1 月 31 日限りで EU を離脱したので、Eurostat の事務局は関連するウェブサイト (<https://ec.europa.eu/eurostat/help/faq/brexit>) で今後における英国に関する統計の取扱いを次のとおりとすることを公表している。

英国のデータ

2020 年末までの移行期間では、英国は引き続き Eurostat にデータを送付し続けるので、これらの英国のデータは Eurostat のデータベースに収載され、利用者は利用可能である。

出版物においては、Eurostat は、今後英国のデータを提供するが、EU 加盟 27 か国から分離したものとして取り扱う。

#### IV—2—5 Eurostat の著作権について

次の Eurostat のウェブサイトに記載されているとおり、他に言及されていない限り、出典が明記されていれば、認められる。原文の再生又は使用及びマルチメディア情報のために優先的な許可が取得されなければならない場合には、上記の一般原則は取り消され、使用に関しての制限が明確に示されなければならない、とされている。

[http://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php/Statistics\\_Explained:General\\_disclaimer](http://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php/Statistics_Explained:General_disclaimer)

#### Copyright Notice

© European Union, 1995-2013

Reproduction is authorised, provided the source is acknowledged, save where otherwise stated. Where prior permission must be

obtained for the reproduction or use of textual and multimedia information (sound, images, software, etc.), such permission shall cancel the above-mentioned general permission and shall clearly indicate any restrictions on use.

そこで、本稿においては、以下に、上記の“**Accidents at work statistics**”のうち、主要な統計である Table1(表 1)及び Figure1~6（図 1~6. これらに関連する統計数字が掲載されている表を含む。）を抜粋し、引用して紹介することにする。

なお、EUOSTAT の健康分野の統計としては、“Health statistics introduced、ウェブサイト：

[http://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php/Health\\_statistics\\_introduced](http://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php/Health_statistics_introduced)

があるが、その内容は、公衆衛生が主体となっているので、本稿では取り上げないこととした。

# IV—3—1 Eurostat hsw の 2017 年を中心とする労働災害統計（説明付き）の「英語原文—日本語仮訳」

[原典の所在]: [https://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php?title=Accidents\\_at\\_work\\_statistics#Number\\_of\\_accidents](https://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php?title=Accidents_at_work_statistics#Number_of_accidents)

[原典の名称]: Eurostat Statistics explained, **Accidents at work statistics**）（ユーロスタット、**職場での災害統計**）（*2017 年を中心とする労働災害統計*）

原典の英語原文	左欄の日本語仮訳
Highlights	ハイライト
There were 3 552 fatal accidents at work in the EU-28 during 2017, a decrease of 36 deaths compared with the year before.	2017 年に EU-28 か国で発生した労働中の死亡事故は 3,552 件で、前年に比べて 36 件減少した。
In 2017, one fifth of all fatal accidents at work in the EU-28 took place within the construction sector.	2017 年には、EU-28 におけるすべての業務上の死亡事故の 5 分の 1 が建設部門で発生した。
In 2017, almost three quarters of all accidents at work in the EU-28 concerned: wounds and superficial injuries; dislocations, sprains and strains; or concussion and internal injuries.	2017 年には、EU-28 か国の労働災害の 4 分の 3 近くが、創傷及び表面的な損傷、脱臼、捻挫、緊張又は脳震盪及び内部損傷に関係していた。

<b>Fatal accidents at work, 2017</b>	<b>工作中的の死亡事故、2017 年</b>
This article presents a set of main statistical findings in relation to indicators concerning non-fatal and fatal accidents at work in the	この論文では、欧州労働災害統計（ESAW）の行政データ収集の実行の枠組みの中で欧州連合（EU）における非致命的及び死亡労働災害に関する指標



<p>European Union (EU); the statistics presented have been collected within the framework of the European statistics on accidents at work (ESAW) administrative data collection exercise.</p> <p>An accident at work is defined in ESAW methodology as a discrete occurrence during the course of work which leads to physical or mental harm. Fatal accidents at work are those that lead to the death of the victim within one year of the accident taking place. Non-fatal accidents at work are defined as those that imply at least four full calendar days of absence from work (they are sometimes also called ‘serious accidents at work’). Non-fatal accidents at work may result in a considerable number of working days being lost and often involve considerable harm for the workers concerned and their families, they have the potential to force people, for example, to live with a permanent disability, to leave the labour market, or to change job.</p>	<p>に関連した主要な統計結果を紹介する。</p> <p>労働災害とは、ESAW の方法論では、労働中に発生し、身体的又は精神的な危害をもたらす別々の事故と定義されています。業務上の死亡事故とは、事故が発生してから 1 年以内に被害者が死亡した事故のことである。非致死性労働災害とは、少なくとも 4 日間の完全な休業を意味するものと定義されています（「重大な労働災害」と呼ばれることもあります）。非致死性労働災害は、かなりの数の労働日数が失われ、関係する労働者とその家族に多大な損害をもたらすことが多く、例えば、永久的な障害を抱えたまま生活したり、労働市場から離れたり、転職したりすることを余儀なくされる可能性があります。</p>
---	---

<p><b>Number of accidents</b></p> <p>In 2017, there were just over 3.3 million non-fatal accidents that resulted in at least four calendar days of absence from work and 3 552 fatal accidents in the EU-28 (see Table 1), a ratio of approximately 942 non-fatal accidents for every fatal</p>	<p><b>災害件数</b></p> <p>2017 年、EU-28 か国では、少なくとも 4 暦日以上の休業に至った非死亡事故が 330 万件強、死亡事故が 3, 552 件（表 1 参照）であり、死亡事故 1 件当たりの非死亡事故の割合は約 942 件であった。EU-28 では、2016 年から 2017</p>
---	---

<p>accident. There was an increase in the total number of non-fatal accidents at work in the EU-28 between 2016 and 2017, some 4 574 more (equivalent to growth of 0.1 %). By contrast, there were 36 fewer fatal accidents at work in the EU-28 during 2017 when compared with a year before (equivalent to a decrease of 1 %).</p> <p>Men were considerably more likely than women to have an accident at work. In 2017, two out of every three (66.8 %) non-fatal accidents at work in the EU-28 involved men. One factor that influences these statistics is the different types of work that men and women carry out and the activities in which they work; for example, there are far more accidents in the mining, manufacturing or construction sectors, which tend to be male-dominated. Finally, it is also generally the case that men tend to work on a full-time basis, whereas women are more likely to work on a part-time basis; as such, with women spending a shorter period of time (on average) in the workplace this may also reduce their chances of having an accident.</p>	<p>年の間に労働中の非致死性事故の総数が増加し、約 4,574 件増加した（0.1%の増加に相当）。対照的に、EU-28 か国の 2017 年の労働中の死亡事故は、前年と比較して 36 件減少した（1%の減少に相当）。</p> <p>男性の方が女性よりも労働災害に遭う可能性がかなり高かった。2017 年には、EU-28 の 3 件に 2 件（66.8%）の非致死性労働災害が男性に関係していた。これらの統計に影響を与える要因の 1 つは、男性と女性が行う仕事の種類や活動が異なることである。</p> <p>最後に、一般的に男性はフルタイムで働く傾向があるのに対し、女性はパートタイムで働く傾向があります。</p>
--	--

## Number of non-fatal and fatal accidents at work, 2017

(persons)

	Non-fatal accidents at work involving at least four calendar days of absence from work			Fatal accidents at work	
	Total	Men	Women	Total	
<b>EU-28 (*)</b>	<b>3 344 474</b>	<b>2 232 726</b>	<b>1 023 680</b>	<b>3 552</b>	
Belgium	70 895	49 073	21 822	59	
Bulgaria	2 230	1 503	727	93	
Czechia	45 009	31 057	13 952	95	
Denmark	48 842	29 323	19 035	28	
Germany	878 525	650 012	227 856	430	
Estonia	6 279	4 661	1 618	8	
Ireland	22 125	14 313	7 754	41	
Greece	4 223	3 033	1 190	32	
Spain	453 437	316 604	136 833	317	
France	753 156	416 848	249 533	585	
Croatia	14 164	9 290	4 868	37	
Italy	294 161	213 887	80 274	484	
Cyprus	2 068	1 504	564	2	
Latvia	1 895	1 283	612	21	
Lithuania	3 977	2 521	1 435	33	
Luxembourg	6 684	5 150	1 534	10	
Hungary	25 470	16 261	9 209	80	
Malta	1 846	1 490	356	1	
Netherlands	93 305	55 674	37 631	43	
Austria	63 993	49 817	14 176	96	
Poland	84 388	52 932	31 456	270	
Portugal	135 488	94 277	41 211	140	
Romania	4 491	3 279	1 212	241	
Slovenia	13 288	9 913	3 375	16	
Slovakia	10 091	6 688	3 403	43	
Finland	42 025	28 179	13 846	23	
Sweden	36 761	20 943	15 817	44	
United Kingdom	225 658	143 210	82 380	280	
Norway	10 004	6 056	3 948	44	
Switzerland (*)	87 386	68 419	18 967	79	

Note: non-fatal accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work (serious accidents).

(\*) 2016.

Source: Eurostat (online data codes: hsw\_n2\_01 and hsw\_n2\_02)

**Table 1: Number of non-fatal and fatal accidents at work, 2017**（表 1：職場における 2017 年の非致命的及び死亡災害者数）

(persons)

Source: Eurostat ([hsw\\_n2\\_01](#)) and ([hsw\\_n2\\_02](#)) (資料出所: Eurostat ([hsw\\_n2\\_01](#)) and ([hsw\\_n2\\_02](#))) (以下同じであるので、日本語訳は省略する。)

(資料作成者注: EU 加盟 28 カ国 (2020 年 2 月 1 日以降は、英国の離脱に伴い 27 カ国) の国名は、次のとおりです。以下、国名の日本語訳は省略します。)

<b>Belgium</b>	ベルギー
<b>Bulgaria</b>	ブルガリア
<b>Czechia</b>	チェコ
<b>Denmark</b>	デンマーク
<b>Germany</b>	ドイツ
<b>Estonia</b>	エストニア
<b>Ireland</b>	アイルランド
<b>Greece</b>	ギリシャ
<b>Spain</b>	スペイン
<b>France</b>	フランス
<b>Croatia</b>	クロアチア
<b>Italy</b>	イタリア
<b>Cyprus</b>	キプロス
<b>Latvia</b>	ラトビア
<b>Lithuania</b>	リトアニア

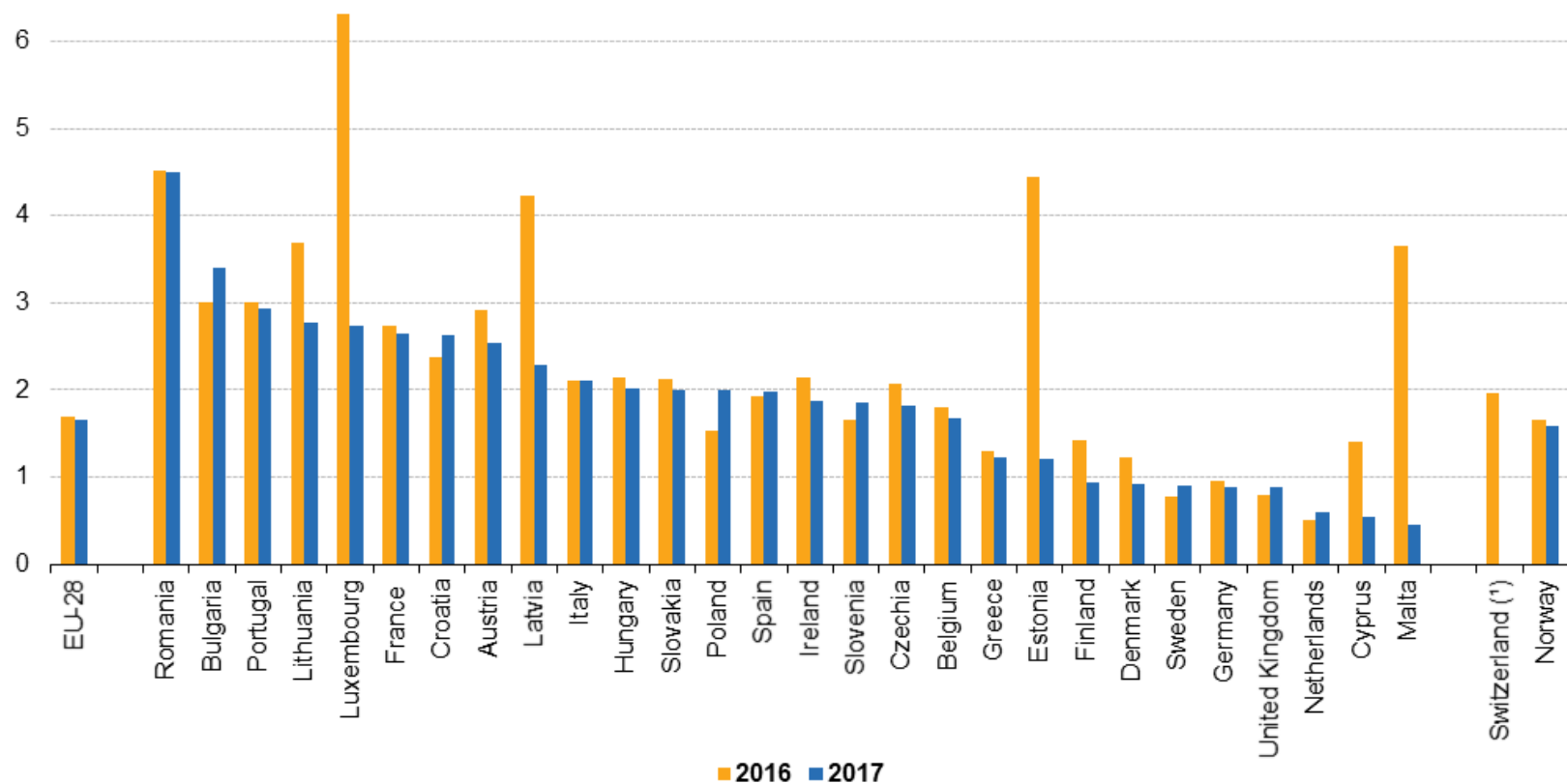
<b>Luxembourg</b>	ルクセンブルク
<b>Hungary</b>	ハンガリー
<b>Malta</b>	マルタ
<b>Netherlands</b>	オランダ
<b>Austria</b>	オーストリア
<b>Poland</b>	ポーランド
<b>Portugal</b>	ポルトガル
<b>Romania</b>	ルーマニア
<b>Slovenia</b>	スロベニア
<b>Slovakia</b>	スロバキア
<b>Finland</b>	フィンランド
<b>Sweden</b>	スウェーデン
<b>United Kingdom</b>	イギリス
<b>Norway</b>	ノルウェー（域外国）
<b>Switzerland</b>	スイス（域外国）

<p><b>Incidence rates</b></p> <p>An alternative way to analyse the information on accidents at work is to express the number of accidents in relation to the number of persons employed (referred to as the ‘incidence rate’); in Figures 1 and 2 simple incidence rates are shown, relating</p>	<p><b>発生率</b></p> <p>労働災害に関する情報を分析するもう一つの方法は、被被雇用者数に対する災害件数を表すことです（「発生率」と呼ばれています）。どの国でも、これらの統計は誰かが事故に遭う可能性を示しています。</p>
--	--

<p>the number of accidents to the overall number of persons employed. For any given country, these statistics give an indication of the likelihood that someone has an accident.</p> <p>In 2017, the number of fatal accidents per 100 000 employed persons ranged from less than 1.00 in Finland, Denmark, Sweden, Germany, the United Kingdom, the Netherlands, Cyprus and Malta, to more than 3.00 fatal accidents per 100 000 persons employed in Bulgaria and Romania (see Figure 1); the highest incidence rate among the EU Member States was recorded in Romania, at 4.49 fatal accidents per 100 000 persons employed.</p> <p>Across the whole of the EU-28 there were 1.65 fatal accidents per 100 000 persons employed in 2017; fatal accidents at work are therefore relatively rare events. Because of this, incidence rates for fatal accidents can vary greatly from one year to the next.</p>	<p>2017 年の被雇用者 10 万人当たりの死亡事故件数は、フィンランド、デンマーク、スウェーデン、ドイツ、イギリス、オランダ、キプロス、マルタでは 1.00 未満、ブルガリアとルーマニアでは被雇用者 10 万人当たりの死亡事故件数が 3.00 件を超えています（図 1 参照）。</p> <p>EU-28 か国全体では、2017 年の被雇用者 10 万人当たりの死亡事故は 1.65 件であり、労働中の死亡事故は比較的稀な出来事です。このため、死亡事故の発生率は年によって大きく異なる可能性があります。</p>
---	--

## Fatal accidents at work, 2016 and 2017

(incidence rates per 100 000 persons employed)



(\*) 2016: data.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_02)

eurostat 

**Figure 1: Fatal accidents at work, 2016 and 2017(図 1 職場での死亡事故、2016 年及び 2017 年)**

**(incidence rates per 100 000 persons employed) (被雇用者 10 万人当たりの発生率)**

**Source: Eurostat ([hsw\\_n2\\_02](#))**

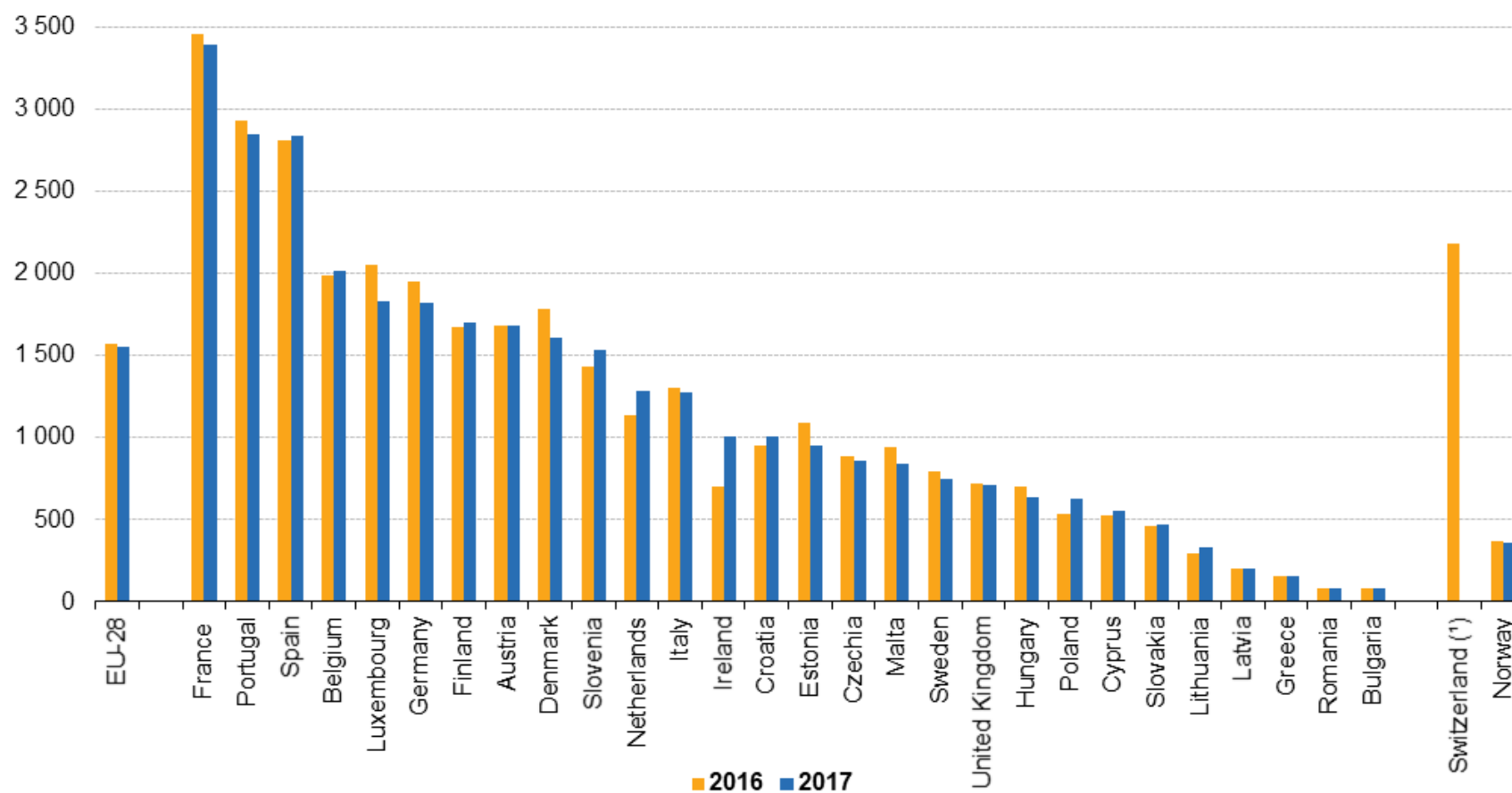
Across the EU-28, there were 1 558 non-fatal accidents per 100 000 persons employed in 2017. In 2017, the range for incidence rates among the EU Member States was from less than 100 non-fatal accidents per 100 000 persons employed in Bulgaria and Romania to more than 2 800 per 100 000 persons employed in Spain and Portugal, while a considerably higher rate was recorded in France (3 396 accidents per 100 000 persons employed; see Figure 2). Particularly low incidence rates for non-fatal accidents may reflect an under-reporting problem caused by a poorly-established reporting system, little financial incentive for victims to report, non-binding legal obligation for the employers, etc. In the same way, the well-established reporting/recognition systems may often explain the high incidence rate in some countries. The phenomenon of low non-fatal incidence rates can be considered to reflect under-reporting following the assumption that many accidents remain unreported. The situation for incidence rates of fatal accidents is different as it is much more difficult to avoid reporting fatal accidents.

EU-28 全体では、2017 年の被雇用者 10 万人当たりの非死亡事故は 1,558 件であった。2017 年の EU 加盟国間の発生率の幅は、ブルガリアとルーマニアでは被雇用者 10 万人当たり 100 件未満から、スペインとポルトガルでは被雇用者 10 万人当たり 2800 件以上となっているが、フランスではかなり高い発生率が記録されています（被雇用者 10 万人当たり 3396 件、図 2 参照）。非死亡事故の発生率が特に低いのは、確立されていない 報告制度、被害者が報告するための金銭的インセンティブが少 ない、使用者に拘束力のない法的義務がある等、報告不足の 問題を反映している可能性があります。同様に、一部の国では、報告・認知制度が確立されていることが、事故発生率の高さを説明していることが多い。非致死事故の発生率が低いという現象は、多くの事故が報告されないままであると仮定して、過小報告を反映していると考えられます。死亡事故の発生率については、死亡事故の報告を避けることの方がはるかに困難であるため、状況は異なります。



## Non-fatal accidents at work, 2016 and 2017

(incidence rates per 100 000 persons employed)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. Ranked on the values for 2017.

(\*) 2016 data.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_01)

**Figure 2: Non-fatal accidents at work, 2016 and 2017 (図 2 : 職場における非死亡災害)**

**(incidence rates per 100 000 persons employed) (被雇用者 10 万人当たりの発生率)**

*Source:* Eurostat ([hsw\\_n2\\_01](#))

### Standardised incidence rates

When comparing data between countries the incidence rates can be difficult to interpret, for example when comparing the effectiveness of measures to prevent accidents at work. This is because the likelihood of having an accident is related to the economic activity in which a person works and the relative importance (weight) of different activities varies between countries according to the structure of each domestic economy.

To account for this, standardised incidence rates are calculated and data for these rates are shown in Figures 3 and 4. Such rates assume that the relative sizes of economic activities within each national economy are the same as within the EU-28 as a whole. As such, these standardised incidence rates give a more neutral comparison of the health and safety situation in different countries. Note that these standardised incidence rates have a slightly narrower activity coverage than the simple incidence rates, as they exclude the mining and quarrying sector as well as some service activities. Standardised incidence rates only cover NACE Sections A and C-N, thus excluding Sections B and O-U.

On this basis and across the EU-28, there were, on average, 2.12 fatal accidents per 100,000 persons employed in 2017 (see Figure 3), while there were 1 667 non-fatal accidents per 100,000 persons employed (see Figure 4). In 2017, the highest

### 標準化された発生率

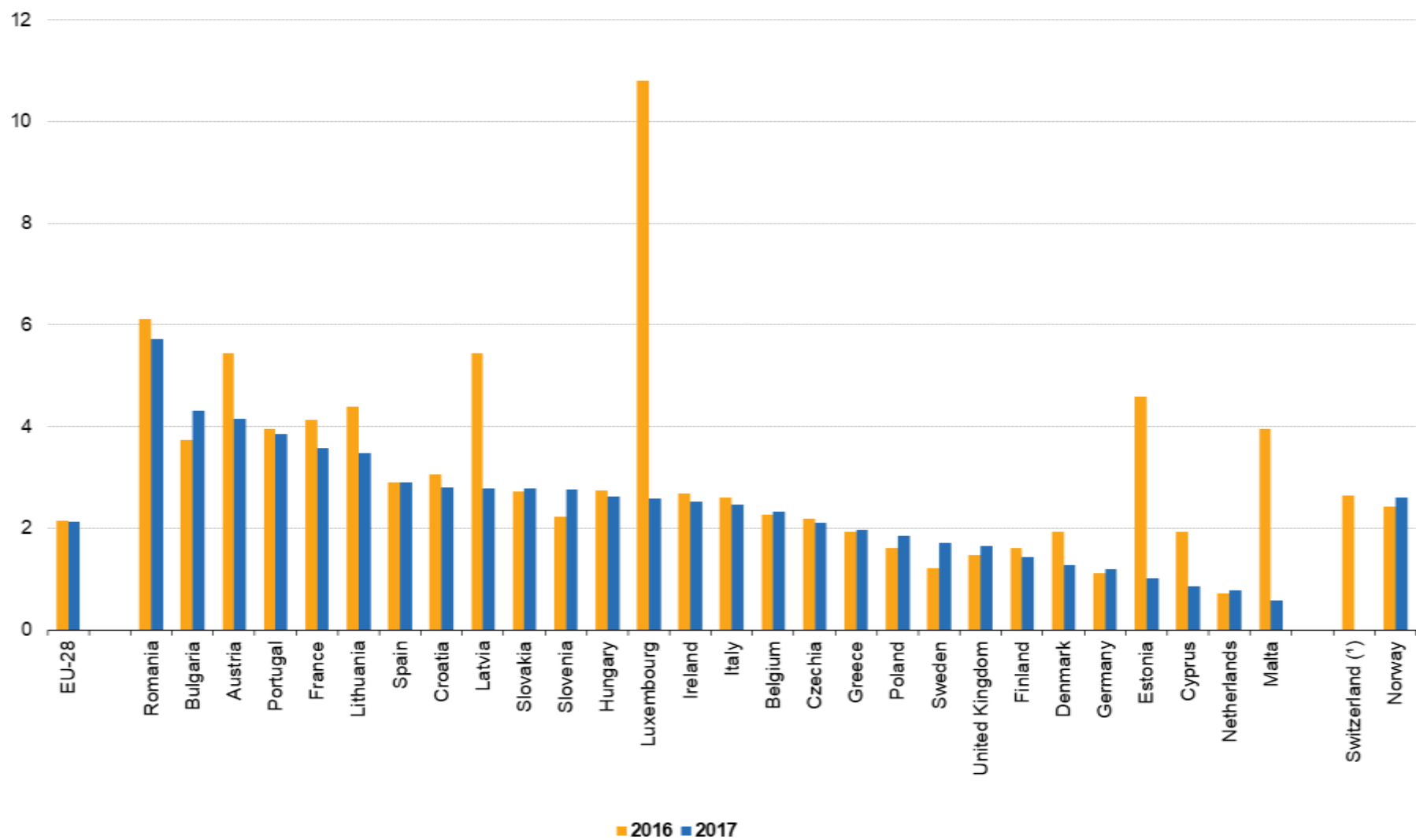
各国間のデータを比較する場合に、例えば労働災害防止対策の有効性を比較する場合等、発生率を解釈するのは難しい場合があります。これは、事故を起こす可能性が人が働いている経済活動に関係しており、国内経済の構造によって、国によって異なる活動の相対的な重要性（重み）が異なるためです。

これを考慮して、標準化された事故発生率が計算され、そのデータが図 3 及び図 4 に示されています。この標準化率は、各国内経済における経済活動の相対的な規模が EU-28 全体と同じであることを前提としています。そのため、これらの標準化された発生率は、各国の安全衛生状況をより中立的に比較することができます。これらの標準化された発生率は、鉱業・採石部門や一部のサービス活動を除外しているため、単純な発生率よりも活動範囲が若干狭くなっていることに注意してください。標準化された発生率は、NACE のセクション A と C-N のみを対象としており、セクション B と O-U は除外されています。

これに基づき、EU-28 全体では、2017 年の被雇用者 10 万人当たりの死亡事故は平均で 2.12 件（図 3 参照）であり、一方、被雇用者 10 万人当たりの非死亡事故は 1,667 件（図 4 参照）であった。2017 年には、労働中の死亡事故の標準化された発生率が最も高かったのはルーマニア（被雇用者 10 万人あたり 5.72 人）で、次いでブルガリア（被雇用者 10 万人当たり 4.30 人）がこれに続いて

<p>standardised incidence of fatal accidents at work was recorded in Romania (5.72 deaths per 100,000 persons employed), followed by Bulgaria (4.30 deaths per 100,000 persons employed). By contrast, at the other end of the range, Malta, the Netherlands and Cyprus recorded the lowest standardised incidence rates among the Member States with less than 1 fatal accident per 100,000 persons employed in 2017.</p>	<p>います。対照的に、マルタ、オランダ、キプロスは、2017年に雇用された10万人当たりの死亡事故が1件未満の加盟国の中で、標準化された発生率が最も低かった。</p>
--	--

**Fatal accidents at work, 2016 and 2017**  
(standardised incidence rates per 100 000 persons employed)

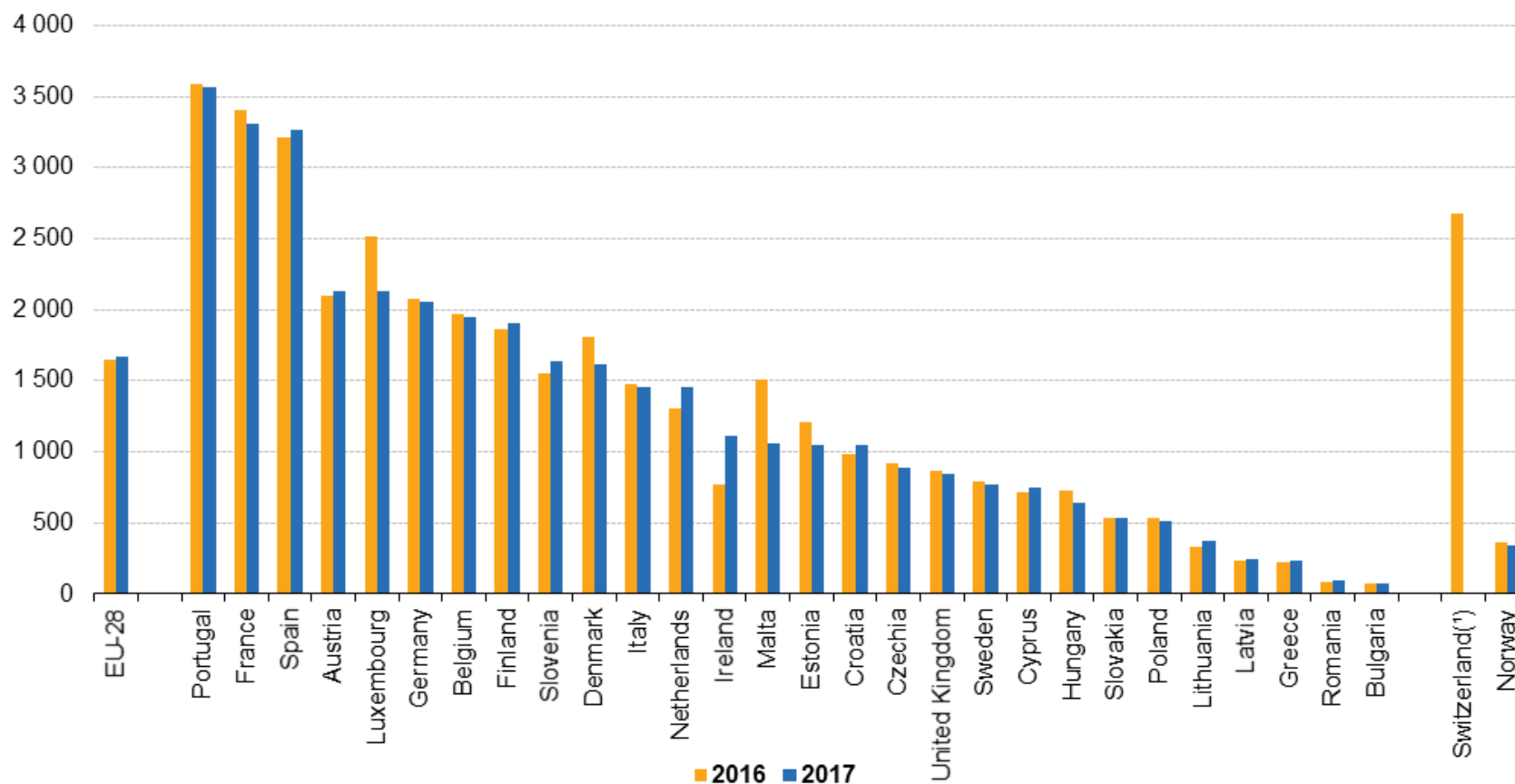


**Figure 3: Fatal accidents at work, 2016 and 2017 (図 3 : 職場での死亡事故、2016 年及び 2017 年)**

**(standardised incidence rates per 100 000 persons employed) (被雇用者 10 万人当たりの標準化された発生率)**

## Non-fatal accidents at work, 2016 and 2017

(standardised incidence rates per 100 000 persons employed)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. NACE Sections A and C-N. Ranked on the values for 2017.

(<sup>1</sup>) 2016: data.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_mi01)

**Figure 4: Non-fatal accidents at work, 2016 and 2017 (図 4 : 職場での非死亡事故、2016 年及び 2017 年)**

**(standardised incidence rates per 100 000 persons employed) (被雇用者 10 万人当たりの標準化された発生率)**

Figure 4 shows that in 2017, the standardised incidence rate of non-fatal accidents at work was generally highest in some EU Member States with insurance based accident reporting systems: Portugal reported 3 563 non-fatal accidents per 100 000 persons employed, followed by France and Spain with rates of 3 307 and 3 268 per 100 000 persons employed. Insurance based accident reporting systems offer a significant financial compensation for the victim when an accident is reported, as opposed to legal obligation systems in which victims are covered by the general social security system. Among the eastern EU Member States, which mostly have legal obligation systems, Slovenia and Croatia were the only countries to report an incidence rate of more than 1 000 non-fatal accidents per 100 000 persons employed. By far the lowest standardised incidence rates were reported in Romania and Bulgaria, at 92 and 79 non-fatal work accidents per 100 000 persons employed in 2017; again it should be noted that these values may reflect a relatively high degree of under-reporting.

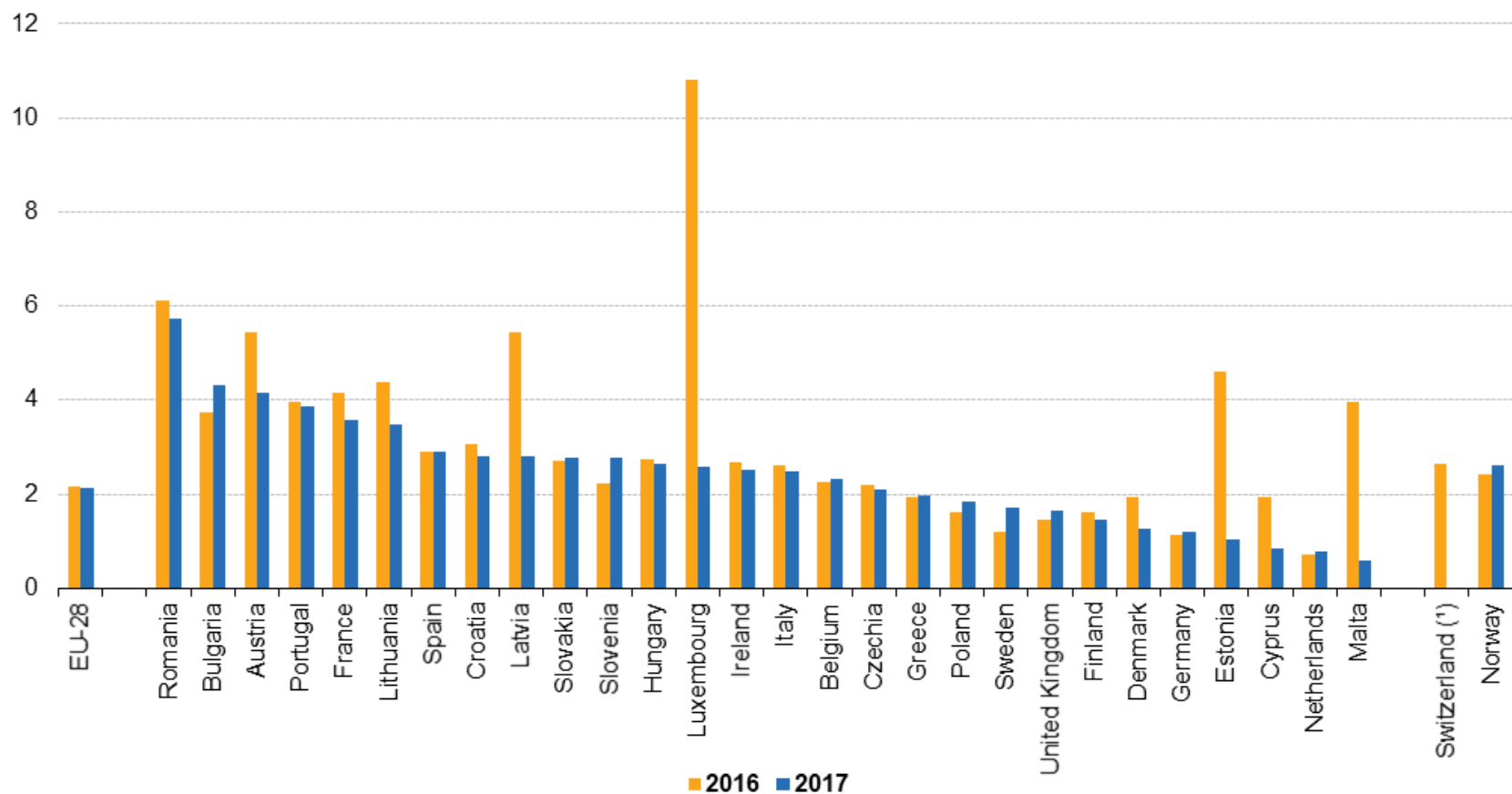
図 4 によると、2017 年には、保険に基づく事故報告制度を持つ一部の EU 加盟国では、労働中の非致死性事故の標準化された発生率が一般的に最も高かったことが示されている。ポルトガルは被雇用者 10 万人当たり 3,563 件の非死亡事故を報告しており、フランスとスペインは被雇用者 10 万人当たり 3,307 件と 3,268 件の割合で続いています。保険ベースの事故報告制度は、被害者が一般的な社会保障制度でカバーされる法的義務制度とは対照的に、事故が報告された際に被害者に多額の金銭的補償を提供している。ほとんどが法的義務制度を持つ EU 東部加盟国の中で、スロベニア及びクロアチアは、被雇用者 10 万人当たり 1,000 件以上の非死亡事故発生率を報告した唯一の国であった。

標準化された発生率が最も低かったのはルーマニア及びブルガリアで、2017 年の被雇用者 10 万人当たりの非致死性労働災害は 92 件と 79 件であったが、これらの値は比較的高い過少報告を反映している可能性があることにも注意が必要である。



## Fatal accidents at work, 2016 and 2017

(standardised incidence rates per 100 000 persons employed)



Note: NACE Sections A and C-N. Ranked on the values for 2017.

(\*) 2016: data.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_mi01)

**Figure 5: Fatal accidents at work, 2016 and 2017**（職場における死亡事故、2016 年及び 2017 年）

**(standardised incidence rates per 100 000 persons employed)**（被雇用者 10 万人当たりの標準化された発生率）

*Source: Eurostat ([hsw\\_mi01](#))*

### Analysis by activity

As noted above, one of the main reasons why the incidence of accidents may be higher for men (than for women) is related to the economic activities where they are more likely to work. Indeed, the number of accidents at work varies greatly depending upon the economic activity in question (see Figure 5) and is positively skewed in relation to male-dominated activities.

Within the EU-28, the construction, transportation and storage, manufacturing, and agriculture, forestry and fishing sectors together accounted for around two thirds (65.2 %) of all fatal accidents at work and more than two fifths (43.6 %) of all non-fatal accidents at work in 2017. In 2017, one fifth (20.6 %) of all fatal accidents at work in the EU-28 took place within the construction sector, while the transportation and storage sector (17.8 %) had the next highest share; manufacturing (14.0 %) and agriculture, forestry and fishing (12.8 %) were the only other NACE sections to record double-digit shares of the total number of fatal

### 活動別分析

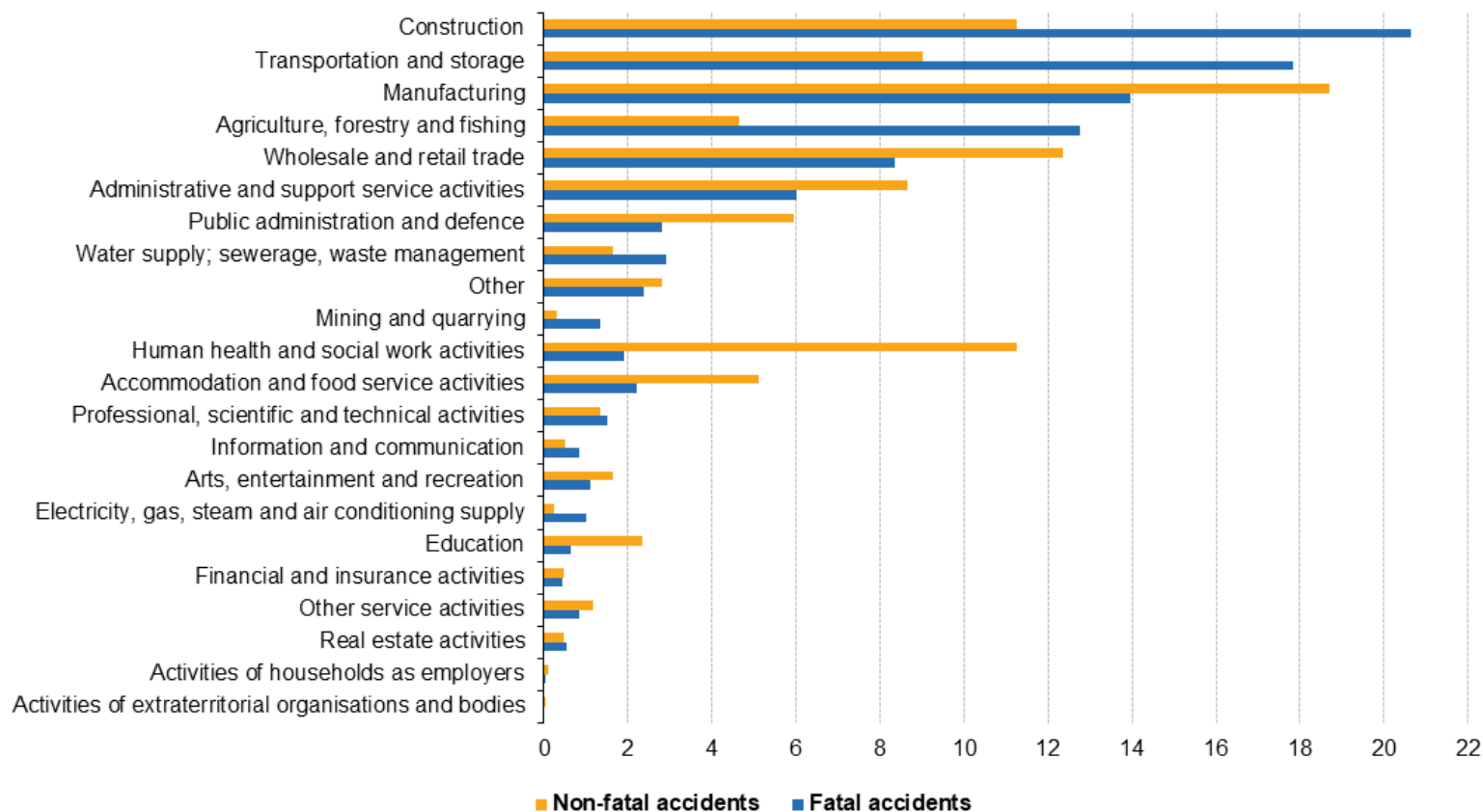
上述したように、男性の方が（女性よりも）事故発生率が高い主な理由の一つは、男性が働きやすい経済活動に関係しています。実際、労働災害の数は、対象となる経済活動によって大きく異なり（図 5 参照）、男性優位の活動に関連して正の偏りが見られます。

EU-28 の中では、建設、輸送及び保管、製造業、農林漁業部門を合わせると、2017 年には、労働中の全死亡事故の約 3 分の 2（65.2%）を占め、労働中の全非死亡事故の 5 分の 2 以上（43.6%）を占めていました。2017 年には、EU-28 の全労働災害の 5 分の 1（20.6%）が建設部門で発生したが、運輸及保管部門（17.8%）が次に多く、製造業（14.0%）と農林漁業（12.8%）は、他の NACE 部門の中で唯一、総労働災害数に占める二桁の割合を記録した。

<p>accidents.</p> <p>Non-fatal accidents were relatively high within manufacturing (18.7 % ), wholesale and retail trade (12.5 % of the total in the EU-28 in 2017), construction (11.3 %), human health and social work activities (11.3 %). Administrative and support service activities as well as public administration and defence accounted for 8.6 % and respectively 6 %.</p>	<p>非死亡事故は、製造業（18.7%）、卸売及び小売業（2017 年の EU-28 全体の 12.5%）、建設業（11.3%）、保健衛生及び社会福祉活動（11.3%）で相対的に高かった。行政及び支援サービス活動は 8.6%、行政及び防衛活動は 6%であった。</p>
--	--

## Fatal and non-fatal accidents at work by NACE section, EU-28, 2017

(% of fatal and non-fatal accidents)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. Ranked on the values for fatal accidents.

Source: Eurostat (online data codes: hsw\_n2\_01 and hsw\_n2\_02)

**Figure 5: Fatal and non-fatal accidents at work by NACE section, EU-28, 2017** (図 5 : NACE(欧州標準産業分類)別の死亡及び非死亡事故)

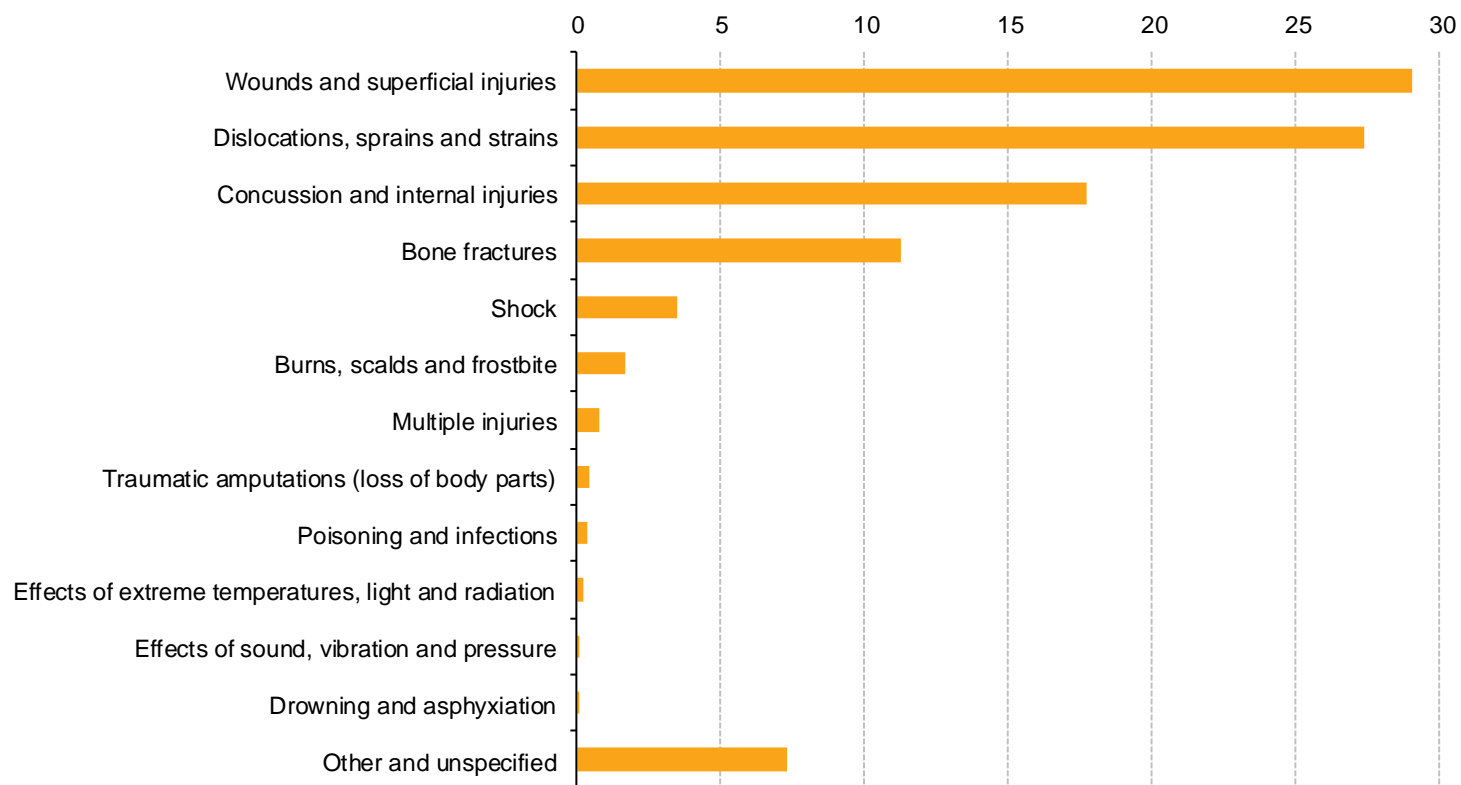
(% of fatal and non-fatal accidents) (死亡事故及び非死亡事故の%)

Source: Eurostat ([hsw\\_n2\\_01](#)) and ([hsw\\_n2\\_02](#))

(図 5 の業種分類の英語原文—日本語仮訳) (以下同じ。)	
英語原文、経済活動分野 (業種)	左欄の日本語仮訳
Construction	建設業
Transportation and storage	運輸及び倉庫業
Manufacturing	製造業
Agriculture, forestry and fishing	農業、林業及び漁業
Wholesale and retail trade	卸売り及び小売業
Administrative and support service activities	管理的及び支援的サービス業
Public administration and defence	公務及び国防
Water supply; sewerage, waste management	水道、下水処理及び廃棄物管理業
Accommodation and food service activities	宿泊及び食堂業

Mining and quarrying	鉱業及び採石業
Other	その他
Human health and social work activities	保健及び社会保障活動
Professional, scientific and technical activities	専門的、科学的及び技術的サービス業
Education	教育
Electricity, gas, steam and air conditioning supply	電気、ガス、蒸気及び空調供給業
Arts, entertainment and recreation	芸術、娯楽及びレクリエーション業
Information and communication	情報通信業
Financial and insurance activities	財務及び保険業
Other service activities	その他のサービス業
Real estate activities	不動産業
Activities of households as employers	使用者としての家主業
Activities of extraterritorial organisations and bodies	治外法権の組織及び活動

**Fatal and non-fatal accidents at work by type of injury, EU-28, 2017**  
 (% of accidents)



**Figure 6: Fatal and non-fatal accidents at work by type of injury, EU-28, 2017** (図 6 : EU-28 の傷害の型別死亡事故及び非死亡事故、2017 年)  
 (% of accidents) (事故の%)

(資料作成者注：傷害の型についての「英語原文－日本語仮訳」)

type of injury	左欄の傷害の型の日本語訳
Wounds and superficial injuries	身体部の外傷及び上皮の傷害
Dislocations, sprains and strains	脱臼、捻挫及び挫傷
Concussion and internal injuries	震盪症及び内部傷害
Bone fractures	骨折
Shock	衝撃
Burns, scalds and frostbite	火炎による火傷、熱湯による火傷及び凍傷
Multiple injuries	複合的な負傷
Traumatic amputations (loss of body parts)	外傷性の切断（身体の一部の喪失）
Poisoning and infections	中毒及び感染症
Effects of extreme temperatures, light and radiation	極端な温度、光及び放射線の影響
Effects of sound, vibration and pressure	音響、振動及び圧力による影響
Drowning and asphyxiation	溺死及び窒息
Other and unspecified	その他及び特定不能



### Accidents 2010 to 2017 — absolute changes in incidence rates

It is also possible to analyse ESAW data over time, with information for all 28 of the EU Member States available for 2010 and for 2017. Note however that there were some considerable changes in the way that data were collected during this period and as a result there are a number of breaks in series; this is particularly the case for Belgium, Greece, France, Italy, the Netherlands and Finland — see the ‘Data sources’ section below for more details.

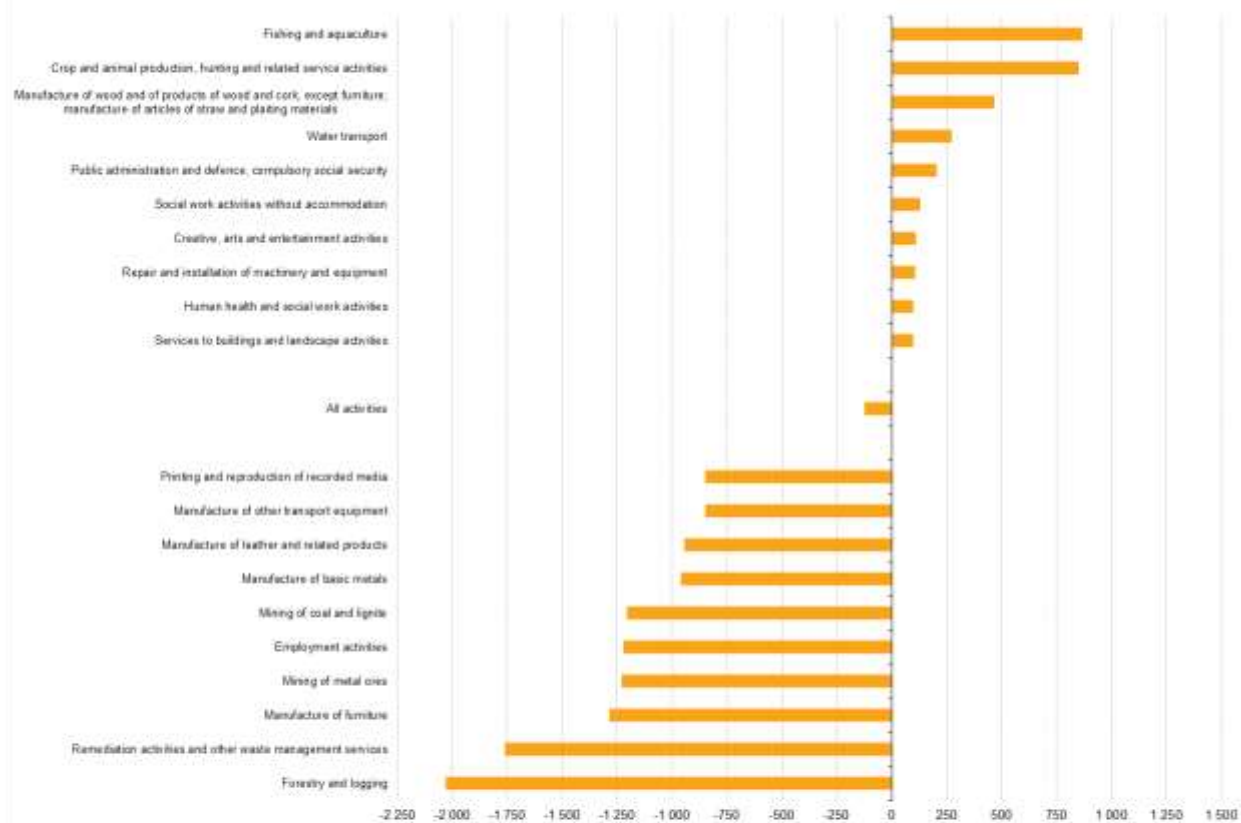
Figure 7 presents information at a more detailed activity level, for NACE divisions. It shows that between 2010 and 2017 industrial activities accounted for many of the biggest reductions in incidence rates for non-fatal accidents. However, the largest reduction was for forestry and logging where the incidence rate for non-fatal accidents fell by 2 029 accidents per 100 000 persons employed during the period under consideration. There were five more activities where the incidence rate fell by more than 1 000 per 100 000 persons employed: remediation activities and other waste management services; the manufacture of furniture; mining of metal ores; employment activities; and mining of coal and lignite.

### 2010 年から 2017 年までの事故発生率の絶対的な変化

ESAW のデータを経時的に分析することも可能であり、2010 年と 2017 年の EU 加盟国 28 カ国すべての情報が利用可能です。しかし、この期間中にデータ収集方法に大きな変化があり、その結果、いくつかの系列が途切れていることに注意してください；これは特にベルギー、ギリシャ、フランス、イタリア、オランダ及びフィンランドの場合に当てはまります。

図 7 は、NACE の部門について、より詳細な活動レベルでの情報を示しています。これによると、2010 年から 2017 年の間に、産業活動が非死亡事故の発生率の最大の減少の多くを占めていました。しかし、最大の減少は林業と伐採で、非致死災害の発生率は、検討期間中に雇用された 10 万人当たり 2029 件減少しました。さらに、被雇用者 10 万人当たりの発生率が 1,000 人以上減少した 5 つの活動は、浄化活動やその他の廃棄物管理サービス、家具の製造、金属鉱石の採掘、雇用活動、石炭・亜炭の採掘です。

**Overall change in the incidence of non-fatal accidents at work by NACE division, EU-28, 2010-2017**  
(incidence rates per 100 000 persons employed)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. The figure shows the 10 NACE divisions with the highest/lowest absolute changes in their incidence rates between 2010 and 2017.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_01)

Figure 7: Overall change in the incidence of non-fatal accidents at work by NACE division, EU-28, 2010-2017

(図 7 : NACE の業種別の職場における非死亡事故の発生率の全体的な変化)

(incidence rates per 100 000 persons employed) (被雇用者 10 万人当たりの発生率)

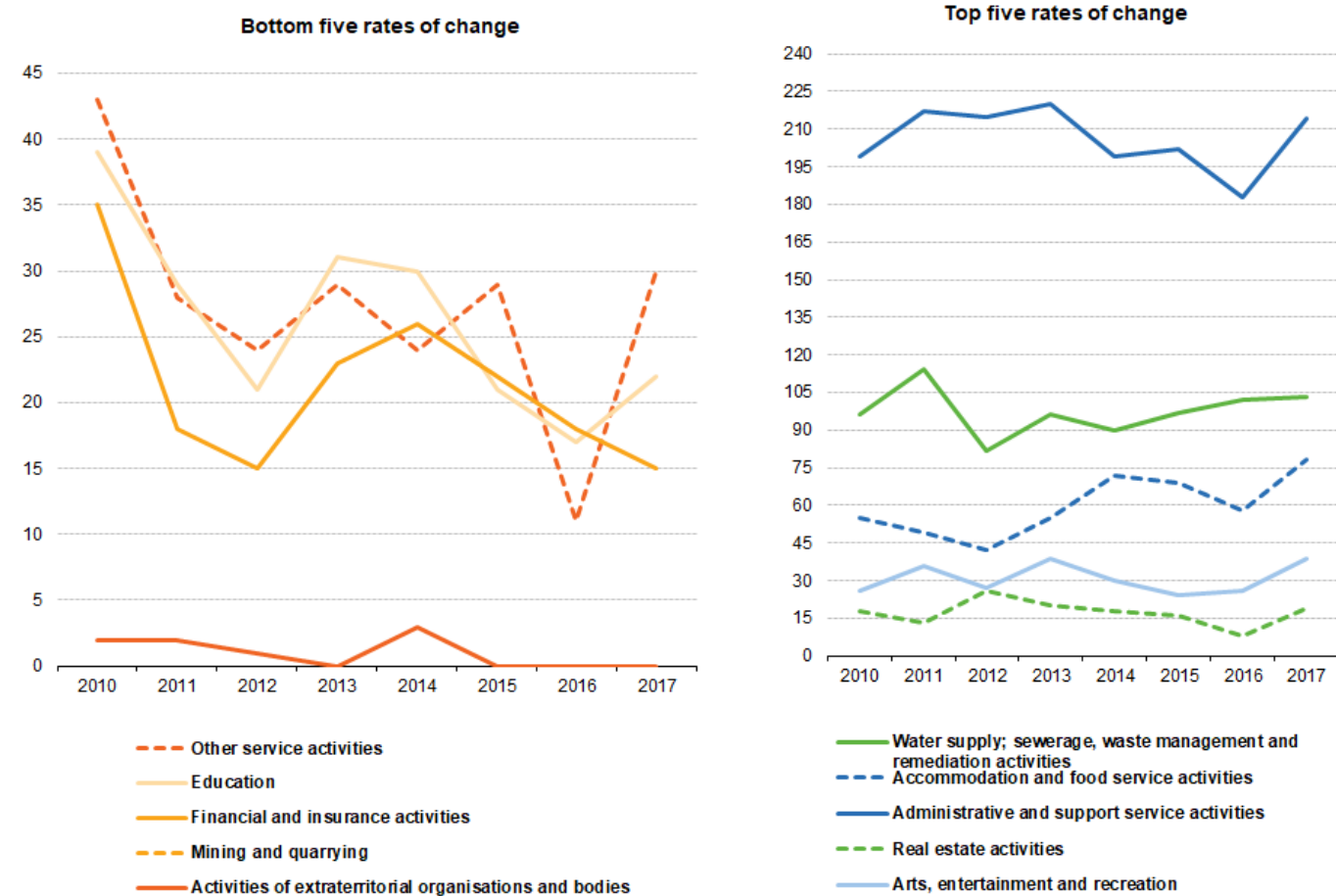
Source: Eurostat ([hsw\\_n2\\_01](#))

Accidents 2010 to 2017 — relative changes	事故 2010 年から 2017 年までの相対的な変化
<p>This final section looks at relative changes in the number of accidents and their incidence rates for the period from 2010 to 2017. The number of accidents in a particular year is likely to be related, at least to some extent, to the overall level of economic activity and the total number of persons in employment, with fewer accidents during periods when there was a contraction in overall levels of economic activity.</p> <p>Figure 8 shows the five NACE sections with the highest/lowest relative changes. Between 2010 and 2017, the highest rates of change were recorded for arts, entertainment and recreation (where the number of fatalities increased by 50 %); for accommodation and food service activities (up 41.8 %). The number of fatal</p>	<p>最後に、2010 年から 2017 年までの事故件数と発生率の相対的な変化を見てみましょう。特定の年の事故件数は、経済活動全体のレベルと総被被雇用者数に少なくともある程度関係している可能性が高く、経済活動全体のレベルが縮小している時期には事故件数は少なくなっています。</p> <p>図 8 は、相対的な変化が最も高かった/最も低かった NACE の 5 つのセクションを示している。2010 年から 2017 年の間に、最も高い変化率を記録したのは、芸術、娯楽及びレクリエーション（死亡者数が 50%増加）、宿泊施設及び飲食サービス活動（41.8%増加）であった。死亡者数は、行政及び支援サー</p>

<p>cases also increased in the following sectors: administrative and support services (increase of 7.5 %); water supply; sewerage, waste management and remediation activities (up 7.3 %) and real estate activities (5.6 %). None of the remaining NACE divisions recorded an increase in their number of fatal accidents at work between 2010 and 2017.</p> <p>As such, it was more common to find that the number of fatal accidents fell during the period under consideration. This was particularly the case for activities of extraterritorial organisations and bodies (where the number of fatal accidents at work fell from two to zero between 2010 and 2017), for financial and insurance activities (where the number of fatal accidents fell by 57.1 %, education (-43.6 %), mining and quarrying (-41.5 %); and other service activities (-30.2 %).</p>	<p>ビス（7.5%増）、上水道、下水道、廃棄物管理及び矯正活動（7.3%増）、不動産活動（5.6%増）でも増加した。NACE の残りの部門では、2010 年から 2017 年の間に業務中の死亡事故数が増加した部門はありませんでした。</p> <p>そのため、検討期間中に死亡事故数が減少しているのが一般的でした。これは特に、域外の組織及び団体の活動（2010 年から 2017 年の間に業務中の死亡事故数が 2 件から 0 件に減少）、金融及び保険活動（死亡事故数が 57.1%減少、教育（43.6%減）、鉱業・採石（41.5%減）、その他のサービス活動（30.2%減）の場合に見られた。</p>
--	---

# Development of fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest and lowest relative changes in the number of persons, EU-28, 2010-2017

(persons)



Note: the figure shows the five NACE sections with the highest/lowest relative changes in their number of fatalities between 2010 and 2017. The scales used for the y-axes are different in the two parts of the figure.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_07)

**Figure 8: Development of fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest and lowest relative changes in the number of persons, EU-28, 2010-2017(被災者数において、最も高い及び最も低い相対的な変化のあった NACE の 5 つの区分（業種）についての職場での死亡事故の状況)**

(persons) (被災者数)

Source: Eurostat ([hsw\\_n2\\_07](#))

Figure 9 complements the information shown in Figure 8, presenting a similar analysis for non-fatal accidents. Across the EU-28, there were only six NACE sections where the total number of non-fatal accidents at work increased between 2010 and 2017: public administration and defence, and compulsory social security (an increase of 31.8 %); human health and social work activities (16.3 %) and administrative and support service activities (12.9 %) had the highest increases.

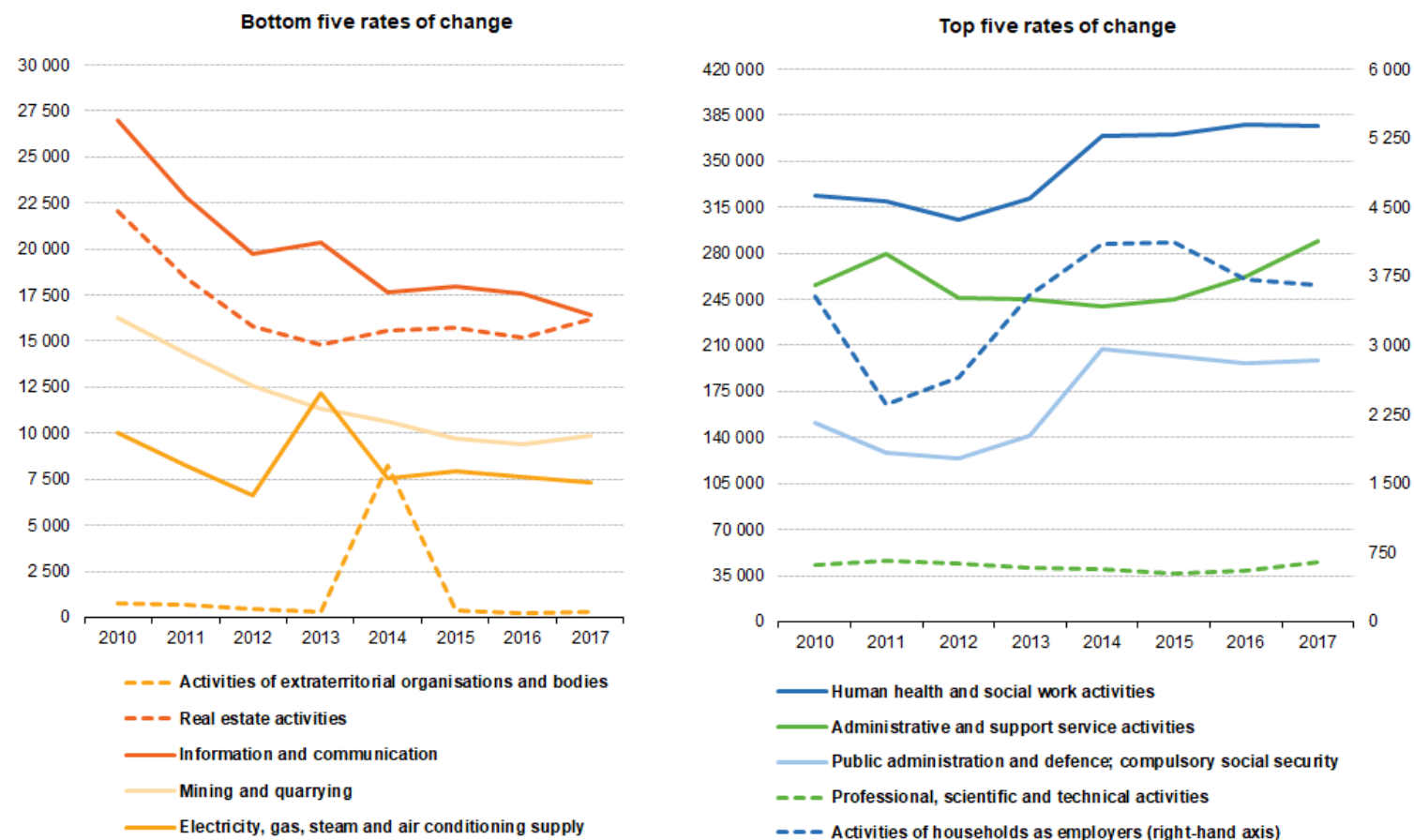
Between 2010 and 2017, the total number of non-fatal accidents at work in the EU-28 fell by 6.6 %. There were much larger reductions recorded for some specific economic activities, as the number of non-fatal accidents at work fell by more than 30.0 % overall during the period under consideration for: activities of extraterritorial organisations and bodies (-66.7 %); mining and quarrying (-39.4 %), information and communication (-39.3 %).

図 9 は、図 8 に示した情報を補完するもので、非致命的災害に関する同様の分析を示しています。EU-28 全体で、2010 年から 2017 年の間に労働中の非死亡災害の総数が増加した NACE のセクションは 6 つだけで、行政及び防衛、法的社会保障（31.8%の増加）、保健及び社会福祉活動（16.3%）、行政及び支援サービス活動（12.9%）が最も増加しています。

2010 年から 2017 年の間に、EU-28 の労働中の非死亡事故の総数は 6.6%減少しました。いくつかの特定の経済活動については、より大きな減少が記録されており、検討中の期間中に労働中の非致死災害数は全体で 30.0%以上減少しました。治外法権を有する組織及び団体の活動（-66.7%）、鉱業及び採石（-39.4%）、情報及び通信（-39.3%）。

# Development of non-fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest and lowest relative changes in the number of persons, EU-28, 2010-2017

(persons)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. The figure shows the five NACE sections with the highest/lowest relative changes in their number of non-fatal accidents between 2010 and 2017. The scales used for the y-axes are different in the two parts of the figure.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_07)

**Figure 9: Development of non-fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest and lowest relative changes in the number of persons, EU-28, 2010-2017** (図 9 : NACE の 5 つのセクションにおける職場での非致死性事故の発生状況及び人数の相対的変化の高低、EU-28 年、2010-2017 年)

(persons) (被災者数)

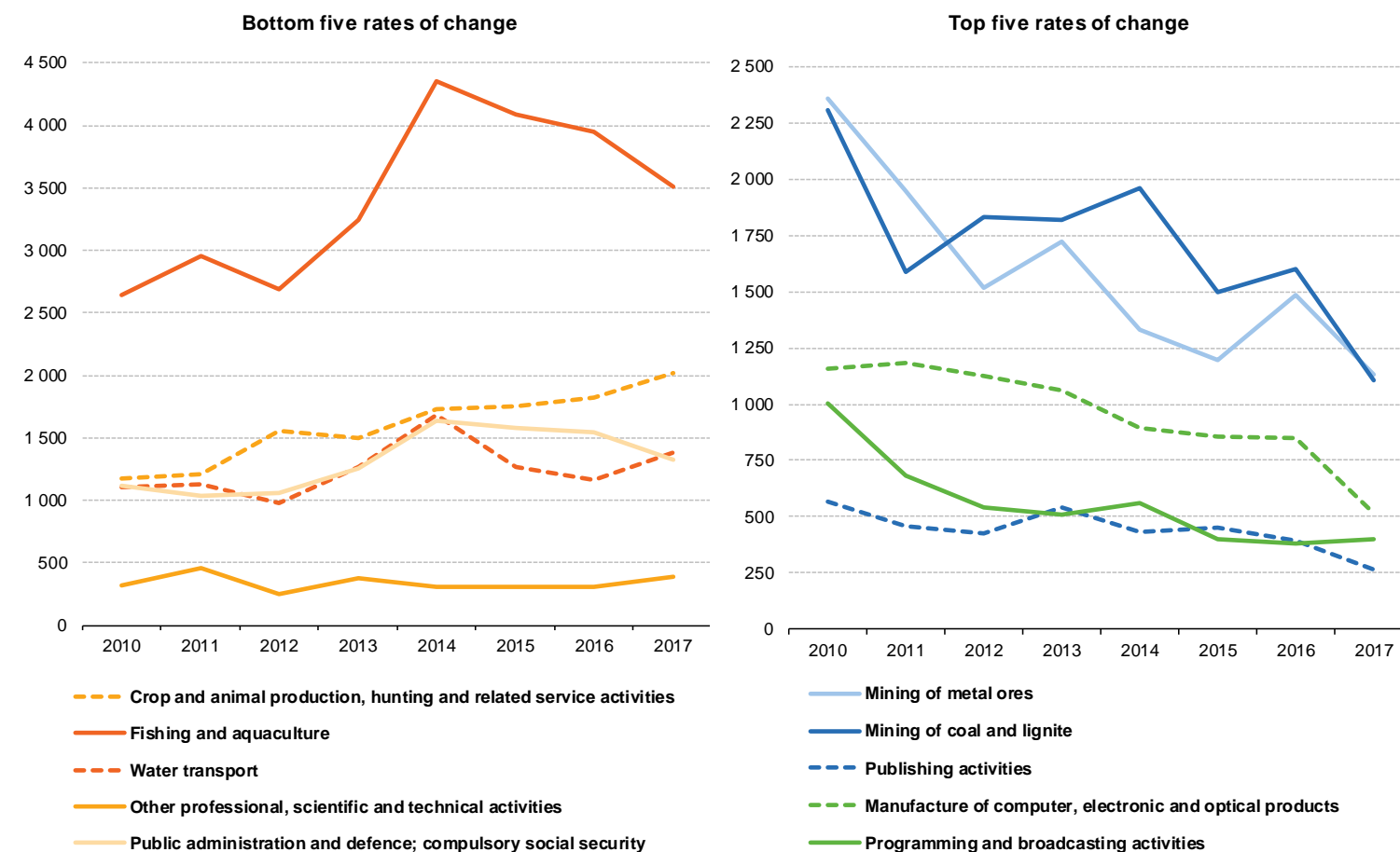
Source: Eurostat ([hsw\\_n2\\_07](#))

<p>The final analysis is presented for NACE divisions, detailing those activities with the highest/lowest relative changes in their incidence rates for non-fatal accidents between 2010 and 2017. Across the EU-28, the number of non-fatal accidents per 100 000 persons employed fell by more than 50 % for the activities shown in Figure 10 (excluding activities of extraterritorial organisations and bodies): mining of metal ores; mining of coal and lignite; publishing activities; manufacture of computer, electronic and optical products; programming and broadcasting activities. The incidence of non-fatal accidents in the EU-28 significantly increased in crop and animal production, hunting and related service activities (up 77.8 %) and fishing and aquaculture (32.8 %). Water transport (up 24.6 %) and other professional, scientific and technical activities ( up 22.3 %) were the other two activities that recorder increases in the incidence rates above 20 %.</p>	<p>最終的な分析は、2010 年から 2017 年の間に非致死災害の発生率の相対的な変化が最も高かった/低かった活動を NACE 部門ごとに詳述しています。EU-28 全体では、図 10 に示す活動（治外法権を有する組織及び団体の活動を除く。）では、被雇用者 10 万人当たりの非致死災害件数が 50%以上減少しています(金属鉱石の採掘、石炭及び亜炭鉱の採掘、出版活動、コンピュータ・電子・光学製品の製造、プログラミング及び放送活動)。</p> <p>EU-28 における非致死的事故の発生率は、作物及び畜産、狩猟及び関連サービス活動（77.8%増）、漁業及び養殖（32.8%）で大幅に増加しました。水輸送（24.6%増）及びその他の専門的、科学的、技術的活動（22.3%増）は、事故発生率が 20%を超える増加を記録した他の 2 つの活動でした。</p>
---	---



## Development of non-fatal accidents at work for the five NACE divisions with the highest and lowest relative changes in the incidence rates, EU-28, 2010-2017

(incidence rates per 100 000 persons employed)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. The figure shows the five NACE divisions with the highest/lowest relative changes in their incidence rates between 2010 and 2017. Includes estimates and data of low reliability. Excluding activities of extraterritorial organisations and bodies.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_01)

**Figure 10: Development of non-fatal accidents at work for the five NACE divisions with the highest and lowest relative changes in the incidence rates, EU-28, 2010-2017** (図 10 : 発生率の相対的変化が最も大きく、最も低い NACE の 5 部門における業務上の非致死性事故の進展 (EU-28、2010-2017 年) )

<p><b>Data sources</b></p> <p>In December 2008, the European Parliament and the Council adopted Regulation (EC) No 1338/2008 on Community statistics on public health and health and safety at work. The Regulation is designed to ensure that health statistics provide adequate information for all EU Member States to monitor Community actions in the field of public health and health and safety at work. In April 2011, a European Commission Regulation (EU) No 349/2011 on statistics on accidents at work was adopted specifying in detail the variables, breakdowns and metadata that Member States are required to deliver; this legislation is being implemented in a number of phases.</p> <p>European statistics on accidents at work (ESAW) is the main data source for EU statistics relating to health and safety at work issues. ESAW includes data on occupational accidents that result in at least four calendar days of absence from work, including fatal accidents. The phrase ‘during the course of work’ means while engaged in an occupational activity or during the time spent at work. This generally includes cases of road traffic accidents in the course of work but excludes accidents during the journey between home and the workplace.</p>	<p><b>データソース</b></p> <p>2008 年 12 月に、欧州議会と理事会は、公衆衛生及び労働安全衛生に関する共同体統計に関する規則 (EC) 第 1338/2008 号を採択した。この規則は、公衆衛生と労働安全衛生の分野における共同体の行動を監視するために、健康統計がすべての EU 加盟国に適切な情報を提供することを保証することを目的としている。2011 年 4 月には、労働災害統計に関する欧州委員会規則 (EU) 第 349/2011 号が採択され、加盟国が提供しなければならない変数、内訳、メタデータを詳細に規定している。この法律はいくつかの段階を経て実施されています。</p> <p>欧州労働災害統計 (ESAW) は、労働における安全衛生に関する EU 統計の主要なデータソースです。ESAW には、死亡事故を含め、少なくとも 4 暦日以上 の休業となった労働災害に関するデータが含まれています。「業務中」とは、職業活動に従事している間又は業務に従事している間を意味します。一般的には業務中の交通事故も含まれますが、自宅から職場までの移動中の事故は含まれません。</p>
--	--

<p>The statistics presented for accidents at work refer to declarations made either to public (social security administrations) or private insurance schemes, or to other relevant national authorities (for example, those controlling labour or workplace inspections). Indicators on accidents at work may be presented as absolute values, as percentage distributions, as incidence rates in relation to every 100000 persons employed (the denominator being provided by the authorities in the EU Member States that are responsible for ESAW data collection or by the EU's labour force survey (LFS)) or as standardised incidence rates.</p>	<p>労働災害に関する統計は、公的（社会保障庁）若しくは民間保険制度又は他の関連する国の当局（例えば、労働又は職場検査を管理する当局）への申告を参考にしています。労働災害に関する指標は、絶対値、パーセンテージ分布、被雇用者 10 万人当たりの発生率（分母は ESAW データ収集に責任を持つ EU 加盟国の当局又は EU の労働力調査（LFS）によって提供される。）又は標準化された発生率として提示されることがある。</p>
<p>The data generally relate to all economic activities, unless otherwise specified. For example, the analyses in Figures 3 and 4 cover NACE Sections A and C to N. Because the frequency of accidents at work varies between NACE activities — high risk activities include agriculture, manufacturing, construction and transport — a standardisation procedure is performed to facilitate the comparison of national data. A direct standardisation method is used with weights calculated for the European reference population (EU-28): the weights represent the proportion of the reference (working) population in each NACE activity. For each EU Member State the national incidence rates are calculated for each NACE activity and these are combined using the fixed set of EU-28 weights to produce an overall standardised incidence rate for the Member State concerned. More details are available in a methodological note.</p>	<p>データは、特に指定がない限り、一般的にすべての経済活動に関するものである。例えば、図 3 及び 4 の分析は、NACE のセクション A と C から N までを対象としている。労働災害の頻度は NACE 活動間で異なるため（高リスク活動には農業、製造業、建設業及び運輸業が含まれる。）、各国のデータの比較を容易にするために標準化手順が実行される。重みは、各 NACE 活動における基準（労働）人口の割合を表している。各 EU 加盟国については、各 NACE 活動について国内の発生率を計算し、EU-28 の固定的なウェイトを用いてこれらを組み合わせて、当該加盟国の全体的な標準化された発生率を算出する。詳細は方法論ノートに記載されている。</p>

<p>Statistics on accidents at work may reflect under-coverage or under-reporting. Under-coverage exists when the appropriate population is not covered by the data source for accidents, for example when a certain economic sector or employment type is excluded. Under-reporting relates to the situation where an accident occurs but is not reported although the related economic sector is included. The extent of under-coverage of ESAW data can be analysed partially by comparing the reference population (of workers) in ESAW with data derived from the LFS. Under-reporting is more difficult to analyse and establish but some comparisons are available. One method is to compare results from the reporting systems used for the legal obligation to report an accident with systems based on insurance reports; this may indicate under-reporting in the system for the legal obligation of accidents or over-reporting in insurance systems. Another method is to compare (geographically or over time) the ratio of fatal to non-fatal accidents, as the reporting of fatal accidents is thought to be more likely to be accurate due to their severe nature. Comparisons can also be made with data from household surveys, for example from the LFS (which included an ad hoc module in 2013 on accidents at work and work-related health problems).</p> <p>In addition, changes in the way data are collected and processed in the EU Member States may have an influence on the number and incidence of accidents at work in a particular year. For example, on 30 June 2016 a</p>	<p>労働災害に関する統計は、カバー率の低さや報告率の低さを反映している場合があります。カバー率不足は、特定の経済部門又は雇用形態が除外されている場合等、適切な人口が事故のデータソースによってカバーされていない場合に存在します。過少報告とは、事故が発生したが、関連する経済セクターが含まれているにもかかわらず、報告されていない状況に関連しています。ESAW データの過少報告の程度は、ESAW の基準母集団（労働者数）と LFS から得られたデータを比較することで、部分的に分析することができます。過少報告の分析と立証はより困難であるが、いくつかの比較が可能です。1 つの方法は、事故報告の法的義務に使用される報告システムからの結果を、保険報告に基づくシステムと比較することです。これは、事故の法的義務のためのシステムでの過少報告又は保険システムでの過大報告を示す可能性があります。もう一つの方法は、死亡事故と非死亡事故との比率を（地理的又は時間的に）比較することです。また、LFS（2013 年には労働災害と労働関連の健康問題に関する臨時のモジュールが含まれています。）等の家計調査のデータと比較することもできます。</p> <p>さらに、EU 加盟国におけるデータの収集及び処理方法の変更は、特定の年の労働災害の件数や発生率に影響を及ぼす可能性があります。例えば、2016 年 6 月 30 日に、ESAW を管理する EU 規則の規定からの多くの適用除外が、いく</p>
---	--

<p>number of derogations from provisions in the EU regulation governing ESAW ended in several of the Member States. This had a significant effect on the data concerning accidents at work for reference year 2014. For example, for the first time French data included full coverage of all employees in economic sectors covered by NACE Sections A-S. This led to a substantial apparent increase in the number of accidents recorded in France (compared with 2013). In a similar vein, for the first time the 2014 data for Belgium included information pertaining to accidents in the public sector and this also resulted in an increase in the reported number of accidents. At the same time, in 2016 some correction factors were removed from Greek data by the national statistical office due to methodological issues which caused a very considerable reduction in the number of accidents reported for reference year 2014 (compared with 2013); it is expected that a more complete Greek dataset will be received in the coming years, which should lead to a higher number of reported accidents again. Finally, Dutch and Norwegian data (the latter are not included in the EU-28 total) for the 2014 reference year for non-fatal accidents displayed a significant decrease due to methodological issues. If the Belgian, Greek, French, Dutch and Finnish data were to be removed from the EU-28 total, the development in the total number of</p>	<p>つかの加盟国で終了しました。これは、基準年 2014 年の労働災害に関するデータに大きな影響を与えました。例えば、フランスのデータは初めて、NACE セクション A～S でカバーされている経済部門の全従業員を完全にカバーしていました。これにより、フランスで記録された事故の数が（2013 年と比較して）大幅に増加したことが明らかになった。</p> <p>同様に、ベルギーの 2014 年データには初めて公共部門の事故に関する情報が含まれており、報告された事故件数も増加しました。同時に、2016 年には、方法論の問題により、国家統計局によってギリシャのデータからいくつかの補正要因が削除され、基準年 2014 年の事故報告数（2013 年と比較して）が大幅に減少しました。最後に、オランダ及びノルウェーの 2014 年基準年の非死亡事故データ（後者は EU-28 の合計には含まれていない。）は、方法論の問題により大幅な減少を示しました。ベルギー、ギリシャ、フランス、オランダ及びフィンランドのデータを EU-28 の合計から除外した場合には、2013 年から 2014 年までの事故総数の推移はほとんど変わらず、わずかな減少（1.3%減）であった。</p>
--	--

accidents between 2013 and 2014 would be almost unchanged, with a small decrease (down 1.3 %).	
--	--

<p><b>Context</b></p> <p>A safe, healthy working environment is a crucial factor in an individual's quality of life and is also a collective concern. Governments in the EU Member States recognise the social and economic benefits of better health and safety at work. Reliable, comparable, up-to-date statistical information is vital for setting policy objectives and adopting suitable policy measures and preventative actions.</p> <p>The Treaty on the Functioning of the European Union (Article 153) states that '[...] the Union shall support and complement the activities of the Member States in the following fields: (a) improvement in particular of the working environment to protect workers' health and safety; [...]']'.</p> <p>The main principles governing the protection of workers' health and safety are laid down in a 1989 framework Directive (89/391/EEC), the basic objective of which is to encourage improvements in occupational health and safety. All sectors of activity, both public and private, are covered by this legislation, which establishes the principle that the employer has a duty to ensure workers' health and safety in all aspects relating to work, while the worker has an obligation to follow the employer's health and safety instructions and report potential dangers.</p>	<p><b>文脈</b></p> <p>安全で健康的な労働環境は、個人の生活の質を左右する重要な要素であると同時に、集団的な関心事でもある。EU 加盟国の政府は、職場の安全衛生の向上が社会的及び経済的に有益であることを認識している。信頼性が高く、比較可能な最新の統計情報は、政策目標を設定し、適切な政策措置や予防措置を採用するために不可欠である。</p> <p>欧州連合の機能に関する条約（第 153 条）は、「[...] 欧州連合は、以下の分野における加盟国の活動を支援し、補完しなければならない。(a) 特に労働者の健康と安全を守るための労働環境の改善。</p> <p>労働者の安全衛生の保護に適用される主な原則は、1989 年の枠組み指令（89/391/EEC）に規定されており、その基本的な目的は労働安全衛生の改善を奨励することである。公私を問わず、すべての活動部門がこの法律の対象となっており、使用者は業務に関するあらゆる面で労働者の健康と安全を確保する義務があり、労働者は使用者の安全衛生の指示に従う義務があり、潜在的な危険性を報告する義務があるという原則を確立している。</p>
---	--

<p>Within this field, the European Commission's policy agenda for the period 2014-2020 was set out in the Communication EU strategic framework on health and safety at work for 2014-2020 (COM(2014) 332 final), which outlined three major challenges: to improve implementation of existing health and safety rules; to improve the prevention of work-related diseases by tackling new and emerging risks without neglecting existing risks; to take account of the ageing of the EU's workforce. This framework is designed to ensure that the EU continues to play a leading role in the promotion of high standards for working conditions within Europe (as well as wider afield), in keeping with the Europe 2020 strategy.</p> <p>The framework put forward a range of actions under seven key strategic objectives, one of which was to improve statistical data collection to have better evidence and to develop monitoring tools. In this context, the Communication noted that it is important for evidence-based policymaking to collect reliable, timely and comparable statistical data on work-related accidents and diseases, occupational exposures, work-related ill-health, and to analyse the costs and benefits in the area of occupational safety and health. Specifically, the Communication proposed the following action directly related to accident at work statistics: assess the quality of data transmitted by EU Member States in the framework of the European statistics on accidents at work data collection, with the aim of improving coverage, reliability, comparability and timeliness.</p>	<p>この分野では、2014年から2020年までの欧州委員会の政策アジェンダは、コミュニケーション「2014年から2020年までの職場における安全衛生に関するEU戦略的枠組み」（COM(2014)332 final）に示されており、この中で3つの主要な課題が概説されている：既存の安全衛生規則の実施を改善すること、既存のリスクを無視することなく新たなリスクに取り組むことで業務上疾病の予防を改善すること、EUの労働力の高齢化を考慮に入れること。この枠組みは、欧州2020年戦略に沿って、EUが欧州域内（及び域外）の労働条件の高水準化の促進において主導的役割を果たし続けることを確実にするために設計されている。</p> <p>枠組みは、7つの主要な戦略目標の下での一連の行動を提唱しており、そのうちの1つは、統計データの収集を改善してより良いエビデンスを得、モニタリングツールを開発することであった。この文脈で、コミュニケーションは、労働関連の事故や疾病、業務上のばく露、業務上の不健康に関する信頼性の高い、タイムリーで比較可能な統計データを収集し、労働安全と健康の分野におけるコストと便益を分析することが、エビデンスに基づいた政策立案のために重要であると指摘している。具体的には、本コミュニケーションでは、労働災害統計に直接関連した以下の行動を提案している。網羅性、信頼性、比較可能性及び適時性を向上させることを目的として、欧州労働災害統計データ収集の枠組みの中で、EU加盟国が送信するデータの品質を評価する。</p>
---	---

IV—3—2 Eurostat における労働災害統計のうち、Statistics explained（説明付きの統計）として該当するウェブサイトに不定期に掲載されている記述のうち、2018 年を中心とする統計についての「英語原文—日本語仮訳」としての紹介

[原典の所在]: [https://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php?title=Accidents\\_at\\_work\\_statistics#Number\\_of\\_accidents](https://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php?title=Accidents_at_work_statistics#Number_of_accidents)  
(2021 年 6 月 13 日確認済み)

[原典の名称]: Eurostat Statistics explained, **Accidents at work statistics**) (ユーロスタット、職場での災害統計) (2018 年を中心とする労働災害統計)

原典の英語原文	左欄の日本語仮訳
Highlights	ハイライト
There were 3 332 fatal accidents at work in the EU-27 during 2018, an increase of 60 deaths compared with the year before.	2018 年に EU-27 (EU 加盟 27 か国。以下同じ。) で発生した職場での死亡事故は 3,332 件で、前年に比べて 60 件増加しました。
In 2018, one fifth of all fatal accidents at work in the EU-27 took place within the construction sector.	2018 年に EU-27 における職場での死亡事故の 5 分の 1 は、建設部門で発生しました。
In 2018, almost three quarters of all accidents at work in the EU-27 concerned: wounds and superficial injuries; dislocations, sprains and strains; or concussion and internal injuries.	2018 年には、EU-27 の労働災害全体の約 4 分の 3 は、負傷及び表面的な傷害、脱臼及び捻挫、歪み又は脳震盪及び内部損傷に関するものでした。



<p><b>Fatal accidents at work, 2018</b></p> <p><b>Source: Eurostat (online data code: hsw_n2_02)</b></p> <p>This article presents a set of main statistical findings in relation to indicators concerning non-fatal and fatal accidents at work in the European Union (EU); the statistics presented have been collected within the framework of the European statistics on accidents at work (ESAW) administrative data collection exercise.</p> <p>An accident at work is defined in ESAW methodology as a discrete occurrence during the course of work which leads to physical or mental harm. Fatal accidents at work are those that lead to the death of the victim within one year of the accident taking place. Non-fatal accidents at work are defined as those that imply at least four full calendar days of absence from work (they are sometimes also called ‘serious accidents at work’). Non-fatal accidents at work may result in a considerable number of working days being lost and often involve considerable harm for the workers concerned and their families. They have the potential to force people, for example, to live with a permanent disability, to leave the labour market, or to change job.</p>	<p><b>2018 年における死亡災害</b></p> <p><b>資料出所 : Eurostat (online data code: hsw_n2_02)</b></p> <p>本稿では、欧州連合（EU）における労働災害の非致命的及び致命的災害に関する指標に関連して、一連の主要な統計的知見を紹介します。ここで紹介する統計は、ESAW（European statistics on accidents at work）行政データ収集の枠組みの中で収集されたものです。</p> <p>ESAW の方法論では、労働災害とは、肉体的又は精神的な被害をもたらす作業中の個別の出来事と定義されています。死亡事故とは、事故発生後 1 年以内に被害者が死亡したものをいいます。</p> <p>非致命的な業務上の事故とは、少なくとも 4 暦日以上の休業を伴うものと定義されます（これらは「重大な業務上の事故」とも呼ばれることがあります。）。非致命的な労働災害は、かなりの日数の労働日を失うことになり、関係する労働者及びその家族に多大な損害を与えることが多いものです。</p> <p>例えば、永久的な障害を抱えて生活したり、労働市場からの離脱や転職を余儀なくされる可能性もあります。</p>
---	---

<p><b>Number of accidents</b></p> <p>In 2018, there were 3.1 million non-fatal accidents that resulted in at least four calendar days of absence from work and 3 332 fatal accidents in the EU-27 (see Table 1), a ratio of approximately 940 non-fatal accidents for every fatal accident. There was an increase between 2017 and 2018 in the total number of non-fatal accidents at work in the EU-27, some 8.137 more (equivalent to growth of 0.3 %). There were an additional 60 fatal accidents at work in the EU-27 during 2018 when compared with a year before (equivalent to an increase of 1.8 %).</p> <p>Men were considerably more likely than women to have an accident at work. In 2018, more than two out of every three (68.4 %) non-fatal accidents at work in the EU-27 involved men. Factors that influence these statistics are: the proportion of men and women who are in employment; the different types of work that men and women carry out; the activities in which they work; and the amount of time spent at work. For example, there are far more accidents in the mining, manufacturing or construction sectors, which tend to be male-dominated. It is also generally the case that men tend to work on a full-time basis, whereas women are more likely to work on a part-time basis; as such, with women spending a shorter period</p>	<p><b>災害件数</b></p> <p>2018 年において、EU-27 では、少なくとも 4 暦日以上の休業を余儀なくされた非致命的な災害が 310 万件、死亡災害が 3332 件発生し（表 1 参照）、死亡事故 1 件に対して非死亡事故が約 940 件の割合となりました。</p> <p>2017 年から 2018 年にかけて、EU-27 の職場での非死亡事故の総数は増加し、約 8,137 件増加しました（0.3%の増加に相当）。2018 年に EU-27 で発生した職場での死亡事故は、前年に比べて 60 件増加しました（1.8%の増加に相当）。</p> <p>職場で事故に遭う確率は、男性の方が女性よりもかなり高かった。2018 年に、EU-27 では、職場での非致命的な災害の 3 件に 2 件以上（68.4%）が男性を巻き込んでいました。</p> <p>この統計に影響を与える要因は、雇用されている男女の割合、男女が行う作業の種類の違い、作業をする活動、作業に費やす時間です。例えば、男性が多い傾向にある鉱業、製造業又は建設業では、災害が非常に多くなっています。</p> <p>また、一般的に男性はフルタイムで働くことが多く、女性はパートタイムで働くことが多い。そのため、女性は職場で過ごす時間が（平均して）短いので、事故に遭う可能性も低くなると考えられます。</p>
--	---

of time (on average) in the workplace this may also reduce their chances of having an accident.	
---	--

○Accidents at work, Accidents at work statistics（職場での災害、職場での災害統計。以下同じ。）

Table 1: Number of non-fatal and fatal accidents at work, 2018（表 1 職場での非致命的及び致命的な災害、2018 年）

	Non-fatal accidents at work involving at least four calendar days of absence from work (少なくとも 4 暦日以上の休業を伴う職場での非致命的な災害)			Fatal accidents at work (職場での死亡災害)
	Total (合計)	Men (男性)	Women (女性)	Total (合計)
EU-27	3,124,828	2,137,935	986,107	3,332
Belgium	72,059	49,584	22,472	77
Bulgaria	2,255	1,530	725	87
Czechia	44,241	29,856	14,385	123
Denmark	50,185	30,338	19,643	37
Germany	877,501	652,992	224,062	397
Estonia	6,230	4,743	1,486	12
Ireland	18,090	11,542	6,478	34
Greece	4,493	3,137	1,356	37
Spain	465,227	327,385	137,842	323
France	771,837	469,791	302,046	615
Croatia	12,047	7,845	4,185	44

Italy	291,503	212,995	78,508	523
Cyprus	2,147	1,587	560	9
Latvia	2,168	1,413	755	30
Lithuania	3,834	2,398	1,391	37
Luxembourg	7,315	5,687	1,628	16
Hungary	23,510	14,926	8,584	79
Malta	2,001	1,607	394	4
Netherlands	91,179	54,849	36,331	45
Austria	63,229	49,393	13,836	124
Poland	77,949	50,152	27,797	211
Portugal	130,434	85,802	44,632	103
Romania	4,623	3,253	1,370	235
Slovenia	13,126	9,744	3,382	15
Slovakia	10,145	6,705	3,440	40
Finland	41,038	27,636	13,402	25
Sweden	36,457	21,041	15,416	50
United Kingdom	220,985	139,330	81,621	249
Norway	10,525	6,259	4,266	37
Switzerland	92,890	72,703	20,187	51

Note: non-fatal accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence

from work (serious accidents).

(注：ESAW の枠組みで報告される非致命的な災害は、少なくとも 4 暦日以上の休業を伴う事故（重大事故）です。）

*Source:* Eurostat (online data codes: hsw\_n2\_01 and hsw\_n2\_02)

An alternative way to analyse the information on accidents at work is to express the number of accidents in relation to the number of persons employed; this produces a ratio referred to as the incidence rate. In Figures 1 and 2, simple incidence rates are shown relating the number of accidents to the overall number of persons employed. For any given country, these statistics give an indication of the likelihood that someone had an accident. In 2018, the number of fatal accidents per 100 000 employed persons ranged from less than 1.00 in Finland, Greece, Germany and the Netherlands, to more than 3.00 fatal accidents per 100 000 persons employed in Croatia, Lithuania, Bulgaria and Latvia (see Figure 1). However, the highest incidence rates among the EU Member States were recorded in Luxembourg and Romania, with 4.22 and 4.33 fatal accidents per 100 000 persons employed respectively.

Across the whole of the EU-27, there were 1.77 fatal accidents per 100 000 persons employed in 2018. As such, fatal accidents at work were therefore

労働災害に関する情報を分析するもう一つの方法は、雇用者数に対する災害数を表すことであり、これは発生率と呼ばれる比率です。

図 1 及び図 2 には、全体の雇用者数に対する事故件数の単純な発生率が示されています。これらの統計は、ある国において、誰かが事故に遭う可能性を示しています。

2018 年には、被雇用者 10 万人当たりの死亡事故件数は、フィンランド、ギリシャ、ドイツ及びオランダでは 1.00 件未満、クロアチア、リトアニア、ブルガリア及びラトビアでは 3.00 件以上となっています（図 1 参照）。

しかし、EU 加盟国の中で最も高い発生率を記録したのはルクセンブルク及びルーマニアで、それぞれ被雇用者 10 万人当たり 4.22 件、4.33 件の死亡事故が発生しています。

EU-27 全体では、2018 年に非雇用者 10 万人当たり 1.77 件の死亡事故が発生しました。このように、職場での死亡事故は比較的まれな出来事であるため、死

relatively rare events and so fatal accidents (and their incidence rates) can vary greatly from one year to the next.	亡事故（及びその発生率）は年によって大きく異なる可能性があります。
---	-----------------------------------

**Figure 1: Fatal accidents at work, 2017 and 2018**

(incidence rates per 100 000 persons employed)

(図 1 職場での死亡災害、2017 年及び 2018 年、被雇用者 100,000 人当たりの発生率)

	地域・国別	年	
		2017	2018
	<b>EU-27</b>	<b>1.79</b>	<b>1.77</b>
	<b>Romania</b>	<b>4.49</b>	<b>4.33</b>
	<b>Luxembourg</b>	<b>2.74</b>	<b>4.22</b>
	<b>Latvia</b>	<b>2.29</b>	<b>3.27</b>
	<b>Bulgaria</b>	<b>3.40</b>	<b>3.14</b>
	<b>Lithuania</b>	<b>2.77</b>	<b>3.05</b>
	<b>Croatia</b>	<b>2.63</b>	<b>3.04</b>
	<b>Austria</b>	<b>2.53</b>	<b>2.87</b>
	<b>France</b>	<b>2.64</b>	<b>2.74</b>
	<b>Czechia</b>	<b>1.82</b>	<b>2.59</b>

	Cyprus	0.54	2.29
	Italy	2.10	2.25
	Portugal	2.94	2.12
	Hungary	2.01	1.97
	Spain	1.99	1.96
	Belgium	1.68	1.91
	Slovakia	2.00	1.83
	Estonia	1.21	1.81
	Malta	0.45	1.68
	Slovenia	1.85	1.67
	Poland	2.00	1.56
	Ireland	1.87	1.51
	Denmark	0.92	1.28
	Sweden	0.90	1.01
	Finland	0.93	0.99
	Greece	1.22	0.97
	Germany	0.89	0.78
	Netherlands	0.59	0.60
	United Kingdom	0.88	0.78

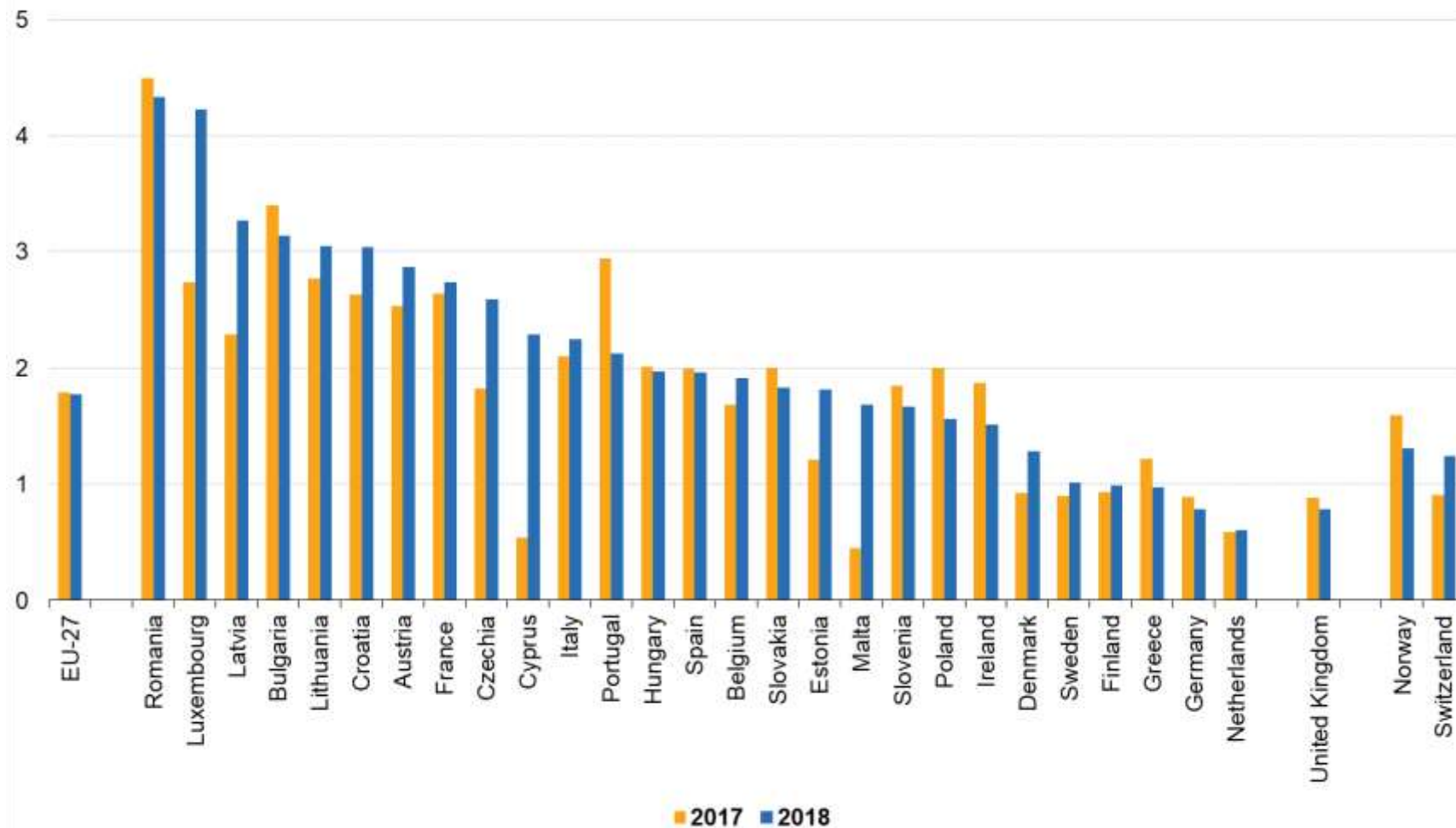
	Norway	1.59	1.31
	Switzerland	0.91	1.24
<i>Source:</i> Eurostat (online data code: hsw_n2_02) (資料出所：欧州統計局：オンラインデータコード：hsw_n2_02)			

(図 1 職場での死亡災害、2017 年及び 2018 年、被雇用者 100,000 人当たりの発生率)



## Fatal accidents at work, 2017 and 2018

(incidence rates per 100 000 persons employed)



Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_02)

<p>Across the EU-27, there were 1 659 non-fatal accidents per 100 000 persons employed in 2018. The range for incidence rates among the EU Member States was from less than 100 non-fatal accidents per 100 000 persons employed in Romania and Bulgaria to more than 2 500 per 100 000 persons employed in Portugal and Spain, while a considerably higher rate was recorded in France (3 445 non-fatal accidents per 100 000 persons employed) — see Figure 2. Particularly low incidence rates for non-fatal accidents may reflect an under-reporting problem linked to: poorly-established reporting systems, little financial incentive for victims to report, non-binding legal obligations for the employers, and so on. In the same way, well-established reporting/recognition systems may often explain the high incidence rate in some countries. While the phenomenon of low non-fatal incidence rates can in part be considered to reflect under-reporting, the situation for incidence rates of fatal accidents is different as it is much more difficult to avoid reporting a fatal accident.</p>	<p>EU-27 全体では、2018 年に被雇用者 10 万人当たり 1,659 件の非致命的な災害が発生しました。EU 加盟国の発生率の幅は、ルーマニア及びブルガリアでは被雇用者 10 万人当たり 100 件未満、ポルトガル及びスペインでは被雇用者 10 万人当たり 2,500 件以上となっていますが、フランスではかなり高い発生率を記録しています（被雇用者 10 万人当たり 3,445 件）—図 2 参照）。</p> <p>非致命的な事故の発生率が特に低いのは、報告システムが十分に確立されていないこと、被害者が報告する経済的インセンティブが低いこと、使用者に拘束力のない法的義務があること等に関連した報告不足の問題を反映している可能性があります。同じように、確立された報告／認識システムが、国によっては高い発生率を説明することもあります。</p> <p>非致命的な事故の発生率が低いという現象は、過少報告を反映していると考えられる部分もありますが、死亡事故の報告を避けることははるかに困難であるため、死亡事故の発生率の状況は異なります。</p>
--	--

## Accidents at work

### Accidents at work statistics

(職場での災害)

(職場での災害統計)

**Figure 2: Non-fatal accidents at work, 2017 and 2018**

(incidence rates per 100 000 persons employed)		
(被雇用者 100,000 人当たりの発生率)		
	2017	2018
EU-27	1,704	1,659
France	3,396	3,445
Spain	2,842	2,824
Portugal	2,848	2,680
Luxembourg	1,833	1,930
Belgium	2,016	1,790
Denmark	1,608	1,733
Germany	1,820	1,722
Finland	1,699	1,624
Austria	1,630	1,464
Slovenia	1,535	1,461
Italy	1,278	1,256
Netherlands	1,284	1,218
Estonia	953	937
Czechia	862	932

Malta	837	840
Croatia	1,007	832
Ireland	1,008	801
Sweden	753	740
Hungary	640	587
Poland	625	576
Cyprus	554	547
Slovakia	470	464
Lithuania	334	316
Latvia	207	236
Greece	161	117
Romania	84	85
Bulgaria	82	81
United Kingdom	711	692
Switzerland	2,201	2,267
Norway	361	372

Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence

from work.

（注：ESAW の枠組みで報告された非致命的な（重大な）災害

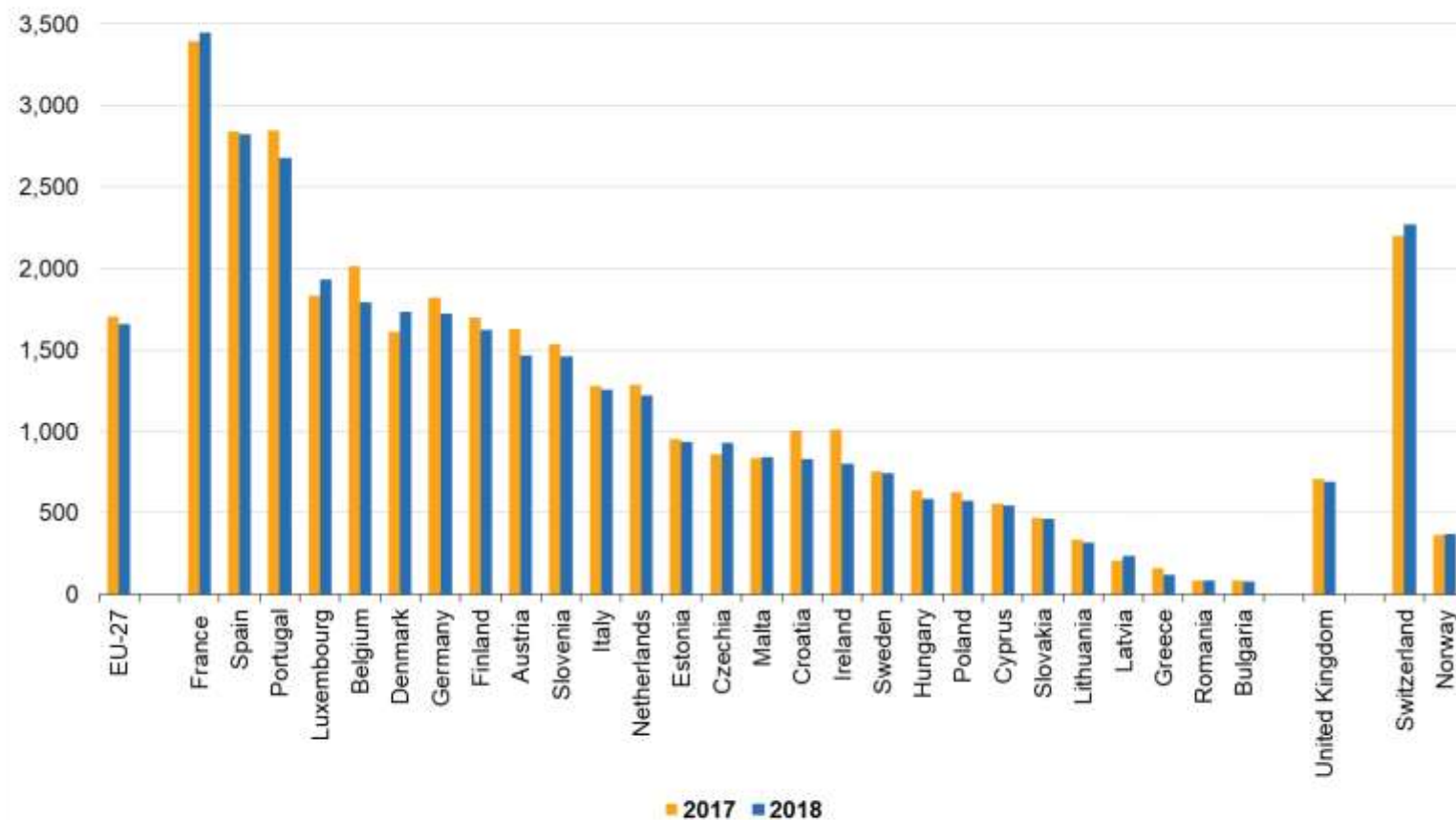
Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_01)

（資料出所：欧州統計局（オンラインデータコード：hsw\_n2\_01）

Figure 2: Non-fatal accidents at work, 2017 and 2018 (図2 職場での非致命的な災害、2017年及び2018年)

### Non-fatal accidents at work, 2017 and 2018

(incidence rates per 100 000 persons employed)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_01)

<p><b>Standardised incidence rates</b></p> <p>When comparing data between countries, incidence rates can be difficult to interpret, for example when comparing the effectiveness of measures to prevent accidents at work. This is because the likelihood of having an accident is, among other factors, related to the economic activity in which a person works and the relative importance (weight) of different activities varies between countries according to the structure of each domestic economy.</p> <p>To account for this, standardised incidence rates are calculated and data for these are shown in Figures 3 and 4. Such rates assume that the relative sizes of economic activities within each national economy are the same as within the EU-27 as a whole. As such, these standardised incidence rates give a more neutral comparison of the health and safety situation in different countries. Note that these standardised incidence rates have a slightly narrower activity coverage than the simple incidence rates, as they exclude the mining and quarrying sector as well as some service activities. Standardised incidence rates only cover NACE Sections A and C-N, thus excluding Sections B and O-U.</p> <p>On this basis and across the EU-27, there were, on average, 2.21 fatal accidents per 100 000 persons employed in 2018 (see Figure 3), while there</p>	<p><b>標準化された発生率</b></p> <p>労働災害を防止するための対策の効果を比較する場合で、例えば国同士でデータを比較するときは、発生率の解釈が難しいことがあります。これは、事故に遭う可能性は、とりわけ、人が働く経済活動に関連しており、国内経済の構造に応じて、異なる活動の相対的な重要性（重み）が国によって異なるためです。これを考慮して、標準化された発生率が計算され、そのデータが図 3 及び 4 に示されています。この率は、各国経済における経済活動の相対的な大きさが、EU-27 全体と同じであることを前提としています。</p> <p>そのため、この標準化発生率は、各国の安全衛生状況をより中立的に比較することができます。なお、この標準化発生率は、鉱業及び採石業並びに一部のサービス業を除外しているため、単純な発生率よりも対象となる活動範囲が若干狭くなっています。</p> <p>標準化発生率は、NACE（欧州標準産業分類）セクション A 及び C-N のみを対象としており、セクション B 及び O-U は除外されています。</p> <p>これに基づき、EU-27 全体で、2018 年には平均して被雇用者 10 万人当たり 2.21 件の死亡事故が発生し（図 3 参照）、被雇用者 10 万人当たり 1,769 件の非致死的な事故が発生しました（図 4 参照）。2018 年では、職場での死亡事故の標準化された発生率が最も高かったのはルクセンブルク（被雇用者 10 万</p>
--	--

<p>were 1 769 non-fatal accidents per 100 000 persons employed (see Figure 4). In 2018, the highest standardised incidence of fatal accidents at work was recorded in Luxembourg (6.42 deaths per 100 000 persons employed), followed by Romania (5.27 deaths per 100 000 persons employed). At the other end of the range, Germany and the Netherlands recorded the lowest standardised incidence rates among the EU Member States with no more than 1.0 fatal accident per 100 000 persons employed in 2018.</p>	<p>人当たり 6.42 人）で、次いでルーマニア（被雇用者 10 万人当たり 5.27 人）でした。一方で、ドイツ及びオランダは、2018 年に被雇用者 10 万人当たりの死亡事故が 1.0 件以下となり、EU 加盟国の中で最も低い標準化発生率を記録しました。</p>
--	---

<b>Accidents at work</b> （職場での災害）		
<b>Accidents at work statistics</b> （職場での災害統計）		
<b>Figure 3: Fatal accidents at work, 2017 and 2018</b> （図 3：職場での死亡災害、2017 年及び 2018 年）		
（standardised incidence rates per 100 000 persons employed） （標準化された被雇用者 100,000 人当たりの発生率）		
地域別・国別	2017 年	2018 年
EU-27	2.25	2.21



Luxembourg	2.59	6.42
Romania	5.72	5.27
Latvia	2.79	4.69
Cyprus	0.85	4.51
Austria	4.11	4.31
Lithuania	3.47	3.89
Bulgaria	4.30	3.81
France	3.58	3.70
Croatia	2.81	3.34
Czechia	2.10	2.85
Spain	2.89	2.84
Belgium	2.32	2.72
Italy	2.47	2.70
Portugal	3.86	2.69
Slovakia	2.78	2.57
Hungary	2.63	2.39
Malta	0.57	2.31
Slovenia	2.76	2.12
Ireland	2.53	2.04

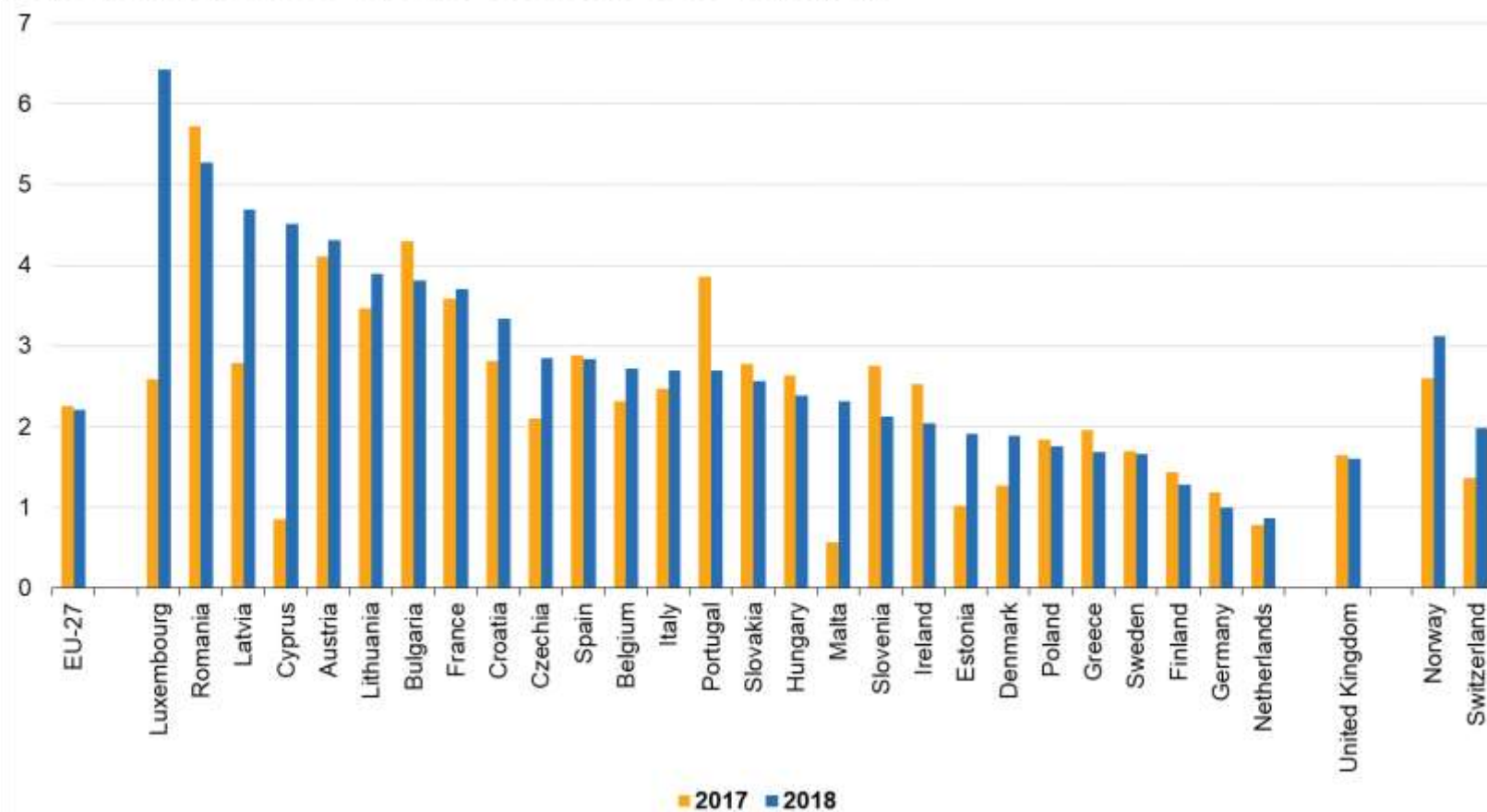
Estonia	1.02	1.91
Denmark	1.27	1.89
Poland	1.84	1.76
Greece	1.96	1.69
Sweden	1.70	1.66
Finland	1.44	1.28
Germany	1.19	1.00
Netherlands	0.78	0.87
United Kingdom	1.65	1.60
Norway	2.60	3.12
Switzerland	1.37	1.98
<p>Note: NACE Sections A and C-N.</p> <p>(注：欧州標準産業分類 A 及び C-N)</p>		
<p><i>Source:</i> Eurostat (online data code: hsw_mi01)</p> <p>(資料出所：欧州統計局（オンラインデータコード：hsw_mi01）)</p>		

Figure 3: Fatal accidents at work, 2017 and 2018、（図 3：職場での死亡災害、2017 年及び 2018 年）

(standardised incidence rates per 10,000 persons employed)(標準化された被雇用者 100,000 人当たりの発生率)

## Fatal accidents at work, 2017 and 2018

(standardised incidence rates per 100 000 persons employed)



Note: NACE Sections A and C-N.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_mi01)

Figure 4 shows that in 2018, the standardised incidence rate of non-fatal 図 4 によると、2018 年、職場での非致死的な事故の標準化発生率は、労災保

<p>accidents at work was generally highest in some EU Member States with insurance-based accident reporting systems: France reported 3 421 non-fatal accidents per 100 000 persons employed, followed by Portugal and Spain with rates of 3 343 and 3 275 per 100 000 persons employed. Insurance based accident reporting systems offer a significant financial compensation for the victim when an accident is reported, as opposed to legal obligation systems in which victims are covered by the general social security system. Among the eastern Member States, which mostly have legal obligation systems, Slovenia was the only country to report an incidence rate of more than 1 000 non-fatal accidents per 100 000 persons employed. By far the lowest standardised incidence rates were reported in Romania and Bulgaria, at 93 and 78 non-fatal work accidents per 100 000 persons employed in 2018; again it should be noted that these values may reflect a relatively high degree of under-reporting.</p>	<p>険ベースの事故報告システムを持つ一部の EU 加盟国で概して最も高かった。フランスは被雇用者 10 万人当たり 3 421 件の非死亡事故を報告しており、次いでポルトガルが被雇用者 10 万人当たり 3 343 件、スペインが被雇用者 10 万人当たり 3 275 件でした。労災保険ベースの事故報告制度は、事故が報告された場合に被害者に多額の金銭的補償を提供するもので、被害者が一般的な社会保障制度でカバーされる法的義務制度とは対照的です。</p> <p>ほとんどが法的義務制度を採用している東部加盟国の中で、被雇用者 10 万人当たりの非死亡事故発生率が 1,000 件を超えたのはスロベニアだけでした。標準化された発生率が圧倒的に低かったのはルーマニア及びブルガリアで、2018 年には被雇用者 10 万人当たり 93 件と 78 件の非致死性労働災害が報告されていますが、これらの値は比較的高度な過少報告を反映している可能性があることにも留意する必要があります。</p>
---	--

## Accidents at work

### Accidents at work statistics

**Figure 4: Non-fatal accidents at work, 2017 and 2018**

図 4：非致命的な職場での事故、2017 年及び 2018 年		
(standardised incidence rates per 100 000 persons employed) (被雇用者 100,000 人当たり演標準化された発生率)		
	暦年	
地域別及び国別	2017	2018
EU-27	1,801	1,769
France	3,307	3,421
Portugal	3,563	3,343
Spain	3,268	3,275
Luxembourg	2,131	2,286
Germany	2,058	1,986
Finland	1,906	1,892
Belgium	1,946	1,866
Austria	2,073	1,864
Denmark	1,614	1,770
Slovenia	1,637	1,567
Netherlands	1,452	1,432

Italy	1,456	1,383
Malta	1,058	1,202
Estonia	1,051	1,033
Czechia	884	949
Croatia	1,044	868
Ireland	1,116	790
Sweden	774	781
Cyprus	751	767
Hungary	640	596
Poland	518	574
Slovakia	531	539
Lithuania	377	354
Latvia	247	280
Greece	236	173
Romania	92	93
Bulgaria	79	78
United Kingdom	841	825
Switzerland	3,057	3,206
Norway	346	357

Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. NACE Sections A and C-N.

(注: ESAW の枠組みで報告された非致命的な(重大)事故とは、少なくとも 4 暦日以上の休業を意味する事故です。欧州標準産業分類 (NACE) セクション A 及び C-N)

Source: Eurostat (online data code: hsw\_mi01)

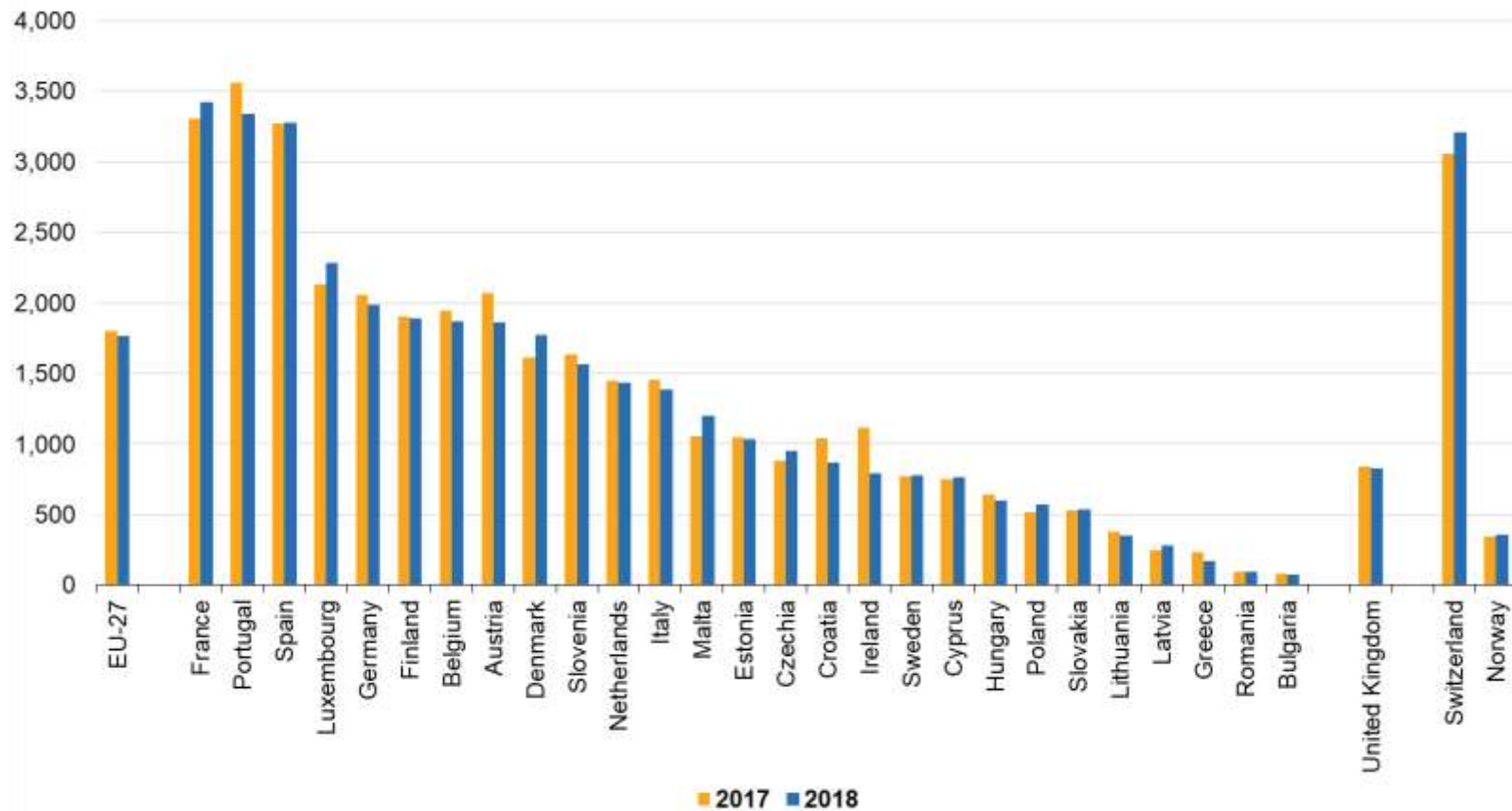
(資料出所: 欧州統計局 (オンラインデータコード: hsw\_mi01))

**Figure 4: Non-fatal accidents at work, 2017 and 2018**

**図 4: 非致命的な職場での事故、2017 年及び 2018 年**

## Non-fatal accidents at work, 2017 and 2018

(standardised incidence rates per 100 000 persons employed)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. NACE Sections A and C-N.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_mi01)

### Analysis by activity

As noted above, one of the main reasons why the incidence of accidents

### 活動別分析

前述のように、男性の方が女性よりも事故の発生率が高い理由の一つは、男性



<p>may be higher for men (than for women) is related to the economic activities where they are more likely to work. Indeed, the number of accidents at work varies greatly depending upon the economic activity in question (see Figure 5) and is positively skewed in relation to male-dominated activities.</p> <p>Within the EU-27, the construction, transportation and storage, manufacturing, and agriculture, forestry and fishing sectors together accounted for around two thirds (65.6 %) of all fatal accidents at work and more than two fifths (44.3 %) of all non-fatal accidents at work in 2018. In 2018, one fifth (20.5 %) of all fatal accidents at work in the EU-27 took place within the construction sector, while the transportation and storage sector (16.7 %) had the next highest share; manufacturing (15.2 %) and agriculture, forestry and fishing (13.2 %) were the only other NACE sections for which double-digit shares of the total number of fatal accidents were recorded.</p> <p>Non-fatal accidents were relatively common within manufacturing (19.1 % of the total in the EU-27 in 2018), wholesale and retail trade (12.1 %), construction (11.6 %), and human health and social work activities (10.8 %); these were the only NACE sections to record double-digit shares of the total number of non-fatal accidents.</p>	<p>が働く可能性の高い経済活動に関連しています。実際、職場での事故件数は、対象となる経済活動によって大きく異なり（図 5 参照）、男性が多い活動に関連して正の偏りが見られます。</p> <p>EU-27 域内では、2018 年、建設業、運輸及び倉庫業並びに製造業及び農林水産業の各部門を合わせると、職場での死亡事故の約 3 分の 2（65.6％）、職場での非致命的な事故の 5 分の 2 以上（44.3％）を占めています。2018 年では、EU-27 における職場での死亡事故の 5 分の 1（20.5％）は建設部門で発生しており、次に多いのは運輸及び倉庫部門（16.7％）でした。製造業（15.2％）と農業、林業及び漁業（13.2％）は、死亡事故の総数に占める二桁のシェアが記録された唯一の NACE セクションでした。</p> <p>非致命的な事故は、製造業（2018 年の EU-27 では全体の 19.1％）、卸売及び小売業（12.1％）、建設業（11.6％）、医療及び社会事業活動（10.8％）で比較的多く、これらは非致命的な事故の総数に二桁のシェアを記録した唯一の NACE セクションでした。</p>
---	--

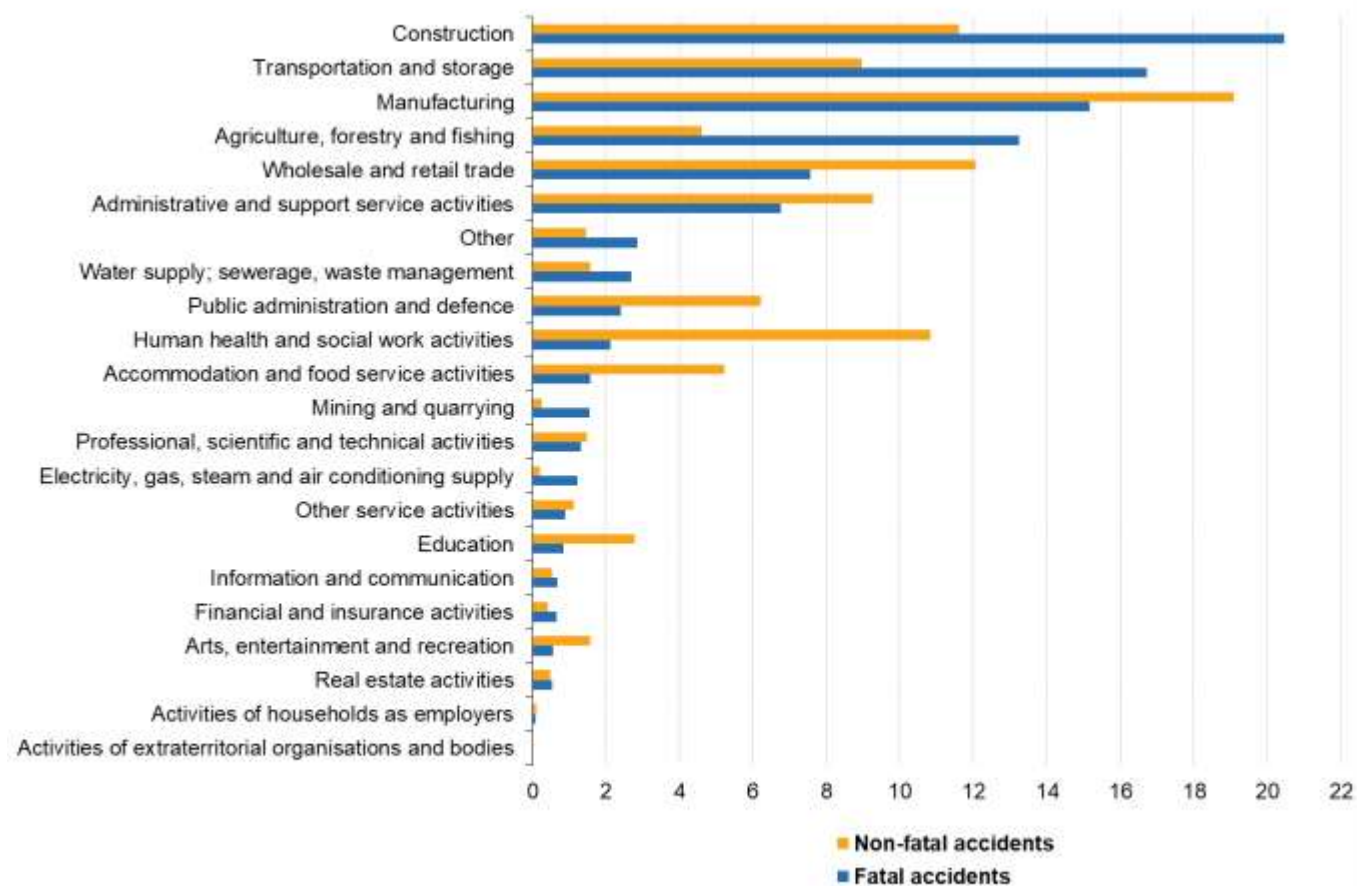
Accidents at work		
Accidents at work statistics		
<b>Figure 5: Fatal and non-fatal accidents at work by NACE section, EU-27, 2018</b> (図 5 : 2018 年における EU 加盟 27 か国の欧州標準産業分類別の致死性及び非致死的な災害)		
(% of fatal and non-fatal accidents) (致死性及び非致死的な災害の%)		
	Non-fatal accidents 非致死的な災害	Fatal accidents 致死的な災害
Construction	11.6	20.5
Transportation and storage	9.0	16.7
Manufacturing	19.1	15.2
Agriculture, forestry and fishing	4.6	13.2
Wholesale and retail trade	12.1	7.6
Administrative and support service activities	9.3	6.8
Other	1.5	2.9
Water supply; sewerage, waste management	1.6	2.7
Public administration and defence	6.2	2.4
Human health and social work activities	10.8	2.1

Accommodation and food service activities	5.2	1.6
Mining and quarrying	0.3	1.6
Professional, scientific and technical activities	1.5	1.3
Electricity, gas, steam and air conditioning supply	0.2	1.2
Other service activities	1.1	0.9
Education	2.8	0.8
Information and communication	0.5	0.7
Financial and insurance activities	0.4	0.7
Arts, entertainment and recreation	1.6	0.6
Real estate activities	0.5	0.5
Activities of households as employers	0.1	0.1
Activities of extraterritorial organisations and bodies	0.0	0.0
<p>Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. Ranked on the values for fatal accidents.</p> <p>(注 : ESAW の枠組みで報告される非致死的な (重大) 事故とは、少なくとも 4 暦日以上 の休業を伴う事故のことです。死亡事故の値に基づいてランク付けされています。)</p>		
<p><i>Source:</i> Eurostat (online data codes: hsw_n2_01 and hsw_n2_02)</p> <p>(資料出所 : 欧州統計局 (オンラインデータコード : hsw_n2_01 及び hsw_n2_02))</p>		

Figure 5: Fatal and non-fatal accidents at work by NACE section, EU-27, 2018

(図 5 : 2018 年における EU 加盟 27 か国の欧州標準産業分類別の致死性及び非致死的な災害)

# **Fatal and non-fatal accidents at work by NACE section, EU-27, 2018** (% of fatal and non-fatal accidents)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. Ranked on the values for fatal accidents.

Source: Eurostat (online data codes: hsw\_n2\_01 and hsw\_n2\_02)

Source: Eurostat (hsw\_n2\_01) and (hsw\_n2\_02)

(図 5 の業種分類の英語原文—日本語仮訳) (以下同じ。)	
英語原文、経済活動分野 (業種)	左欄の日本語仮訳
Construction	建設業
Transportation and storage	運輸及び倉庫業
Manufacturing	製造業
Agriculture, forestry and fishing	農業、林業及び漁業
Wholesale and retail trade	卸売り及び小売業
Administrative and support service activities	管理的及び支援的サービス業
Public administration and defence	公務及び国防
Water supply; sewerage, waste management	水道、下水処理及び廃棄物管理業
Accommodation and food service activities	宿泊及び食堂業
Mining and quarrying	鉱業及び採石業
Other	その他
Human health and social work activities	保健及び社会保障活動
Professional, scientific and technical activities	専門的、科学的及び技術的サービス業
Education	教育

Electricity, gas, steam and air conditioning supply	電気、ガス、蒸気及び空調供給業
Arts, entertainment and recreation	芸術、娯楽及びレクリエーション業
Information and communication	情報通信業
Financial and insurance activities	財務及び保険業
Other service activities	その他のサービス業
Real estate activities	不動産業
Activities of households as employers	使用者としての家主業
Activities of extraterritorial organisations and bodies	治外法権の組織及び活動

<p><b>Analysis by type of injury</b></p> <p>Figure 6 presents an analysis of data according to the type of injury sustained when people were involved in accidents. In the EU-27, there were two types of particularly common injury in 2018, namely, wounds and superficial injuries (29.3 % of the total) and dislocations, sprains and strains (26.4 %), followed by two other relatively common types, namely concussion and internal injuries (19.1 %) and bone fractures (10.7 %). None of the other types of injury accounted for a double-digit share of the total</p>	<p><b>傷害の種類による分析</b></p> <p>図 6 は、人々が事故に巻き込まれた際に受けた傷害の種類に応じたデータの分析を示しています。EU-27 では、2018 年に特に多かった傷害の種類は、「創傷及び表在性傷害」（全体の 29.3%）と「脱臼、捻挫及び筋違い」（26.4%）との 2 種類で、次いで他の比較的多い種類として「脳震盪及び内部傷害」（19.1%）と「骨折」（10.7%）の 2 種類がありました。</p> <p>EU-27 の事故件数に占めるその他の傷害の割合はいずれも 2 桁ではなく、次に多いのは「衝撃」（3.8%）及び「火傷・灼熱・凍傷」（1.7%）でした。</p>
--	--

<p>number of accidents in the EU-27, with the next highest shares for shock (3.8 %) and for burns, scalds and frostbite (1.7 %).</p> <p>Note that the data collected in the context of ESAW also include an analysis of which body parts were injured in accidents (such as the head, neck, back, torso and organs, arms and hands, legs and feet) as well as information on the causes and circumstances of accidents.</p>	<p>なお、ESAW で収集したデータには、事故でどの身体部位が負傷したかの分析（頭、首、背中、胴体及び内臓、腕及び手、足腰のような）並びに事故の原因及び状況に関する情報も含まれています。</p>
---	--

Accidents at work	
Accidents at work statistics	
<p>Figure 6: Fatal and non-fatal accidents at work by type of injury, EU-27, 2018</p> <p>（図 6 傷害の型別の致死性及び非致死的な職場での災害、EU 加盟 27 か国）</p>	
(% of accidents) (災害の%)	
	(%)
Wounds and superficial injuries	29.3
Dislocations, sprains and strains	26.4
Concussion and internal injuries	19.1
Bone fractures	10.7

Shock	3.8					
Burns, scalds and frostbite	1.7					
Multiple injuries	0.8					
Traumatic amputations (loss of body parts)	0.4					
Poisoning and infections	0.4					
Effects of extreme temperatures, light and radiation	0.3					
Effects of sound, vibration and pressure	0.3					
Drowning and asphyxiation	0.0					
Other and unspecified	7.0					
Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work.						
Source: Eurostat (online data code: hsw_n2_07)						

(資料作成者注：傷害の型についての「英語原文—日本語仮訳」)

type of injury	左欄の傷害の型の日本語訳
Wounds and superficial injuries	身体部の外傷及び上皮の傷害
Dislocations, sprains and strains	脱臼、捻挫及び挫傷



Concussion and internal injuries	震盪症及び内部傷害
Bone fractures	骨折
Shock	衝撃
Burns, scalds and frostbite	火炎による火傷、熱湯による火傷及び凍傷
Multiple injuries	複合的な負傷
Traumatic amputations (loss of body parts)	外傷性の切断（身体の一部の喪失）
Poisoning and infections	中毒及び感染症
Effects of extreme temperatures, light and radiation	極端な温度、光及び放射線の影響
Effects of sound, vibration and pressure	音響、振動及び圧力による影響
Drowning and asphyxiation	溺死及び窒息
Other and unspecified	その他及び特定不能

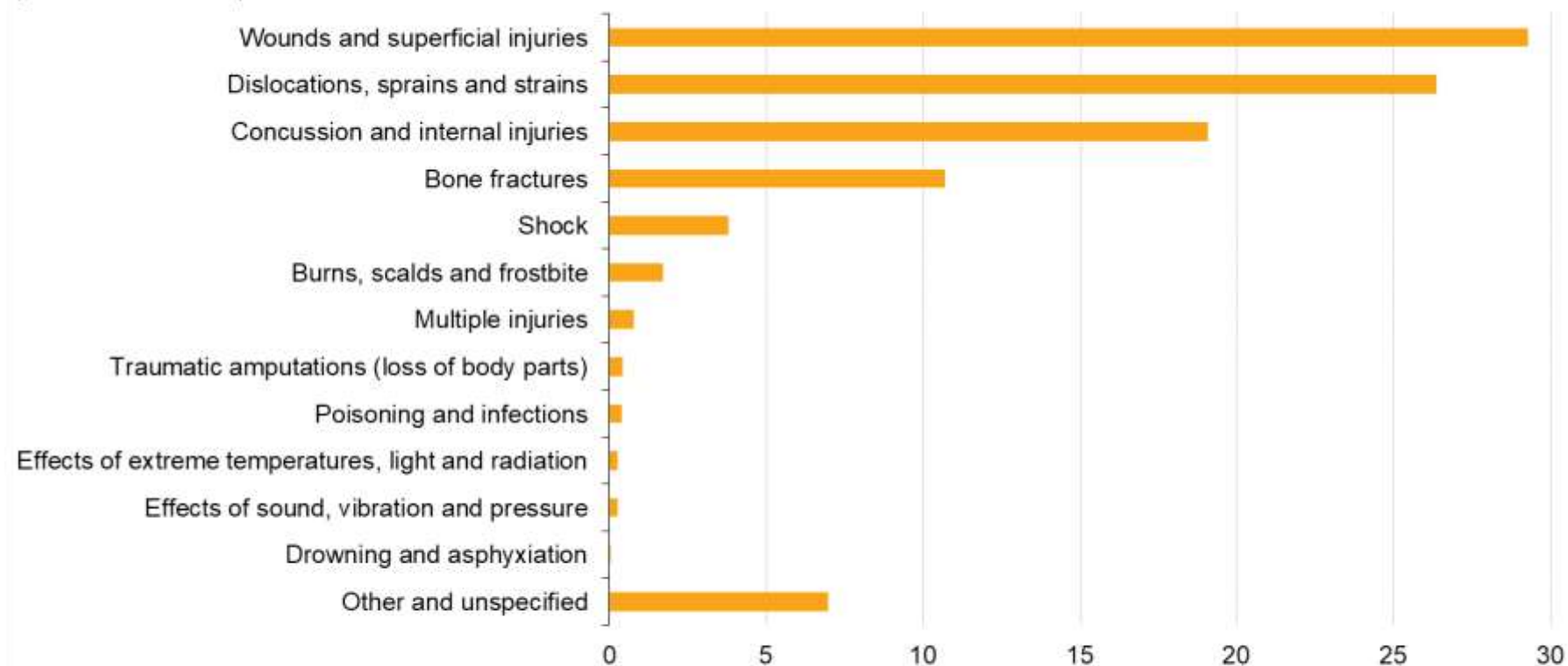
**Figure 6: Fatal and non-fatal accidents at work by type of injury, EU-27, 2018**

(図 6 傷害の型別の致命的及び非致命的な職場での災害、EU 加盟 27 か国)

(% of accidents) (災害の%)

### Fatal and non-fatal accidents at work by type of injury, EU-27, 2018

(% of accidents)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_07)

Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full

calendar days of absence from work. Ranked on the values for fatal accidents.

(注：ESAW の枠組みで報告される非致命的な（重大）事故とは、少なくとも 4 暦日以上の休業を伴う事故のことです。死亡事故の値に基づいてランク付けされています。)

*Source:* Eurostat (online data codes: hsw\_n2\_01 and hsw\_n2\_02)

(資料出所：欧州統計局（オンラインデータコード：hsw\_n2\_01 及び hsw\_n2\_02）)

## Accidents 2010 to 2018

It is also possible to analyse ESAW data over time, with information for all 27 of the EU Member States available for the period from 2010 to 2018.

Note however that there were some considerable changes in the way that data were collected during this period and as a result there are a number of breaks in series. This is particularly the case for Belgium, Greece, France, Italy, the Netherlands and Finland — see the ‘Data sources’ section below for more details.

## 2010 年から 2018 年までの事故

ESAW のデータは時系列で分析することも可能で、2010 年から 2018 年までの期間、EU 加盟国全 27 カ国の情報が入手できます。

ただし、この期間中にデータの収集方法が大幅に変更されたため、一連のデータにいくつかの切れ目があることに注意してください。

特に、ベルギー、ギリシャ、フランス、イタリア、オランダ及びフィンランドについては、詳細は下記の「データソース」の項を参照してください。

## Accidents at work

### Accidents at work statistics

Figure 7: Overall change in the incidence of non-fatal accidents at work by NACE division, EU-27, 2010-2018

(図 7 欧州標準産業分類別の職場における非致命的な災害の発生率の総括的变化、EU 加盟 27 各国、2010 年~2018 年)

(incidence rates per 100 000 persons employed) (被雇用者 100,000 人当たりの発生率)

欧州標準産業分類における業種別コード番号	業種	被雇用者 100,000 人当たりの発生率の変化
A01	Crop and animal production, hunting and related service activities	713
A03	Fishing and aquaculture	679
T98	Undifferentiated goods and services of private households for own use	512
M75	Veterinary activities	457
H50	Water transport	303
J59	Motion picture, video & TV prog. prod., sound record. & music publish.	300
O84	Public administration and defence; compulsory social security	298
R90	Creative, arts and entertainment activities	284
F42	Civil engineering	271
N81	Services to buildings and landscape activities	263
A-U	All activities	-140

B05	Mining of coal and lignite	-975
C18	Printing and reproduction of recorded media	-977
C24	Manufacture of basic metals	-984
H51	Air transport	-989
B08	Other mining and quarrying	-999
B07	Mining of metal ores	-1,076
C31	Manufacture of furniture	-1,350
E39	Remediation activities & other waste management services	-1,530
N78	Employment activities	-1,607
A02	Forestry and logging	-1,821

**Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. Ranked on the values for fatal accidents.**

(注：ESAW の枠組みで報告される非致死的な（重大）事故とは、少なくとも 4 暦日以上の休業を伴う事故のことです。死亡事故の値に基づいてランク付けされています。)

**Source: Eurostat (online data codes: hsw\_n2\_01 and hsw\_n2\_02)**

(資料出所：欧州統計局（オンラインデータコード：hsw\_n2\_01 及び hsw\_n2\_02）)

Figure 7: Overall change in the incidence of non-fatal accidents at work by NACE division, EU-27, 2010-2018

(図 7 欧州標準産業分類別の職場における非致命的な災害の発生率の総括的变化、EU 加盟 27 各国、2010 年~2018 年)

(incidence rates per 100 000 persons employed) (被雇用者 100,000 人当たりの発生率)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. The figure shows the 10 NACE divisions with the highest/lowest absolute changes in their incidence rates between 2010 and 2018.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_01)

(資料作成者注：図7の左欄中にある産業分類の「英語原文—日本語仮訳」は、次の表のとおりです。)

Crop and animal production, hunting and related service activities	農作物及び動物の生産、狩猟及び関連サービス活動
Fishing and aquaculture	漁業及び水産養殖業
Undifferentiated goods and services of private households for own use	私的使用のための未分化商品及びサービス
Veterinary activities	獣医学的活動
Water transport	水運業
Motion picture, video & TV prog. prod., sound record. & music publish.	映画、ビデオ及びテレビ番組制作、サウンドレコード及び音楽出版
Public administration and defence; compulsory social security	公務行政及び防衛、法的な社会保障
Creative, arts and entertainment activities	創作、芸術及び娯楽活動
Civil engineering	土木工学
Services to buildings and landscape activities	建築物及び景観に関わるサービス
All activities	すべての活動
Mining of coal and lignite	石炭及び亜炭の採掘
Printing and reproduction of recorded media	記録媒体の印刷及び複製
Manufacture of basic metals	基礎金属の製造

Air transport	航空輸送
Other mining and quarrying	その他の鉱業及び採石
Mining of metal ores	金属鉱石の採掘
Manufacture of furniture	家具の製造
Remediation activities & other waste management services	浄化活動及びその他の廃棄物管理サービス
Employment activities	雇用活動
Forestry and logging	林業及び伐採

<p>This section looks at relative changes in the number of accidents and their incidence rates for the period from 2010 to 2018. The number of accidents in a particular year is likely to be related, at least to some extent, to the overall level of economic activity and the total number of persons in employment, with fewer accidents during periods when there was a contraction in overall levels of economic activity.</p> <p>Figure 8 shows the five NACE sections with the highest risk levels for accidents at work in the EU-27, namely, agriculture, forestry and fishing (NACE Section A), manufacturing (NACE Section C), construction (NACE Section F), wholesale and retail trade (NACE Section G) and</p>	<p>この節では、2010 年から 2018 年までの災害件数及び発生率の相対的な変化を見ています。特定の年の災害件数は、少なくとも経済活動全体のレベルと被雇用者数にある程度関連していると考えられ、経済活動全体のレベルが低下した時期には事故件数が減少します。</p> <p>図 8 は、EU-27 で労働災害のリスクレベルが最も高い 5 つの NACE セクション、すなわち、農業、林業及び漁業（NACE セクション A）、製造業（NACE セクション C）、建設業（NACE セクション F）、卸売及び小売業（NACE セクション G）、輸送及び倉庫業（NACE セクション H）を示しています。</p>
--	---



<p>transportation and storage (NACE Section H). Between 2010 and 2018, there was a reduction in the number of fatalities at work in the EU-27 for all five of these activities. Agriculture, forestry and fishing as well as transportation and storage recorded the smallest reductions in fatalities from accidents at work (in both absolute and relative terms). By contrast, the largest absolute reduction in fatalities from accidents at work was in the EU-27's construction sector, where there were 317 fewer in 2018 than there had been in 2010. As such, the number of fatalities in the construction sector declined by 31.7 %, while there was a slightly bigger relative reduction in fatalities for the EU-27's wholesale and retail trade sector (down 34.5 % during the period under consideration).</p>	<p>2010 年から 2018 年にかけて、EU-27 ではこれら 5 つの活動すべてにおいて、職場での死亡者数が減少しています。労働災害による死亡者数の減少が最も少なかったのは、農業、林業及び漁業並びに輸送及び倉庫業でした（絶対値及び相対値の両方において）。</p> <p>対照的に、労働災害による死亡者数の絶対的な減少が最も大きかったのは EU-27 の建設部門で、2018 年の死亡者数は 2010 年に比べて 317 人減少しました。</p> <p>このように、建設部門の死亡者数は 31.7%減少しましたが、EU-27 の卸売及び小売業部門の死亡者数の相対的な減少幅はやや大きかったものです（対象期間中に 34.5%減少）。</p>
--	--

**Figure 8: Development of fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest risk levels, EU-27, 2010-2018(persons)**  
 (図 8 最も高いリスクの水準にある欧州標準産業分類の 5 つの業種についての致死的な災害の変遷 (人数))

Figure 8: Development of fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest risk levels, EU-27, 2010-2018 (図 8 最も高いリスクの水準にある欧州標準産業分類の 5 つの業種についての致死的な災害の変遷 (人数))										
		2010 <sup>(1)</sup>	2011	2012	2013	2014	2015 <sup>(2)</sup>	2016	2017 <sup>(3)</sup>	2018
A	Agriculture, forestry and fishing	549	509	485	442	507	477	481	408	441
C	Manufacturing	682	651	631	563	558	632	525	472	505

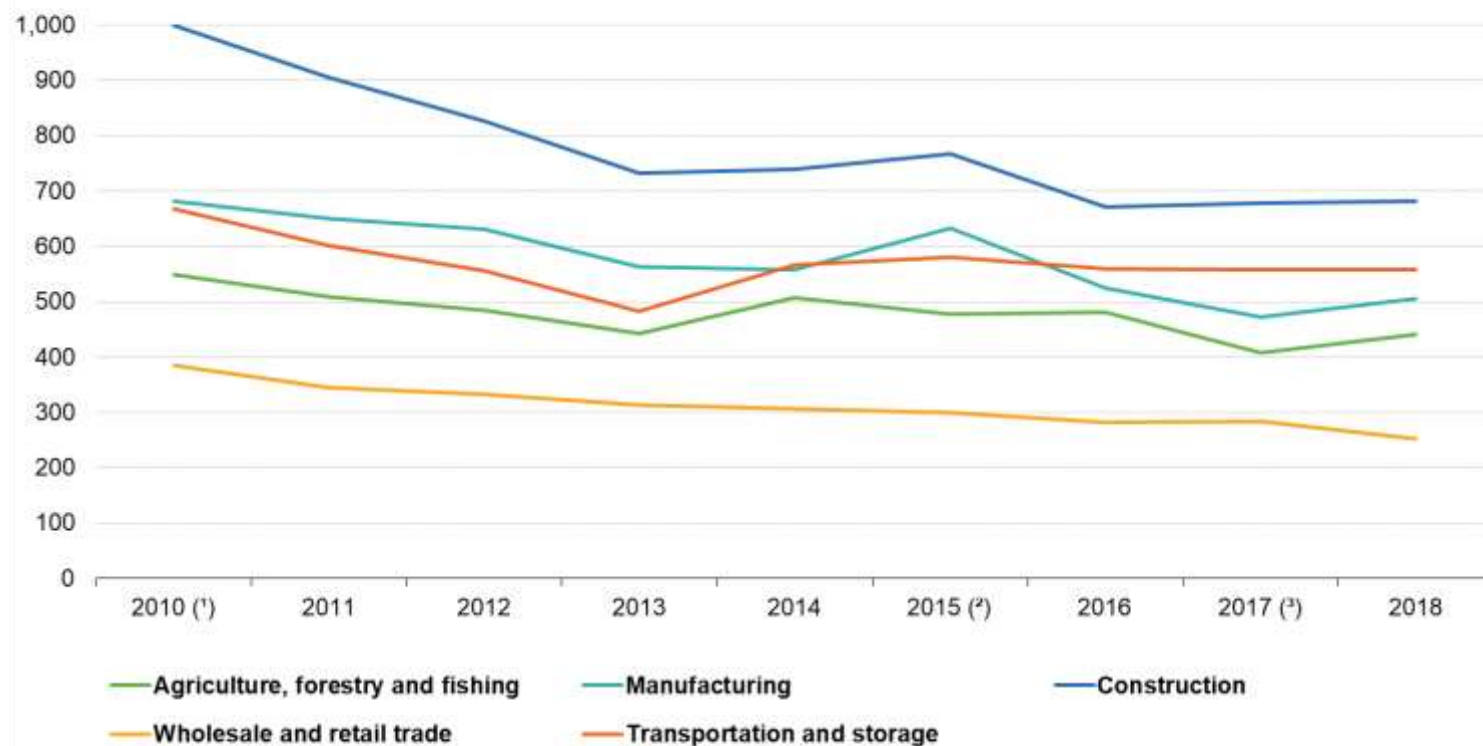
F	Construction	999	905	826	733	740	767	671	679	682
G	Wholesale and retail trade	385	344	332	314	306	300	282	283	252
H	Transportation and storage	668	601	556	483	566	580	559	558	557
	( <sup>1</sup> ) Estimates, except for agriculture, forestry and fishing and manufacturing.									
	( <sup>2</sup> ) Agriculture, forestry and fishing and wholesale and retail trade: low reliability. Manufacturing, construction and transportation and storage: estimates.									
	( <sup>3</sup> ) Low reliability.									
	<i>Source:</i> Eurostat (online data code: hsw_n2_07)									

Figure 8: Development of fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest risk levels, EU-27, 2010-2018(persons)

(図 8 最も高いリスクの水準にある欧州標準産業分類の 5 つの業種についての致命的な災害の変遷 (人数))

### Development of fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest risk levels, EU-27, 2010-2018

(persons)



(¹) Estimates, except for agriculture, forestry and fishing and manufacturing.

(²) Agriculture, forestry and fishing and wholesale and retail trade: low reliability. Manufacturing, construction and transportation and storage: estimates.

(³) Low reliability.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_07)

<p>Figure 9 complements the information shown in Figure 8, presenting a similar analysis for non-fatal accidents. Across the EU-27, the total number of non-fatal accidents declined for each of the five NACE sections when comparing the levels of accidents at work in 2010 and 2018. The biggest reductions in non-fatal accidents across the EU-27 were recorded for manufacturing (142 000 fewer non-fatal accidents) and construction (down 114 000), with relatively modest falls for agriculture, forestry and fishing (down 14 000) and transportation and storage (down 12 000).</p> <p>Between 2010 and 2018, the number of non-fatal accidents at work in the EU-27 fell by almost one quarter in the construction sector (down 23.8 %</p> <p>Between 2010 and 2018, the number of non-fatal accidents at work in the EU-27 fell by almost one quarter in the construction sector (down 23.8 %), while there were also relatively large falls in the number of non-fatal accidents at work for manufacturing (down 19.2 %) and wholesale and retail trade (down 15.7 %).</p>	<p>図 9 は、図 8 に示した情報を補完するもので、非致命的な災害について同様の分析を示しています。2010 年と 2018 年との労働災害の水準を比較すると、EU-27 全体で、5 つの NACE セクションのそれぞれで非致命的な災害の総数が減少しています。</p> <p>EU-27 全体で非死致死的な災害が最も減少したのは、製造業（142,000 件減）及び建設業（114,000 件減）で、農林水産業（14,000 件減）並びに運輸及び倉庫業（12,000 件減）は比較的小幅な減少にとどまりました。</p> <p>2010 年から 2018 年の間に、EU-27 の職場での非致命的な災害の数は、建設部門でほぼ 4 分の 1 に減少しました（23.8%減）。</p> <p>一方、製造業（19.2%減）並びに卸売及び小売業（15.7%減）の非致命的な災害件数は比較的大きく減少しました。。</p>
---	---

**Figure 9: Development of non-fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest risk levels, EU-27, 2010-2018**  
**(thousands : 単位 千人)**

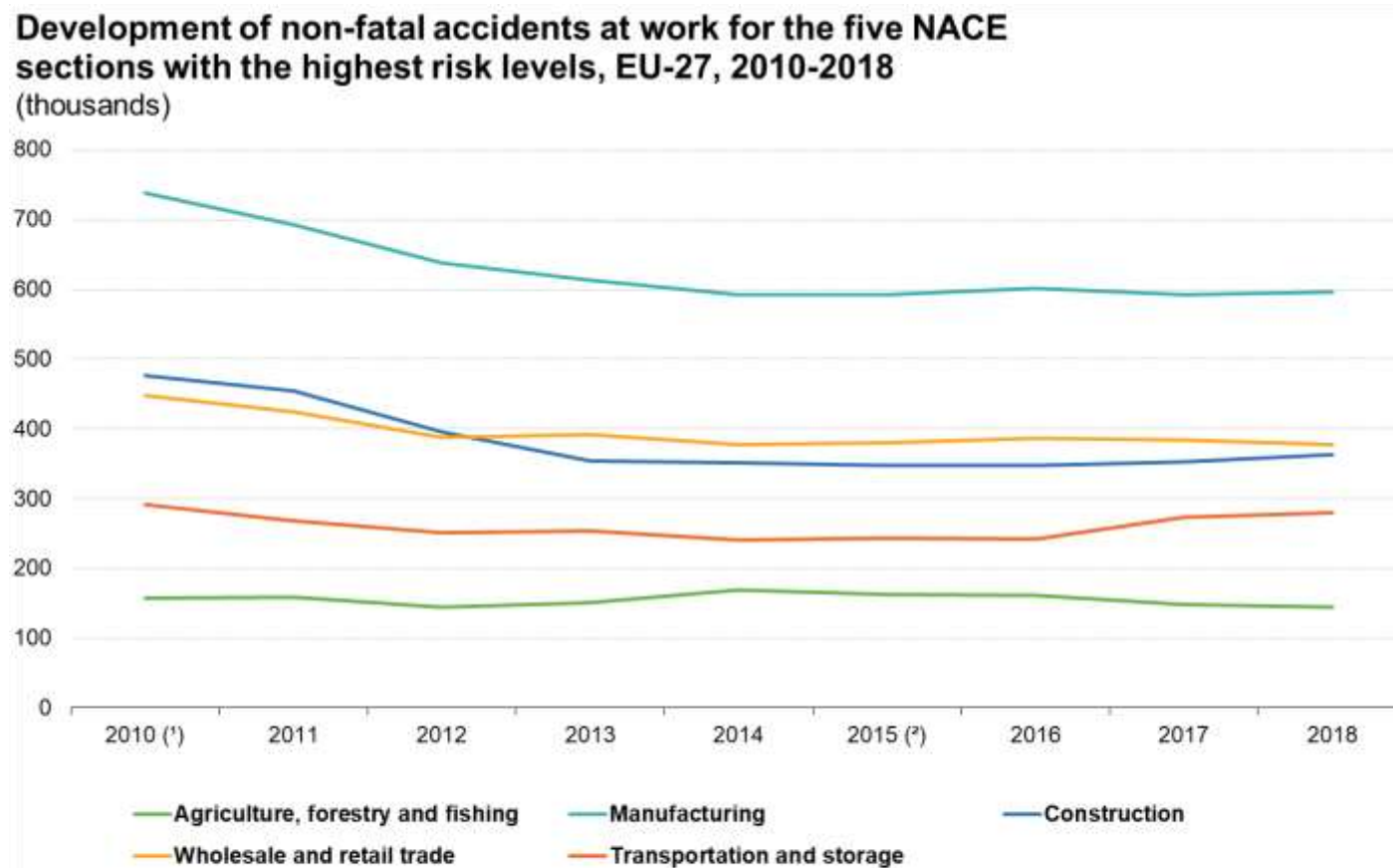
(図 9 リスクが最も高い水準にある欧州標準産業分類の 5 業種についての職場における非致命的な災害の変遷：単位 千人)

**Figure 9: Development of non-fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest risk levels, EU-27, 2010-2018**

(thousands) (単位： 千人)										
欧州標準産業分類 のコード名	欧州標準産業分類の 5 業種	2010 ( <sup>1</sup> )	2011	2012	2013	2014	2015 ( <sup>2</sup> )	2016	2017	2018
A	Agriculture, forestry and fishing	158	159	144	151	169	163	161	148	144
C	Manufacturing	739	693	638	613	592	592	601	592	597
F	Construction	476	455	396	354	352	347	347	353	363
G	Wholesale and retail trade	448	424	388	392	378	380	386	384	377
H	Transportation and storage	292	269	251	253	240	244	241	273	280

Figure 9: Development of non-fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest risk levels, EU-27, 2010-2018

(図9 リスクが最も高い水準にある欧州標準産業分類の5業種についての職場における非致命的な災害の変遷：単位 千人)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work.

(¹) Estimates, except for agriculture, forestry and fishing.

(²) Construction: estimate.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_07)

<p>The final analysis is presented for NACE divisions, detailing those activities with the highest/lowest relative changes in their incidence rates for non-fatal accidents between 2010 and 2018.</p> <p>Across the EU-27, the number of non-fatal accidents per 100 000 persons employed fell by 7.8 % across all activities. The largest contractions — more than 50 % overall during the period under consideration (see Figure 10) — were for: the manufacture of computer, electronic and optical products; information service activities; programming and broadcasting activities (which recorded the biggest decline; down 65.3 %).</p> <p>The incidence of non-fatal accidents in the EU-27 increased greatly for crop and animal production, hunting and related service activities (up 61.6 % between 2010 and 2018) and for motion picture, video and television programming, sound recording and music publishing (up 46.6 %).</p> <p>Non-fatal accidents in the EU-27 increased by slightly more than one third during the period under consideration for the three remaining activities shown in the right-hand half of Figure 10.</p>	<p>最終的な分析は NACE 区分ごとに行われ、2010 年から 2018 年の間に非死亡事故の発生率の相対的变化が最も高かった/低かった活動の詳細が示されています。</p> <p>EU-27 全体では、被雇用者 10 万人当たりの非致命的な災害件数は、すべての活動において 7.8%減少しました。最も大きく減少した一検討中の期間において 50%を超えて一のは、コンピュータ、電子及び光学製品の製造、情報サービス業、番組制作及び放送業（65.3%減）でした（図 10 参照）。</p> <p>EU-27 における非致命的な災害の発生率は、農作物及び動物の生産、狩猟及び関連サービス活動（2010 年から 2018 年の間に 61.6%増）、映画、ビデオ及びテレビ番組並びに録音及び音楽出版（46.6%増）で大きく増加しました。</p> <p>EU-27 の非致命的な災害は、図 10 の右半分に示した残りの 3 つの活動について、対象期間中に 3 分の 1 強の増加となりました。</p>
--	---

Figure 10: Development of non-fatal accidents at work for the five NACE divisions with the highest and lowest relative changes in incidence rates, EU-27, 2010-2018

(incidence rates per 100 000 persons employed)

(図 10：発生率の相対的変化が最も大きい及び小さい 5 つの NACE 部門の職場での非致命的災害の変遷、EU-27、2010 年-2018 年

(被雇用者 10 万人当たりの発生率)

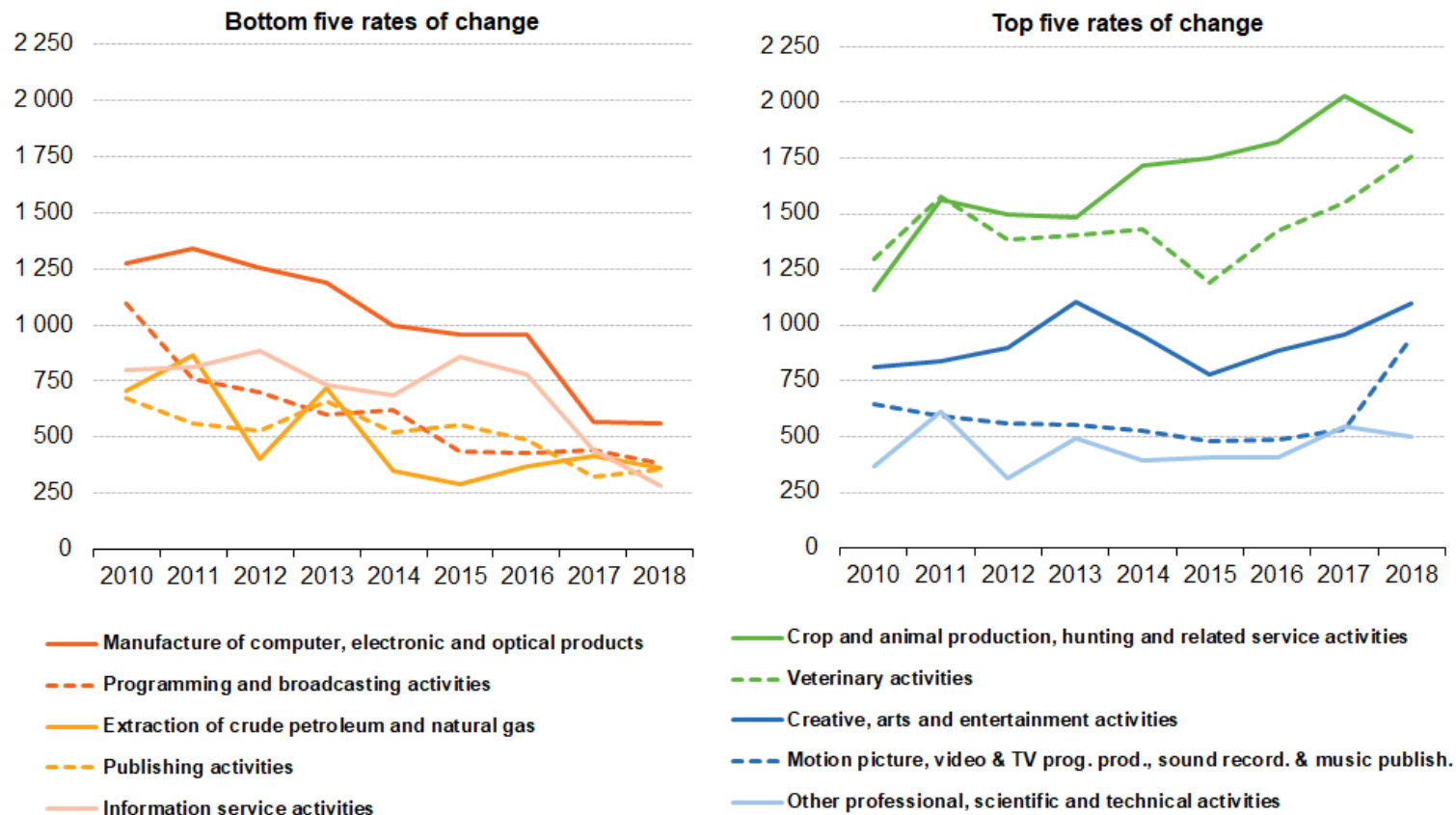
欧州標準産業分類におけるコード番号	業種	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
J58	Publishing activities	672	564	530	659	524	558	488	324	355
B06	Extraction of crude petroleum and natural gas	706	864	407	720	353	291	368	415	364
C26	Manufacture of computer, electronic and optical products	1,274	1,341	1,256	1,188	996	956	955	569	559
J63	Information service activities	800	811	885	732	689	860	780	445	286
J60	Programming and broadcasting activities	1,096	760	703	601	620	437	427	442	380
		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
A01	Crop and animal production, hunting and	1,157	1,563	1,497	1,487	1,716	1,750	1,822	2,031	1,869



	related service activities									
J59	Motion picture, video & TV prog. prod., sound record. & music publish.	644	593	562	556	527	479	486	530	944
M74	Other professional, scientific and technical activities	365	610	311	492	392	404	407	545	498
M75	Veterinary activities	1,300	1,580	1,384	1,402	1,432	1,190	1,425	1,548	1,758
R90	Creative, arts and entertainment activities	814	836	898	1,107	952	777	885	956	1,099
	<p>Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. The figure shows the five NACE divisions with the highest/lowest relative changes in their incidence rates between 2010 and 2018. Excluding undifferentiated goods- and services-producing activities of private households for own use and activities of extraterritorial organisations and bodies.</p> <p>(注：ESAW の枠組みで報告された非致死的な災害（重大）は、少なくとも 4 暦日の欠勤を意味する事故です。図は、2010 年から 2018 年の間に発生率の相対的変化が最も大きい/小さい 5 つの NACE 区分を示しています。自家使用を目的とした民間世帯の未分化な製品及びサービス生産活動並びに域外の組織及び団体の活動を除く。)</p>									

## Development of non-fatal accidents at work for the five NACE divisions with the highest and lowest relative changes in incidence rates, EU-27, 2010-2018

(incidence rates per 100 000 persons employed)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. The figure shows the five NACE divisions with the highest/lowest relative changes in their incidence rates between 2010 and 2018. Excluding undifferentiated goods- and services-producing activities of private households for own use and activities of extraterritorial organisations and bodies.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_01)

(資料作成者注：図 10 中の業種分類の「英語原文—日本語仮訳」は、次の表のとおりです。)

<b>J58</b>	<b>Publishing activities</b>	出版活動
<b>B06</b>	<b>Extraction of crude petroleum and natural gas</b>	原油及び天然ガスの採取
<b>C26</b>	<b>Manufacture of computer, electronic and optical products</b>	コンピュータ、電子機器及び光学製品の製造
<b>J63</b>	<b>Information service activities</b>	情報サービス業
<b>J60</b>	<b>Programming and broadcasting activities</b>	番組及び放送事業
<b>A01</b>	<b>Crop and animal production, hunting and related service activities</b>	農作物及び動物の生産、狩猟及び関連サービス業
<b>J59</b>	<b>Motion picture, video &amp; TV prog. prod., sound record. &amp; music publish.</b>	映画、ビデオ及びテレビ番組制作、サウンドレコード及び音楽出版
<b>M74</b>	<b>Other professional, scientific and technical activities</b>	その他の専門的、科学的及び技術的活動
<b>M75</b>	<b>Veterinary activities</b>	獣医学的活動
<b>R90</b>	<b>Creative, arts and entertainment activities</b>	創作、芸術及び娯楽活動

Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. The figure shows the five NACE divisions with the highest/lowest relative changes in their incidence rates between 2010 and 2019. Excluding undifferentiated goods- and services-producing activities of private households for own use and activities of extrajuridical organisations and bodies.

Source: Eurostat (online data code: hsw\_n2\_01)

注：ESAW の枠組みで報告された非致命的な（重大）災害は、少なくとも 4 暦日の欠勤を意味する事故です。

図は、2010 年から 2018 年の間に発生率の相対的変化が最も大きい/小さい 5 つの NACE 区分を示しています。自家使用を目的とした民間世帯の未分化な製品及びサービス生産活動並びに域外の組織及び団体の活動を除く。

出典 Eurostat（オンラインデータコード：HSW\_n2\_01）

## Source data for tables and graphs

 [Accidents at work: tables and figures](#)

## 表及びグラフのソースデータ

 [Accidents at work: tables and figures](#) 職場での災害：表及びグラフ

## Data sources

In December 2008, the [European Parliament](#) and the [Council](#) adopted [Regulation \(EC\) No 1338/2008](#) on Community statistics on public health and health and safety at work. The Regulation is designed to ensure that health statistics provide adequate information for all EU Member States to monitor Community actions in the field of public health and health and safety at work. In April 2011, a [European Commission Regulation \(EU\) No 349/2011](#) on statistics on accidents at

## データソース

2008 年 12 月に、欧州議会及び欧州理事会は、公衆衛生及び労働における安全衛生に関する共同体統計に関する規則（EC）No1338/2008 を採択しました。この規則は、公衆衛生及び労働における健康及び安全の分野における共同体の活動を監視するために、保健統計がすべての EU 加盟国に適切な情報を提供することを目的としています。

2011 年 4 月には、労働災害の統計に関する欧州委員会規則(EU) No 349/2011 が採択され、EU 加盟国が提供することが求められる変数、内訳、メタデータが詳細に規定されました。

<p>work was adopted specifying in detail the variables, breakdowns and metadata that EU Member States are required to deliver; this legislation is being implemented in a number of phases.</p>	<p>この規則は、いくつかの段階を経て実施されています。</p>
<p>European statistics on accidents at work (ESAW) is the main data source for EU statistics relating to health and safety at work issues. ESAW includes data on occupational accidents that result in at least four calendar days of absence from work, including fatal accidents. The phrase ‘during the course of work’ means while engaged in an occupational activity or during the time spent at work. This generally includes cases of road traffic accidents in the course of work but excludes accidents during the journey between home and the workplace.</p> <p>The statistics presented for accidents at work refer to declarations made either to public (social security administrations) or private insurance schemes, or to other relevant national authorities (for example, those controlling labour or workplace inspections). Indicators on accidents at work may be presented as absolute values, as percentage distributions, as incidence rates in relation to every 100 000 persons employed (the denominator being provided by the authorities in the EU Member States that are responsible for ESAW data collection or by the EU’s labour force survey (LFS)) or as standardised incidence rates.</p>	<p>ESAW (European statistics on accidents at work) は、職場の安全衛生に関連する EU の統計の主要なデータソースです。</p> <p>ESAW には、死亡事故を含め、少なくとも 4 暦日以上の休業を余儀なくされた労働災害のデータが含まれています。「職場で」とは、職業活動に従事している間又は作業中の時間を意味します。</p> <p>一般に、作業中の交通事故のケースは含まれますが、自宅と職場との間の移動中の事故は除外されます。</p> <p>労働災害に関する統計は、公的機関（社会保障当局）若しくは民間の保険制度又はその他の関連国家機関（例えば労働又は職場の検査を管理する機関）に提出された申告書を参照しています。労働災害に関する指標は、絶対値、パーセント分布、被雇用者 10 万人当たりの発生率（分母は ESAW データ収集を担当する EU 加盟国の当局若しくは EU の労働力調査(LFS)が提供しています。）又は標準化された発生率として表示されます。</p>

<p>The data generally relate to all economic activities, unless otherwise specified. For example, the analyses in Figures 3 and 4 cover NACE Sections A and C to N. Because the frequency of accidents at work varies between NACE activities — high risk activities include: agriculture, forestry and fishing; manufacturing; construction; wholesale and retail trade; and transportation and storage — a standardisation procedure is performed to facilitate the comparison of national data. A direct standardisation method is used with weights calculated for the European reference population (EU-27): the weights represent the proportion of the reference (working) population in each NACE activity. For each EU Member State the national incidence rates are calculated for each NACE activity and these are combined using the fixed set of EU-27 weights to produce an overall standardised incidence rate for the Member State concerned. More details are available in a methodological note.</p> <p>Statistics on accidents at work may reflect under-coverage or under-reporting. Under-coverage exists when the appropriate population is not covered by the data source for accidents, for example when a certain economic sector or employment type is excluded. Under-reporting relates to the situation where an accident occurs but is not reported although the related economic sector is included. The extent of under-coverage of ESAW</p>	<p>データは、特に指定のない限り、一般的にすべての経済活動を対象としています。</p> <p>例えば、図 3 及び図 4 の分析は、NACE セクション A、C から N までを対象としています。</p> <p>労働災害の発生頻度は NACE の活動ごとに異なるため（リスクの高い活動には、農業、林業、漁業、製造業、建設業、卸売及び小売業、運輸及び倉庫業が含まれます。）、各国のデータの比較を容易にするために、標準化手順を実施しています。</p> <p>欧州の基準人口（EU-27）に基づいて計算された重みを用いた直接的な標準化方法が用いられています。重みは、各 NACE 活動における基準（労働）人口の割合を表しています。各 EU 加盟国では、各 NACE 活動ごとに国別の発生率が算出され、これらが EU-27 の固定された重みを用いて結合され、当該加盟国の全体的な標準化罹患率が算出されます。詳細については、方法論ノートをご覧ください。</p> <p>労働災害に関する統計には、カバー率の低さ又は 報告数の少なさが反映されている場合があります。過少申告とは、例えば事故に関するデータソースで適切な人口がカバーされていない場合、特定の経済部門又は雇用形態が除外されていることをいいます。</p> <p>過少報告とは、事故が発生したにもかかわらず、関連する経済部門が含まれていないにもかかわらず報告されていない状況を指します。</p>
---	---

<p>data can be analysed partially by comparing the reference population (of workers) in ESAW with data derived from the LFS. Under-reporting is more difficult to analyse and establish but some comparisons are available. One method is to compare results from the reporting systems used for the legal obligation to report an accident with systems based on insurance reports; this may indicate under-reporting in the system for the legal obligation of accidents or over-reporting in insurance systems. Another method is to compare (geographically or over time) the ratio of fatal to non-fatal accidents, as the reporting of fatal accidents is thought to be more likely to be accurate due to their severe nature. Comparisons can also be made with data from household surveys, for example from the LFS (which included an ad hoc module in 2013 on accidents at work and work-related health problems).</p> <p>In addition, changes in the way data are collected and processed in the EU Member States may have an influence on the number and incidence of accidents at work in a particular year. For example, on 30 June 2016 a number of derogations from provisions in the EU regulation governing ESAW ended in several of the Member States. This had a significant effect on the data concerning accidents at work for reference year 2014. For example, for the first time French data included full coverage of all</p>	<p>ESAW データの過少申告の程度は、ESAW の基準集団（労働者）と LFS から得られたデータとを比較することで部分的に分析することができます。過少申告の分析と立証はより困難ですが、いくつかの比較が可能です。</p> <p>1 つの方法は、事故報告の法的義務のために使用される報告システムと労災保険報告に基づくシステムの結果とを比較することです。これにより、事故報告の法的義務のためのシステムでの過少報告又は労災保険システムでの過剰報告を示すことができます。</p> <p>別の方法として、致死的な事故と非致死的な事故の比率を（地理的又は時間的に）比較することもできます。致死的な事故の報告は、その重大性ゆえに正確である可能性が高いと考えられるからです。また、LFS（2013 年に仕事上の事故と仕事に関連した健康問題に関するアドホック・モジュールが追加されました。）のような家計調査のデータと比較することもできます。</p> <p>また、EU 加盟国におけるデータの収集及び処理方法の変更が、特定の年の労働災害の件数及び発生率に影響を与える可能性があります。</p> <p>例えば、2016 年 6 月 30 日、いくつかの加盟国において、ESAW を規定する EU 規則の規定からのいくつかの特例が終了しました。</p> <p>これは、基準年 2014 年の労働災害に関するデータに大きな影響を与えました。例えば、フランスのデータでは初めて、NACE セクション A～S でカバーされる経済部門の全被雇用者が網羅されました。</p>
--	--



<p>employees in economic sectors covered by NACE Sections A-S. This led to a substantial apparent increase in the number of accidents recorded in France (compared with 2013). In a similar vein, the 2014 data for Belgium included information pertaining to accidents in the public sector for the first time and this also resulted in an increase in the reported number of accidents.</p> <p>In 2016, some correction factors were removed from Greek data by the national statistical office due to methodological issues which caused a very considerable reduction in the number of accidents reported for reference year 2014 (compared with 2013); it is expected that a more complete Greek dataset will be received in the coming years, which should lead to a higher number of reported accidents again. Finally, Dutch and Norwegian data (the latter are not included in the EU-27 total) for the 2014 reference year for non-fatal accidents displayed a significant decrease due to methodological issues. If the Belgian, Greek, French, Dutch and Finnish data were to be removed from the EU-27 total, the development in the total number of accidents between 2013 and 2014 would be almost unchanged (a small decrease, down 1.3 %).</p>	<p>これにより、フランスで記録された事故の数は大幅に見かけ上増加しました（2013 年と比較して）。</p> <p>同様に、ベルギーの 2014 年のデータには、公共部門の事故に関する情報が初めて含まれており、これも事故の報告数の増加につながりました。</p> <p>2016 年には、ギリシャのデータでは、方法論上の問題から国家統計局によって一部の補正係数が削除されたため、基準年である 2014 年に報告された事故件数が非常に減少しました（2013 年と比較して）。</p> <p>2016 年には、方法論上の問題から国家統計局によってギリシャのデータから今後数年のうちに、より完全なギリシャのデータセットが入手され、再び報告された事故件数が増加することが期待されています。最後に、2014 年基準年の非死亡事故に関するオランダ及びノルウェーのデータ（後者は EU-27 の合計に含まれていません。）は、方法論的な問題のために大幅な減少を示しました。ベルギー、ギリシャ、フランス、オランダ及びフィンランドのデータを EU-27 の合計から除外した場合には、2013 年と 2014 年の事故総数の推移はほとんど変わりません（1.3%減の小幅な減少）。</p>
---	--



<p><b>Context</b></p> <p>A safe, healthy working environment is a crucial factor in an individual's quality of life and is also a collective concern. Governments in the EU Member States recognise the social and economic benefits of better health and safety at work. Reliable, comparable, up-to-date statistical information is vital for setting policy objectives and adopting suitable policy measures and preventative actions.</p> <p>The Treaty on the Functioning of the European Union (Article 153) states that '[...] the Union shall support and complement the activities of the Member States in the following fields: (a) improvement in particular of the working environment to protect workers' health and safety; [...]'].</p> <p>The main principles governing the protection of workers' health and safety are laid down in a 1989 framework Directive (89/391/EEC), the basic objective of which is to encourage improvements in occupational health and safety. All sectors of activity, both public and private, are covered by this legislation, which establishes the principle that the employer has a duty to ensure workers' health and safety in all aspects relating to work, while the worker has an obligation to follow the employer's health and safety instructions and report potential dangers.</p> <p>Within this field, the European Commission's policy agenda for the period</p>	<p><b>文脈</b></p> <p>安全で健康的な職場環境は、個人の生活の質を左右する重要な要素であり、集団の関心事でもあります。</p> <p>EU 加盟国の政府は、職場での健康及び安全の向上が社会的及び経済的な利益をもたらすことを認識しています。</p> <p>信頼できる比較可能な最新の統計情報は、政策目標を設定し、適切な政策措置や予防措置を採用するために不可欠です。</p> <p>欧州連合の機能に関する条約（第 153 条）では、「連合は、以下の分野における加盟国の活動を支援し、補完しなければならない。(a) 労働者の健康と安全を守るための、特に労働環境の改善」と規定しています。</p> <p>労働者の健康及び安全の保護に関する主な原則は、1989 年の枠組み指令（89/391/EEC）に定められており、その基本的な目的は労働安全衛生の改善を奨励することにあります。</p> <p>この法律は、官民を問わずすべての活動分野が対象となっており、使用者は作業に関するあらゆる面で労働者の健康及び安全を確保する義務があり、労働者は使用者の健康及び安全に関する指示に従い、潜在的な危険を報告する義務があるという原則を定めています。</p> <p>この分野では、2014 年から 2020 年までの欧州委員会の政策課題が</p>
---	---

<p>2014-2020 was set out in the Communication EU strategic framework on health and safety at work for 2014-2020 (COM(2014) 332 final), which outlined three major challenges: to improve implementation of existing health and safety rules; to improve the prevention of work-related diseases by tackling new and emerging risks without neglecting existing risks; to take account of the ageing of the EU's workforce. This framework is designed to ensure that the EU continues to play a leading role in the promotion of high standards for working conditions within Europe (as well as wider afield).</p> <p>The framework put forward a range of actions under seven key strategic objectives, one of which was to improve statistical data collection to have better evidence and to develop monitoring tools. In this context, the Communication noted that it is important for evidence-based policymaking to collect reliable, timely and comparable statistical data on work-related accidents and diseases, occupational exposures, work-related ill-health, and to analyse the costs and benefits in the area of occupational safety and health. Specifically, the Communication proposed the following action directly related to accident at work statistics: assess the quality of data transmitted by EU Member States in the framework of the European statistics on accidents at work data collection, with the aim of improving</p>	<p>「Communication EU strategic framework on health and safety at work for 2014-2020 (職場における健康及び安全に関する欧州連合の戦略的枠組みの伝達 : COM(2014)332 final)」に示されており、3つの主要な課題、すなわち、既存の安全衛生規則の実施を改善すること、既存のリスクを軽視することなく新たなリスクに取り組むことで業務上疾病の予防を改善すること、EUの労働力の高齢化を考慮すること、が挙げられています。この枠組みは、EUが欧州内（及び海外）における労働条件の高水準化を推進する上で主導的な役割を果たし続けることを目的としています。</p> <p>このフレームワークでは、7つの重要な戦略目標のもと、さまざまな行動が打ち出されていますが、その中の1つに「より良い証拠を得るために統計データの収集を改善し、モニタリングツールを開発する。」というものがあります。これに関連して、このコミュニケーションは、労働安全衛生の分野において、作業関連の事故及び病気、職業ばく露、作業関連の病気に関する信頼性の高い、タイムリーで比較可能な統計データを収集し、コスト及び利益を分析することが、エビデンスに基づく政策立案にとって重要であると指摘しています。</p> <p>具体的には、このコミュニケーションでは、労働災害統計に直接関連する以下の行動を提案しています。対象範囲、信頼性、比較可能性及び適時性を向上させる目的で、欧州労働災害統計の枠組みの中でEU加盟国が送信するデータの質を評価すること。</p>
--	---

<p>coverage, reliability, comparability and timeliness.</p> <p>At the time of writing, the COVID-19 pandemic was highlighting the crucial importance of health policy, including health and safety at work. The European Commission is working towards updating its strategic policy orientations that will contribute to the improvement of the health and safety of workers across Europe during the period 2021-2027. This is particularly important with respect to a new set of risks, such as those resulting from new ways of working, new technologies and digitalisation, or the impact of the COVID-19 pandemic and associated containment measures, alongside more traditional concerns, such as exposure to dangerous substances and the risk of accidents at work. The EU's strategic framework on health and safety at work (2021-2027) is currently under development and is expected to be adopted in the second quarter of 2021.</p>	<p>本稿執筆時点では、COVID-19 のパンデミックにより、労働における安全衛生を含む健康政策の極めて重要性が強調されていました。</p> <p>欧州委員会は、2021 年から 2027 年までの期間に、欧州全体の労働者の健康及び安全の向上に貢献する戦略的な政策方針の更新に向けて取り組んでいます。これは、危険物質へのばく露及び職場での事故のリスクといった従来からの懸念に加え、新しい働き方、新技術、デジタル化、又は COVID-19 パンデミックの影響とそれに伴う封じ込め対策といった新たなリスクに関して、特に重要です。</p> <p>現在、EU の職場の安全衛生に関する戦略的枠組み（2021-2027 年）が策定されており、2021 年の第 2 四半期に採択される予定です。</p>
---	--

<p>Direct access to</p> <p>Other articles</p> <p>Database</p> <p>Dedicated section</p> <p>Methodology</p>	<p>(資料作成者注：以下の左欄の日本語仮訳は、省略しました。)</p>
---	--------------------------------------

External links	
----------------	--

<p><a href="#">Categories:</a></p> <p><a href="#">Accidents at work</a></p> <p><a href="#">Health</a></p> <p><a href="#">Health and safety</a></p> <p><a href="#">Labour market</a></p> <p><a href="#">Statistical article</a></p>	
--	--

<p>This page was last edited on 26 November 2020, at 16:06.</p> <p><a href="#">3 watching users</a></p> <p><a href="#">Privacy policy</a></p> <p><a href="#">About Statistics Explained</a></p> <p><a href="#">Disclaimers</a></p>	
--	--

#### IV—4 Eurostat の“Health and safety at work(hsw)”における最新の死亡及び休業災害統計（2021 年 6 月 9 日公表）について

##### IV—4—1 Eurostat の最新の死亡災害統計

Fatal Accidents at work by NACE Rev. 2 activity（欧州標準産業分類改訂第 2 版による死亡災害）

Last update: 9.06.21（最終更新日：2021 年 6 月 9 日。（以下同じであり、日本語仮訳は省略します。））

Source of data: Eurostat（資料出所：欧州統計局。（以下同じであり、日本語仮訳は省略します。））

##### IV—4—1—1 UNIT: Number(死亡災害：単位：人数)

NACE\_R2: Total - all NACE activities（欧州標準産業分類改訂第 2 版の全産業合計）

○Fatal Accidents at work by NACE Rev. 2 activity（欧州標準産業分類改訂第 2 版の業種分類における全産業合計（公務従事者を含む。）死亡災害統計。以下同じですので、日本語仮訳は省略します。）

Last update: 09.06.21（最終更新日：2021 年 6 月 9 日。以下同じですので、日本語仮訳は省略します。）

Source of data: Eurostat（資料出所：欧州統計局。以下同じですので、日本語仮訳は省略します。）

**OUNIT:** Number(単位:被災者数)

**NACE\_R2:** Total - all NACE activities

European Union - 27 countries (from 2020) (2020 年 1 月 31 日の英国の EU 離脱後の 27 か国の合計。以下同じ。)	3,562	3,643	3,336	3,272	3,332	:
European Union - 28 countries (2013-2020)	3,801	3,903	3,588	3,552	3,581	:

(2020 年 1 月 31 日の英国の EU 離脱後ではあるが、英国を含む 28 か国の合計。以下同じ。)						
Belgium	52 (b)	64	64	59	77	:
Bulgaria	117	95	81	93	87	85
Czechia	118	132	106	95	123	:
Denmark	38	28	34	28	37	:
Germany (until 1990 former territory of the FRG)	527	477	450	430	397	416
Estonia	16	17	26	8	12	:
Ireland	47	49	43	41	34	:
Greece	28 (b)	28	33	32	37	:
Spain	280	344	296	317	323	347 (b)
France	589 (b)	595	595	585 (b)	615	:
Croatia	26	30	33	37	44	:
Italy	522	543	481	484	523	:
Cyprus	5	4	5	2	9	10

Latvia	41	26	38	21	30	:
Lithuania	55	45	44	33	37	37
Luxembourg	10	13	22	10	16	:
Hungary	81	86	83	80	79	:
Malta	4	5	7	1	4	:
Netherlands	45(b)	35	36	43	45	:
Austria	126	134	109	96	124	106
Poland	263	304	243	270	211	:
Portugal	160	161	138	140	103	:
Romania	272	281	236	241	235	:
Slovenia	25	23	14	16	15	:
Slovakia	40	55	45	43	40	:
Finland	35	35	35	23	25	:
Sweden	40	34	37	44	50	36

Iceland	:	:	:	:	:	:
Norway	61 (b)	40	45	44	37	:
Switzerland	74	53	79	37	51	:
United Kingdom	239	260	252	280	249	:
<b>TIME</b>	<b>2014</b>	<b>2015</b>	<b>2016</b>	<b>2017</b>	<b>2018</b>	<b>2019</b>
<b>GEO</b>						

Available flags:

**b** break in time series

**c** confidential

**d** definition differs, see metadata

**e** estimated

**f** forecast

**n** not significant

**p** provisional

**r** revised

**s** Eurostat estimate

**u** low reliability

**z** not applicable

Special value:

: not available

IV—4—1—2 死亡災害発生率：被雇用者 100,000 人当たりの発生数（人数）

**UNIT: Incidence rate**（死亡災害発生率：被雇用者 **100,000** 人当たりの発生数（人数）。以下同じ。）

**NACE\_R2: Total - all NACE activities**（死亡災害。欧州標準産業分類改訂第2版における全産業合計。以下同じですので、日本語仮訳は省略します。）



European Union - 27 countries (from 2020)	2	2.01	1.84	1.79	1.77	:
European Union - 28 countries (2013-2020)	1.83	1.83	1.69	1.65	1.63	:
Belgium	1.28 (b)	1.41	1.8	1.68	1.91	:
Bulgaria	4.45	3.57	3	3.4	3.14	3.37
Czechia	2.37	2.76	2.07	1.82	2.59	:
Denmark	1.4	1.02	1.23	0.92	1.28	:
Germany (until 1990 former territory of the FRG)	1.15	1.02	0.96	0.89	0.78	0.79
Estonia	2.56	2.93	4.45	1.21	1.81	:
Ireland	2.46	2.51	2.14	1.87	1.51	:
Greece	0.79 (b)	1.19	1.29	1.22	0.97	:
Spain	1.93	2.3	1.92	1.99	1.96	1.78 (b)
France	2.7 (b)	2.57	2.74	2.64 (b)	2.74	:
Croatia	1.94	2.16	2.37	2.63	3.04	:
Italy	2.34	2.42	2.11	2.1	2.25	:

Cyprus	1.74	1.29	1.4	0.54	2.29	2.45
Latvia	4.5	3.32	4.22	2.29	3.27	:
Lithuania	4.74	3.84	3.69	2.77	3.05	3.01
Luxembourg	2.55	3.3	6.32	2.74	4.22	:
Hungary	2.22	2.29	2.14	2.01	1.97	:
Malta	2.2	2.69	3.65	0.45	1.68	:
Netherlands	0.64(b)	0.5	0.5	0.59	0.6	:
Austria	3.06	3.23	2.91	2.53	2.87	2.46
Poland	1.75	1.89	1.54	2	1.56	:
Portugal	3.56	3.54	3	2.94	2.12	:
Romania	5.5	5.56	4.52	4.49	4.33	:
Slovenia	3.09	2.79	1.65	1.85	1.67	:
Slovakia	1.69	2.67	2.13	2	1.83	:
Finland	1.44	1.44	1.43	0.93	0.99	:

Sweden	0.87	0.73	0.77	0.9	1.01	0.72
Iceland	:	:	:	:	:	:
Norway	1.71 (b)	1.48	1.66	1.59	1.31	:
Switzerland	1.91	1.34	1.97	0.91	1.24	:
United Kingdom	0.81	0.83	0.8	0.88	0.78	:
<b>TIME</b>	<b>2014</b>	<b>2015</b>	<b>2016</b>	<b>2017</b>	<b>2018</b>	<b>2019</b>
<b>GEO</b>						

Available flags:

**b** break in time series

**c** confidential

**d** definition differs, see metadata

**e** estimated

**f** forecast

**n** not significant

**p** provisional

**r** revised

**s** Eurostat estimate

**u** low reliability

**z** not applicable

Special value:

: not available

○参考 1 EU 主要国と日本の死亡災害発生率の推移（2014-2018 年。労働者 10 万人当たりの死亡災害発生率）

（資料作成者注：日本以外は、2019 年及び 2020 年の関連するデータは、未公表である。）

GEO/TIME	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
フランス	2.7(b)	2.57	2.74	2.64(b)	2.64	—	—

日本	2.11	1.92	1.80	1.87	1.69	1.56	1.49
欧州連合 - 28 カ国 (2013－2018)	1.83	1.83	1.69	1.65	1.63	—	—
ドイツ	1.15	1.02	0.96	0.89	0.78	—	—
イギリス	0.81	0.83	0.8	0.88	0.78	—	—
オランダ	0.64(b)	0.5	0.5	0.59	0.6	—	—

※EU 統計データ出所: Eurostat

※日本の死亡災害発生率: 中災防試算

IV－4－2 Non-fatal accidents at work by NACE Rev. 2 activity and sex（欧州標準産業分類改訂第 2 版による全産業合計（公務従事者を含む。）非致命的な労働災害統計（休業 4 暦日以上のもの）。以下同じ。）

Last update: 09.06.21（最終更新日: 2021 年 6 月 9 日）

Source of data: Eurostat

IV－4－2－1 Non-fatal accidents at work by NACE Rev. 2 activity and sex（欧州標準産業分類改訂第 2 版による全産業合計（公務従事者を含む。）非致命的な労働災害統計（休業 4 暦日以上のもの）の発生数（人数）

**OUNIT:** Number(単位: 人数。(休業 4 暦日以上のもの) )

**NACE\_R2:** Total - all NACE activities

**SEX: Total(男女計)**

European Union - 27 countries (from 2020)	3,031,648	3,030,077	3,112,736	3,116,691	3,124,828	:
European Union - 28 countries (2013-2020)	3,276,596	3,267,085	3,339,900	3,342,349	3,345,812	:
Belgium	65,587 (b)	63,863	70,674	70,895	72,059	:
Bulgaria	2,246	2,290	2,188	2,230	2,255	2,162
Czechia	42,306	42,629	45,282	45,009	44,241	:
Denmark	54,157	50,282	49,439	48,842	50,185	:
Germany (until 1990 former territory of the FRG)	902,892	899,670	917,851	878,525	877,501	867,533
Estonia	6,288	6,296	6,354	6,279	6,230	:
Ireland	18,115	16,681	14,088	22,125	18,090	:
Greece	3,410 (b)	3,749	3,987	4,223	4,493	:
Spain	387,439	413,756	432,052	453,437	465,227	489,643 (b)
France	724,662 (b)	731,120	749,670	753,156 (b)	771,837	:
Croatia	11,669	13,145	13,263	14,164	12,047	:

Italy	313,312	295,162	295,967	294,161	291,503	:
Cyprus	1,613	1,592	1,900	2,068	2,147	2,158
Latvia	1,725	1,709	1,810	1,895	2,168	:
Lithuania	3,120	3,287	3,541	3,977	3,834	4,666
Luxembourg	7,183	7,359	7,152	6,684	7,315	:
Hungary	19,491	20,846	27,434	25,470	23,510	:
Malta	2,632	2,289	1,818	1,846	2,001	:
Netherlands	87,964 (b)	72,829	81,165	93,305	91,179	:
Austria	65,418	61,227	62,902	61,868	63,229	60,909
Poland	76,274	81,880	84,037	84,388	77,949	:
Portugal	130,153	134,378	135,033	135,488	130,434	:
Romania	3,396	3,913	4,188	4,491	4,623	:
Slovenia	12,314	12,448	12,162	13,288	13,126	:
Slovakia	8,552	9,247	9,814	10,091	10,145	:

Finland	44,434	42,069	41,106	42,025	41,038	:
Sweden	35,296	36,362	37,858	36,761	36,457	40,684
Iceland	:	:	:	:	:	:
Norway	10,108 (b)	10,785	10,150	10,004	10,525	:
Switzerland	86,346	85,655	87,386	89,224	92,890	:
United Kingdom	244,948	237,008	227,165	225,658	220,985	:
<b>TIME</b> <b>GEO</b>	<b>2014</b>	<b>2015</b>	<b>2016</b>	<b>2017</b>	<b>2018</b>	<b>2019</b>

Available flags:

**b** break in time series

**c** confidential

**d** definition differs, see metadata

**e** estimated

**f** forecast

**n** not significant

**p** provisional

**r** revised

**s** Eurostat estimate

**u** low reliability

**z** not applicable

Special value:

: not available

IV—4—2—2 Non-fatal accidents at work by NACE Rev. 2 activity and sex（欧州標準産業分類改訂第2版による全産業合計（公務従事者を含む。）非致命的な労働災害統計（休業4暦日以上のもの）の労働者100,000人当たりの発生率

**OUNIT:** Incidence rate (発生率:休業4 暦日以上の災害。))

**NACE\_R2:** Total - all NACE activities

**SEX:** Total

European Union - 27 countries (from 2020)	1,706.46	1,668.02	1,718.32	1,703.77	1,659.09	:
European Union - 28 countries (2013-2020)	1,580.87	1,535.09	1,570.84	1,556.86	1,518.78	:
Belgium	1,616.57 (b)	1,403.08	1,990.4	2,015.6	1,789.5	:
Bulgaria	85.34	86.12	81.11	81.51	81.28	85.59
Czechia	850.49	890.14	885.75	862.15	932.01	:
Denmark	1,995.4	1,827.08	1,782.44	1,608.2	1,732.93	:
Germany (until 1990 former territory of the FRG)	1,977.31	1,930.57	1,950.91	1,819.55	1,721.56	1,650.78
Estonia	1,006.42	1,083.74	1,088.26	953.39	937.12	:
Ireland	946.49	855.85	702.61	1,008.38	801.34	:
Greece	96.43 (b)	159.63	155.44	161.09	117.37	:
Spain	2,665.36	2,767.5	2,807.18	2,842.41	2,823.92	2,513.23 (b)
France	3,326.98 (b)	3,160.29	3,458.28	3,395.93 (b)	3,444.79	:



Croatia	869.77	948.55	954.18	1,006.85	832.12	:
Italy	1,406.31	1,313.89	1,300.51	1,277.69	1,255.67	:
Cyprus	560.07	514.53	531.24	553.94	547.47	528.41
Latvia	189.13	218.33	201.16	207.06	236.47	:
Lithuania	269.11	280.67	296.7	333.6	315.73	379.49
Luxembourg	1,831.64	1,865.72	2,055.41	1,833.22	1,929.55	:
Hungary	534.06	554.65	706.9	640.44	587.18	:
Malta	1,448.56	1,231.31	947.48	837.45	839.61	:
Netherlands	1,255.55 (b)	1,032.3	1,134	1,284.13	1,217.93	:
Austria	1,590.64	1,475.96	1,678.71	1,630.08	1,463.97	1,415.06
Poland	507.02	509.08	532.04	625.19	575.79	:
Portugal	2,892.6	2,954.23	2,932.15	2,848.41	2,680.15	:
Romania	68.69	77.38	80.17	83.6	85.2	:
Slovenia	1,520.35	1,511.55	1,431.14	1,534.73	1,460.6	:

Slovakia	361.9	449.73	465.04	470.41	463.74	:
Finland	1,824.43	1,726.39	1,676.29	1,699	1,624.08	:
Sweden	767.07	777.19	791.21	753.28	739.97	814.14
Iceland	:	:	:	:	:	:
Norway	283.42 (b)	397.74	373.85	361.36	372.49	:
Switzerland	2,224.31	2,160.39	2,178.75	2,200.53	2,267.3	:
United Kingdom	827.27	760.37	721.87	710.6	691.65	:
<b>TIME</b> <b>GEO</b>	<b>2014</b>	<b>2015</b>	<b>2016</b>	<b>2017</b>	<b>2018</b>	<b>2019</b>

Available flags:

**b** break in time series

**c** confidential

**d** definition differs, see metadata

**e** estimated

**f** forecast

**n** not significant

**p** provisional

**r** revised

**s** Eurostat estimate

**u** low reliability

**z** not applicable

Special value:

: not available

※EU 統計データ出所: Eurostat

※日本の死亡災害発生率: 中災防試算

(○参考 2) 非致命的な労働災害（休業 4 暦日以上）の発生率に関する日本及びアメリカ合衆国並びに英国、EU 加盟国全体、EU 加盟諸国のうちドイツ、スペイン、フランス、イタリア、オランダ及びポーランドとの比較について

このような比較を行うのは、日本、アメリカ合衆国、英国並びに EU(欧州連合)、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、ポーランド及びオランダの労働災害統計の基本となるデータの特質、統計の対象となる被雇用者の範囲、公務及び国防・義務的社会保障事業従事者の取扱い等が必ずしも同一のものではないことから、一定の困難を伴う。しかしながら、このような条件の下でもこれらの諸国及び EU との労働災害発生率等（EU の主要国のデータについては 2020 年 8 月 18 日に Eurostat が公表したデータで再確認してあります。）を比較することには、一定の意味があると考えられる。

そこで、当国際センターが従来作成してきた関係資料、今回作成した資料等から抜粋して、次の資料を作成した。

国別	統計の対象年 (年度)	労働災害統計の指標の種類及び関係するデータ	左欄の指標に関する留意事項	資料出所														
日本	2014－2018 年	<div>日本における全産業死傷年千人率の推移 (休業 4 日以上及び死亡傷害が対象)</div> <table><tr><th>暦年</th><th>死傷年千人率</th></tr><tr><td>2014 年（平成 26 年）</td><td>2.3</td></tr><tr><td>2015 年（平成 27 年）</td><td>2.2</td></tr><tr><td>2016 年（平成 28 年）</td><td>2.2</td></tr><tr><td>2017 年（平成 29 年）</td><td>2.2</td></tr><tr><td>2018 年（平成 30 年）</td><td>2.3</td></tr><tr><td>2019 年（平成 31 年・令和元年）</td><td>2.2</td></tr></table>	暦年	死傷年千人率	2014 年（平成 26 年）	2.3	2015 年（平成 27 年）	2.2	2016 年（平成 28 年）	2.2	2017 年（平成 29 年）	2.2	2018 年（平成 30 年）	2.3	2019 年（平成 31 年・令和元年）	2.2	<ul style="list-style-type: none"><li>労働安全衛生法に基づく報告義務のない公務従事者は、除外されている。</li><li>道路交通災害を含む。</li></ul>	労働者死傷病報告、総務省労働力調査に基づく厚生労働省公表資料
暦年	死傷年千人率																	
2014 年（平成 26 年）	2.3																	
2015 年（平成 27 年）	2.2																	
2016 年（平成 28 年）	2.2																	
2017 年（平成 29 年）	2.2																	
2018 年（平成 30 年）	2.3																	
2019 年（平成 31 年・令和元年）	2.2																	

アメリカ合衆国	2015 年	「民間産業では、2015 年の 10,000 人のフルタイム労働者当たりの発生件数は、93.9 件（年千人率に換算すると 9.39）で、2014 年の 97.8 件（年千人率に換算すると 9.78）よりは減少した。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>左欄の①では公務従事者（アメリカ合衆国内の軍関係者を含む。）が含まれている。</li> <li>いずれも道路交通災害を含む。</li> </ul>	アメリカ合衆国労働統計局 (Bureau of labor Statistics)
	2016 年	「2016 年には、民間産業の使用者によって報告されたおおよそ 290 万件の非致死の傷害及び（職業性）疾病があった。これらの発生率は、100 人のフルタイム換算労働者当たり 2.9 件（1000 人のフルタイム換算労働者に換算すると 29）の発生率であった。」とされている。このことと日本の相当するデータを比較すると、2016 年における日本の労働者死傷病報告を基礎とする年千人率（日本の場合は休業 4 日以上災害で死亡災害を含んでいる。）は、2014 年、2015 年とも 2.3、2016 年にあっては 2.2 である。したがって、アメリカ合衆国における労働災害発生率は休業 1 日以上のもを対象にしていること、危険性の低い業種を除外していること等を考慮に入れても、日本の休業 4 日以上及び死亡災害を対象としている発生率よりは高いと考えられる。		
	2017 年			

	2018 年	<p>「民間の使用者によって 2017 年に報告された非致死的な職場における負傷及び疾病は、おおよそ 280 万の負傷及び疾病があつて、その発生率は、フルタイム換算 (FTE) 労働者 100 人当たり 2.8 件 (1000 人のフルタイム換算労働者に換算すると 28) の発生率であつた。」とされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 民間産業の使用者によって 2018 年 (暦年) に報告された非致死的な職場における負傷及び疾病 (休業 1 日以上のもの) は、おおよそ 280 万の負傷及び疾病があつて、2017 年と変化していませんでした。これらのデータは、労働傷害及び疾病調査 (the Survey of Occupational Injuries and Illnesses (SOII)) からの推計です。</li> <li>● 民間産業における記録されたケースの合計 (total recordable cases (TRC)) の労働災害発生率は、フルタイム換算 (FTE) 労働者 100 人当たりでは 2017 年の 2.8 件 (1000 人のフルタイム換算労働者に換算すると 28) と変化していませんでした。</li> </ul> <p>このことと日本の相当するデータを比較すると、2016 年における日本の労働者死傷病報告を基礎とする年千</p>		
--	--------	---	--	--

		人率（日本の場合は休業 4 日以上災害で死亡災害を含んでいる。）は、2014 年は 2.3、2015 年、2016 年及び 2017 年にあっては 2.2、2018 年では 2.3 である。したがって、アメリカ合衆国における労働災害発生率は休業 1 日以上のもをを対象にしていること、危険性の低い業種を除外していること等を考慮に入れても、日本の休業 4 日以上及び死亡災害を対象としている発生率よりは高いと考えられる。		
<b>EU 加盟 28 国全体（英国のものが含まれている。）</b>	2014 年 2015 年 2016 年 2017 年 2018 年	非致死的な災害についての雇用者 10 万人当たりの発生数（つまり発生率） 1580.87（年千人率に換算すると、15.8） 1535.09（同上 15.4） 1570.84（同上 15.7） 1556.86（同上 15.6） 1518.78（同上 15.2）		Eurostat（欧州統計局） 2021 年 6 月 9 日更新版
<b>英国</b>	2014 年  2015 年 2016 年	非致死的な災害についての雇用者 10 万人当たりの発生数（つまり発生率） 827.27（年千人率に換算すると約 8.27） 760.37（同上。 約 7.60） 721.87（同上。 約 7.22）	<ul style="list-style-type: none"> <li>休業 4 暦日以上のもが対象である。</li> <li>通勤災害は、除外されている。</li> <li>英国の HSE が公表する統</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>European Statistics on Accidents at Work (略称：ESAW), Eurostat (<a href="#">hsw_n2_01</a>) (2021 年 6 月</li> </ul>

	2017 年	710.6 (同上。約 7.11)	計では、道路交通災害は除外されているが、European Statistics on Accidents at Work (略称：ESAW)では対象に含まれている。	9 日更新版) • European Statistics on Accidents at Work, (ESAW), Summary methodology, 2013 edition
	2018 年	691.65 (同上。約 6.92)		
ドイツ	2014 年	1977.31 (同上。約 19.8)		
	2015 年	1930.57 (同上。約 19.3)		
	2016 年	1950.91 (同上。約 19.5)		
	2017 年	1819.55 (同上。約 18.2)		
	2018 年	1721.56 (同上約 16.5)		
フランス	2014 年	3326.98(2014 年は時系列的な断絶がある。 同上約 33.3)		
	2015 年	3160.29 (同上。約 31.6)		
	2016 年	3458.28 (同上。約 34.6)		
	2017 年	3395.93 (同上。2017 年は時系列的な断絶がある。約		
	2018 年	3444.79 (同上約 34.4)		
イタリア	2014 年	1406.31 (同上。約 14.1)		
	2015 年	1313.89 (同上。約 13.1)		
	2016 年	1300.51 (同上。約 13.0)		
	2017 年	1277.69 (同上。約 12.8)		
	2018 年	1255.67 (同上約 12.6)		
スペイン	2013 年	2580.57 (同上。約 25.8)		

	2014 年	2665.36（同上。	約 26.7)		
	2015 年	2767.5（同上。	約 27.7)		
	2016 年	2807.18（同上。	約 28.1)		
	2017 年	2842.41（同上。	約 28.4)		
	2018 年	2823.92（同上	約 28.2)		
ポーランド	2013 年	512.23(同上。	約 5.12)		
	2014 年	507.02（同上。	約 5.07)		
	2015 年	509.08（同上。	約 5.10)		
	2016 年	532.04（同上。	約 5.32)		
	2017 年	625.19（同上。	約 6.25)		
	2018 年	575.79（同上	約 5.76)		
オランダ	2014 年	1255.55(2014 年は時系列的な不連続がある。同上。			
		約 12.56)			
	2015 年	1032.3（同上。	約 10.32)		
	2016 年	1134（同上。	約 11.34)		
	2017 年	1284.13（同上。	約 12.84)		
	2018 年	1217.93（同上。	約 12.2)		

◎以上の結果から、EU 主要国の休業 4 暦日以上の労働災害発生率（労働者 10 万人当たり）は、いずれも日本の相当するデータよりはかなり高くなって